



# TOP MESSAGE

## トップメッセージ

想定を遥かに越えた自然の脅威を目の当たりにした2011年3月11日。それから日本と世界が見つめた特別な1年が過ぎようとしている。日本ライフセービング協会においての2011年度は、協会設立20周年となる節目の年であった。

私は2011年5月に、ベトナムで開催された溺水事故防止国際会議にてスピーチの機会が与えられた。溺死・溺水を専門とする研究者や世界のライフセーバーである友人達へ、日本のライフセービング活動を牽引する者として、東日本大震災を通じた哀悼と、各国からのお見舞い、ご支援への感謝を述べながら、日本人としてライフセービングに携わる事の意味を問うていた。

そんな年度始めを迎えながら、一人のライフセーバーとして、水辺の事故ゼロを目指すことへの根幹を追求する徹底した活動指針の見直しに至った。何より急務としたのは、ライフセービングを通じた社会貢献活動が、水辺の事故の未然防止や自然災害からの減災に繋がる事と、自らが生きる力を身につけるシステムを具現化することであった。つまり防災教育による知識・技術の地道な育みが犠牲者を限りなく少なくできるということを確認したのである。

2011年度からスタートしたJLAアカデミーは、単なるライフセービング資格体系のリニューアルではなく、先に述べた国民一人一人への防災教育へ徹底的に取り組む画期的な前進である。これまでの救助する側の資格だけでなく、自助(セルフレスキュー)できる者の育成に踏み込んだものであることを強調したい。

昨年の暮れには、初代理事長・金子邦親氏が永眠されるといふ悲しみがあつた。どなたに対しても常に温かくフェアであられた金子氏の普遍的な精神は、様々な形で受け継がれていくことであろう。

そのひとつがJLAアカデミーであり、指導者が知識や技術を伝達すること、それらを取りまとめる各支部の全国展開が、水辺の事故ゼロを加速させることを願う。全国のライフセーバーの皆さんが活動した軌跡は、各所、各方面で、関係諸機関の協力、提携とともにその結果や情報が収集され、データや学術論文となって報告されている。これら収集された情報を公開することが次の課題を示すと信じて止まない。ライフセービングを通じて社会、世界へ情報を公開することが、必ず水辺の事故ゼロの実現を導くものとして、本年度もアニュアルレポートを発刊する。

結びに日本ライフセービング協会の会員の皆様、ライフセービング活動にご支援頂けているすべての皆様に心より感謝申し上げます。

2012年3月31日  
日本ライフセービング協会  
理事長 小峯 力

It has been almost a year since March 11th, 2011, a day when the entire world witnessed a natural threat far beyond what anyone could have imagined. These events made the year a particularly memorable one for the world's people—and during that same year, the Japan Lifesaving Association marked the twentieth year since its foundation.

In May 2011, I had an opportunity to give a speech at the World Conference on Drowning Prevention held in Vietnam. As a leader for Japan's lifesaving activities, I expressed my gratitude for the sympathy, condolences, and support for the people affected by the disaster that followed the Great East Japan Earthquake. The audience was not only a group of researchers who specialized in drowning and near drowning—they were friends of mine who work as lifesavers around the world. During the event, I began to question the significance of being involved in lifesaving activities as a Japanese citizen.

The 2012 fiscal year has begun to answer my questions. Through this experience, I decided to thoroughly review the guidelines that form the backbone of our activities aimed at achieving zero water accidents from the perspective of lifesavers. As a result of these efforts, top priority was placed on preventing water accidents and reducing the damage caused by natural disasters by promoting social action programs involving lifesaving activities and by establishing a system to teach people survival skills. In other words, I had become convinced that steady efforts to accumulate knowledge and techniques through disaster prevention education would minimize the number of victims.

In this context, the JLA Academy which started in 2011 is a landmark in our commitment to education to each and every citizen on Disaster Preparedness. I emphasize that the academy is moving forward with a system to train persons who can rescue themselves, in addition to offering qualifications to those who are involved in rescuing others.

At the end of 2011, we suffered a major loss—Mr. Kunichika Kaneko, the first chairman for JLA, passed away. His bighearted commitment to treating everyone fairly and establishing warm relationships will be passed along by everyone who knew him in their own way.

The JLA Academy is one of the legacies of Mr. Kaneko's spirit. I hope the leaders of the organization will impart lifesaving knowledge and techniques while spreading lifesaving activities through JLA local offices. These efforts will bring us closer to our goal of achieving zero water accidents. Their results, as well as information on lifesaving activities by lifesavers throughout Japan are being collected and communicated to others in the form of data or academic papers with the help and collaboration of many players in a variety of locations and situations. I strongly believe that effectively disclosing the information we gather is one of our next big challenges.

We hereby issue the 2012 JLA annual report in the hopes of spreading information on lifesaving activities to a wide audience consisting of both our local communities and the world. It is our aim to be a driving force in the goal of zero water accidents.

In conclusion, I would like to express my sincere gratitude to the Japan Lifesaving Association members and everyone who has offered their kind support to our lifesaving activities.

March 31st, 2012  
Tsutomu Komine  
President, Japan Lifesaving Association

who can't swim.



# About LIFESAVING

## ライフセービングとは

「LIFESAVING(以下、ライフセービング)」とは、“人命救助”を表す言葉として一般的に理解されています。救急救命士の欧文表記は「Emergency Lifesaving Technician」、または「Emergency Medical Technician」であるため、正確に言い表すのであれば、“救命”と訳すのがよいのでしょうか。

諸外国におけるライフセービングは、一次救命を本旨とした社会的活動であり、一般的には水辺の事故防止のための実践活動として認識されています。その活動にたずさわる存在は「LIFESAVER(以下、ライフセーバー)」と呼ばれ、社会的市民権を得ています。さらに、「LIFEGUARD(以下、ライフガード)」はプロフェッショナルな公務員として採用され、コーストガード(海上保安庁)、警察、消防といった公的救助組織と連携を図っています。

一方、わが国におけるライフセーバーは、有資格者を指すこともあります。

しかし、ライフセーバーは、ボランティア活動を基本とし、いわゆるプレホスピタルケア(病院前)の

範囲において、自他の生命を尊重する社会貢献を展開するものであることから、誰でも参加できる活動です。たとえ泳げなかったり、身体的ハンディがあろうとも、社会奉仕と生命尊厳の精神に基づき、その活動は否定されるものではありません。

以上のように、ライフセービングは、「溺れた者を救う」という救助活動から、溺れない安心な環境をマネジメントすること、さらには日常生活の危機管理も含めて総合的に安全を提供できる活動として世界中で普及されています。

今日、日本では心肺停止状態の人を発見した場合、医療従事者でなくても、一般市民が自ら早期に体外式除細動器(AED)等を使用し心肺蘇生法を実施して人の生命を救う、バイスタンダーという概念の普及が叫ばれるようになりました。

まさに、そのバイスタンダーになり命を救う、さらには命を危険にさらさない(事前を守る)というライフセービング活動に大きな期待が寄せられています。

### Contents

トップメッセージ	1
ライフセービングとは	2
日本ライフセービング協会	3
組織概要およびメンバー	5
会員数・登録クラブ	8
活動の海岸	9
パトロールログ&レスキューレポート	
2010-2011トピックス	11

資格講習会開催数&発行数	12
競技会開催	13
設立20年の歩み	15
特別会員表彰	19
助成事業・協力事業	20
津波シンポジウム	21
ライフセービング活動ガイドライン	24

溺水事故防止国際学会	25
RESCUE2010世界選手権	26
JLAハイパフォーマンスプログラム	27
ライフセーバーアワード	28
JLA ACADEMY	29
パートナーシップ一覧	30

# Japan Lifesaving Association

## 日本ライフセービング協会

### 水辺の事故ゼロを目指して

1991年に日本ライフガード協会と日本サーフライフセービング協会が統一し、「日本ライフセービング協会(初代理事長:金子邦親)」が設立されました。2001年に、これまでの任意団体としての役割を経て、内閣府特定非営利活動法人日本ライフセービング協会(理事長・小峯力)」として認証を受け、水辺の事故ゼロを目指し、「人と社会に変革をもたらす」法人として、「救命」「スポーツ」「教育」「環境」「福祉」(=JLAヒューマンチェーン)といった領域における生命尊厳の輪を普及していく社会貢献活動を行っています。

国際ライフセービング連盟の日本代表機関として国際的な視野から、海岸をはじめとする全国の水辺の環境保全、安全指導、監視・救助を行うライフセービング活動の普及および発展等に関する事業を行い、国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与することを目的としています。

これらを具体的に推進するため、総会・理事会・専門部・専門委員会・スーパーバイザー・支部・事務局といった組織体制を整え、全国のライフセーバーの活動サポートを行っています。また、ライフセービングのさらなる社会的認知の向上を目指し

た「JLAミッション」を掲げ、水辺の事故ゼロを目指して全国のメンバーとともにライフセービング活動の普及と発展に努めています。

### 事業概要

- ▶ ライフセービング活動に関する資格認定事業
- ▶ 青少年・児童に対する水辺の安全、教育事業
- ▶ ライフセービング競技事業
- ▶ ライフセービング活動に関する広報・啓蒙活動事業
- ▶ ライフセービング活動における国際交流事業
- ▶ 環境保全活動事業

### ILS

ILS (International Life Saving federation: 国際ライフセービング連盟) はヨーロッパの国々が中心となって、1878年に組織された国際連盟FIS (Federation International de Sauvetage aquatic) と、環太平洋の国々が中心となって、1971年に組織されたWLS (World Life Saving) が1993年に統一して設立されたライフセービングの唯一の国際連盟です。

加盟国は正会員・準会員・協力会員含め90カ国以上にのぼり、2年毎に開催される総会では、40万人といわれる水辺の事故を減らすための積極的な討議が行われています。2010年10月のRescue2010エジプト大

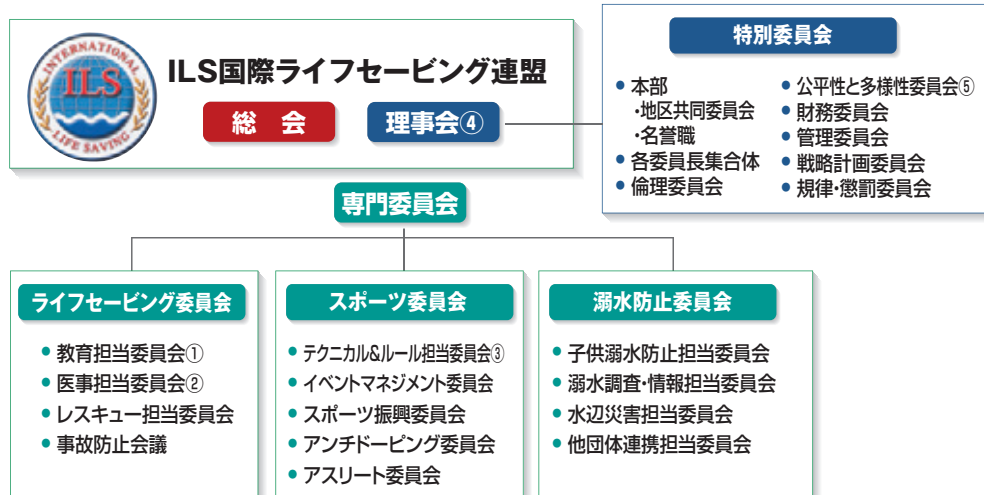


### ヒューマンチェーン

救助者同士の手首を互につかみ(人間の鎖)、水没した溺者を検索する方法です。

ライフセービング活動には「ライフセービングそのものを学び、活動していくこと」「ライフセービング活動によって獲得した生命の尊厳の精神をあらゆる分野に社会貢献していくこと」の二通りがあります。いずれも人間がテーマであり、人間が人間を救う・守ることを根底に、生命のあるものが生命を救う自然の摂理を崇めるという歴史の普遍性を獲得していく活動展開を表現したものです。





会では、定例総会が開催されました。日本ライフセービング協会はJLSの日本代表機関の正会員としてアジア太平洋地区に属しており、2012年3月現在4名が組織入りし、ライフセービングを通じた国際貢献に努めています。

## ILS専門委員会 参加メンバー

- JLA理事長／小峯 力  
⇒教育担当委員会①
- JLA救命部担当理事／中川儀英  
⇒医事担当委員会②
- JLA S級審判員／深山元良  
⇒テクニカル&ルール担当委員会③
- JLA国際広報事業委員長／相澤千春  
⇒ILS理事 (アジア太平洋地区代表) ④
- 公平性と多様性・特別委員会⑤

## 加盟・承認団体

- IOC (国際オリンピック委員会)
- Sports Accord  
(旧国際スポーツ競技連盟連合)
- ARISF  
(IOC認定国際スポーツ組織連盟)
- IWGA (国際ワールドゲームズ協会)
- CISM (国際軍人スポーツ評議会)

## 関連団体

- WHO (世界保健機関)
- ICRC (赤十字国際委員会)
- IFRC (国際赤十字・赤新月社連盟)

## 特別顧問

- カール16世 (スウェーデン国王)
- モスタファ・マーサリム (イラン文部大臣)
- チャールズ・ホーギー (元アイルランド首相)
- ブライアン・マルルーニー (元カナダ首相)
- デイブ・ウィリアムスMD (元宇宙飛行士)
- ネルソン・マンデラ (元南アフリカ大統領)
- ロバート・シ・ホーク (元オーストラリア首相)
- ジョン・メージャー (元イギリス首相)
- マイケル・ロカルド (元フランス首相)

## JLAミッション

水の事故による犠牲者をひとりでも少なくするための救助技術の向上や、ライフセービングの地域的振興、海浜などの有効利用による文化の向上と、生命尊厳を人間の中心におく教育の推進、安全思想の普及・啓発を、様々なプロジェクトを通じて実践・実現して行きます。

そしてライフセービングのさらなる社会認知に向けて、日本ライフセービング協会の組織をこれまで以上に成熟させ時代の隆盛をベースに組織改革を断行していくことが重要であるとの考えに基づき、9つのミッションを掲げています。

- Mission1** : 国際連盟における日本代表機関としての信頼基盤構築 (国際貢献の強化)
- Mission2** : 各財団、および団体とのコラボレーション拡大 (各事業展開強化)
- Mission3** : 全国組織としての組織基盤の充実支部の設置 (会員拡大強化)
- Mission4** : 一次救命教育団体としての社会的認知 (メディカルコントロール強化)
- Mission5** : 資格認定団体としての認知 (教育とレスキューの統合、生命教育のジュニア指導強化)
- Mission6** : 小学校・中学校・高等学校・大学におけるクラブ化 (地域クラブにつながる投資強化)
- Mission7** : 「生命を救うスポーツ」普及・拡大・展開 (競技会のあり方、メディアリリース強化)
- Mission8** : ライフセーバーからライフガード認定制度 (半プロ化・年間雇用拡大の創出・強化)
- Mission9** : 事務局体制、および財務基盤の安定化 (企業とのパイプ構築、および就労環境整備強化)



# 組織概要およびメンバー

## Member of Organization

ミッションを達成するために、専門委員会に分かれ各種事業を進めています。年3回の運営委員会では、理事会、スーパーバイザー、専門委員会、支部協議委員会のメンバーが一同に会し、事業の報告や計画を発表し、情報共有しながら連携を図っています。



## 組織メンバー

### ■ 理事会

理事長

小峯 力 (大学教授)

副理事長

山本 利春 (大学教授)

理事

中川 儀英 (救命救急医)

土志田 仁 (会社経営)

高野 絵美 (会社経営)

松本 貴行 (高校教諭)

泉田 昌美 (会社員)

森井 秀明 (団体役員) \*2011年1月まで

### ■ スーパーバイザー ◆は任期付

小峯 力

中見 隆男

足立 正俊

豊田 勝義

上野 真宏

中川 儀英 ◆

山本 利春 ◆

加藤 道夫 ◆

### ■ 事務局

中山 昭 (総務部長)

川地 政夫 (事業部長)

三浦 慶子 \*2011年6月まで

佐藤洋二郎

### ■ 専門部専門委員会委員

★委員長 ☆副委員長

●救命部 / 担当理事: 中川儀英

救急蘇生委員会

中川 儀英 ★

溺水事故防止委員会

石川 仁憲 ★

堀口 敬洋

風間 隆宏

●教育部 /

担当理事: 松本貴行・山本利春

指導委員会

上野 真宏 ★

岡澤 悟一 ☆

阿部 健 ☆

ジュニア教育委員会

丸田 重夫 ★

藤井 正弘

植木 将人

岡田 早織

森 洋行

学生委員会

泉田 昌美 ★

<2010年度学生役員>

服部 雄大 (代表)

松浦 珠実 (副代表)

小林 祐輔 (主務)

藤井 香織 (教育部長)

友廣 将二 (教育副部長)

槻田ちひろ (競技部長)

小野寺佑介 (競技副部長)

竹花佐和子 (広報部長)

鈴木 由佳 (広報副部長)

### ■ 監事

篠原 忍 (税理士)

小嶋 和也 (弁護士)



運営委員会 (2010年)

# 組織概要およびメンバー

## <2011年度学生役員>

安達 和也(代表)  
吉澤 晃央(副代表)  
堤和 賀弥(主務)  
並木 健太(教育部長)  
北見 啓太(教育副部長)  
深谷 徳香(競技部長)  
高橋 宗冲(競技副部長)  
櫻井 麻未(広報部長)  
斉藤 一恵(広報副部長)

## ●スポーツ部／

担当理事:土志田仁・泉田昌美

### 競技運営・審判委員会

塚本 隆之★  
飯塚 哲也☆  
橘川 克巳☆  
泉田 昌美  
池谷 薫  
中島 重之  
渡辺 智美  
吉田 健博  
藤田 善照  
林 昌広

### 競技力強化委員会

遠藤 大哉★  
入谷 拓哉  
青木 克浩  
飯沼 誠司  
鈴木 一也  
遊佐 雅美  
佐藤文机子

## ●医・科学部／担当理事:山本利春

### アンチ・ドーピング委員会

小峯 力★  
砂川 憲彦  
小粥 智浩  
笠原 政志

### コンディショニング科学委員会

小粥 智浩★  
砂川 憲彦  
笠原 政志

### 学術研究委員会

山本 利春★  
小峯 力  
中川 儀英  
小粥 智浩  
石川 仁憲  
笠原 政志

## ●国際広報事業部／

担当理事:高野絵美

### 国際広報事業委員会

相澤 千春★  
堤 容子  
西嶋 智美  
宮部 周作

## ●特別委員会／

担当理事:土志田仁・高野絵美

### 支部協議委員会

矢貫 卓博☆(沖縄県支部)  
加藤 道夫(神奈川県支部)  
岸 浩明(北海道支部)  
諸節 智章(中部支部)  
井藤 秀晃(中部支部)  
藤田 和人(九州支部)  
豊見山明久(沖縄県支部)  
池谷 薫(新潟県地域設立準備)  
松原 浩一(東北地域設立準備)  
田村 浩志(東京地域設立準備)  
鍛冶 有登(京阪神地域設立準備)  
田代 宗司(千葉地域設立準備)

### 世界大会招致検討委員会

土志田 仁  
高野 絵美  
上野 真宏  
相澤 千春

## ●特別プロジェクト／

担当理事:小峯 力

### 資格制度検討プロジェクト

山本 利春  
松本 貴行  
上野 真宏  
丸田 重夫  
泉田 昌美



# 会員数・登録クラブ

(平成24年3月現在)

## Member

### 会員数

個人	正会員	9
	一般会員	2,093
	高校生会員	121
	賛助会員	1,633

団体	正会員	49
	一般会員	79
	賛助会員	4

### 支部 (5 支部)

- ・北海道支部
- ・神奈川県支部  
(NPO 法人神奈川県ライフセービング連盟)
- ・中部支部
- ・九州支部
- ・沖縄県支部

### 地域 LS クラブ (83 クラブ)

北は北海道から南は沖縄まで、各地で活動する JLA 登録クラブです。

#### 【北海道】3

- ・石狩ライフセービングクラブ
- ・小樽ライフセービングクラブ
- ・札幌ライフセービングクラブ

#### 【青森県】1

- ・つがるライフセービングクラブ

#### 【岩手県】4

- ・大船渡ライフセービングクラブ
- ・釜石ライフセービングクラブ
- ・盛岡ライフセービングクラブ
- ・高田ライフセービングクラブ

#### 【秋田県】1

- ・秋田ライフセービングクラブ

#### 【東京都】7

- ・式根島ライフセービングクラブ
- ・神津島ライフセービングクラブ
- ・新島ライフセービングクラブ
- ・三多摩ライフセービングクラブ
- ・スポーツブレイクスライフセービングクラブ
- ・東京消防庁ライフセービングクラブ
- ・BACK WASH サーフライフセービングクラブ

#### 【神奈川県】15

- ・横浜海の公園ライフセービングクラブ
- ・NPO 法人西浜サーフライフセービングクラブ
- ・三浦海岸サーフライフセービングクラブ
- ・湯河原ライフセービングクラブ
- ・茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
- ・大磯ライフセービングクラブ
- ・湘南ひらつかライフセービングクラブ
- ・二宮ライフセービングクラブ
- ・辻堂ライフセービングクラブ
- ・鎌倉ライフガード
- ・サーフ 90 鎌倉ライフセービングクラブ
- ・サーフ 90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ
- ・葉山ライフセービングクラブ
- ・NPO 法人パディ冒険団
- ・小田原ライフセービングクラブ

#### 【千葉県】10

- ・NPO 法人九十九里ライフセービングクラブ
- ・銚子ライフセービングクラブ
- ・白浜ライフセービングクラブ
- ・岩井ライフセービングクラブ
- ・鴨川ライフセービングクラブ
- ・和田浦ライフセービングクラブ
- ・飯岡ライフセービングクラブ
- ・勝浦ライフセービングクラブ
- ・館山サーフライフセービングクラブ
- ・御宿ライフセービングクラブ

#### 【茨城県】4

- ・大洗サーフライフセービングクラブ
- ・大竹サーフライフセービングクラブ

- ・NPO 法人鹿嶋ライフガードチーム
- ・波崎サーフライフセービングクラブ

#### 【新潟県】2

- ・柏崎ライフセービングクラブ
- ・新潟青山ライフセービングクラブ

#### 【福井県】1

- ・若狹和田ライフセービングクラブ

#### 【愛知県】1

- ・愛知ライフセービングクラブ

#### 【静岡県】11

- ・今井浜サーフライフセービングクラブ
- ・NPO 法人下田ライフセービングクラブ
- ・熱川ライフセービングクラブ
- ・沼津ライフセービングクラブ
- ・西伊豆ライフセービングクラブ
- ・用宗ライフセービングクラブ
- ・榛原ライフセービングクラブ
- ・土肥ライフセービングクラブ
- ・御浜ライフセービングクラブ
- ・相良サーフライフセービングクラブ
- ・NPO 法人浜松ライフセービングクラブ

#### 【大阪府】2

- ・NPO 法人大阪ライフセービングクラブ
- ・せんなん里海公園・淡輪ライフセービングクラブ

#### 【兵庫県】1

- ・NPO 法人神戸ライフセービングクラブ

#### 【京都府】1

- ・NPO 法人京都ライフセービング

#### 【広島県】2

- ・NPO 法人広島ライフセービング
- ・安芸ライフセービングクラブ

#### 【鳥取県】2

- ・NPO 法人皆生ライフセービングクラブ
- ・岩美ライフセービングクラブ

#### 【島根県】2

- ・キララライフセービングクラブ
- ・浜田ライフセービングクラブ

#### 【岡山県】1

- ・岡山ライフセービングクラブ

#### 【山口県】2

- ・山口ライフセービングクラブ
- ・コバルトブルー下関ライフセービングクラブ

#### 【福岡県】3

- ・宗像ライフセービングクラブ
- ・福岡ライフセービングクラブ
- ・新宮ライフセービングクラブ

#### 【大分県】1

- ・大分ライフセービングクラブ

#### 【宮崎県】1

- ・NPO 法人宮崎ライフセービングクラブ

#### 【鹿児島県】2

- ・かごしま磯ライフセービングクラブ
- ・奄美ライフセービングクラブ

#### 【沖縄県】3

- ・万座ライフガードチーム
- ・北谷公園サンセットビーチライフセービングクラブ
- ・今帰仁ライフセービングクラブ

### 学校 LS クラブ (45 クラブ)

大学を中心に高校から専門学校まで、JLA に登録している教育機関主体のクラブです。

### 【東京都】24

- ・日本女子体育大学ライフセービング愛好会
- ・拓殖大学ライフセービングクラブ
- ・専修大学サーフライフセービングクラブ
- ・日本体育大学ライフセービングクラブ
- ・東京女子体育大学ライフセービングクラブ
- ・国士舘大学ライフセービングクラブ
- ・早稲田大学ライフセービングクラブ
- ・杏林大学ライフセービングクラブ
- ・中央大学ライフセービングクラブ
- ・成蹊大学ライフセービングクラブ
- ・法政大学サーフライフセービングクラブ
- ・実践女子大学ライフセービングクラブ
- ・日本大学ライフセービングクラブ
- ・日本大学サーフライフセービングクラブ
- ・國學院大学ライフセービングクラブ
- ・東京海洋大学ライフセービングクラブ
- ・玉川大学ライフセービングクラブ
- ・明治大学サーフライフセービングクラブ
- ・青山学院大学ライフセービングクラブ
- ・東京健康科学専門学校ライフセービングクラブ
- ・成城学園ライフセービングクラブ
- ・十文字高等学校ライフセービングクラブ
- ・昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ
- ・帝京大学ライフセービングクラブ

### 【神奈川県】3

- ・東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
- ・神奈川大学ライフセービングクラブ
- ・文教大学ライフセービングクラブ

### 【埼玉県】1

- ・武蔵丘短期大学ライフセービングクラブ

### 【千葉県】2

- ・国際武道大学ライフセービングクラブ
- ・順天堂大学ライフセービングクラブ

### 【茨城県】3

- ・筑波大学ライフセービングクラブ
- ・流通経済大学ライフセービングクラブ
- ・茨城大学サーフライフセービングクラブ

### 【新潟県】2

- ・新潟産業大学ライフセービングクラブ
- ・新潟工科大学ライフセービングクラブ

### 【福井県】1

- ・福井県立大学ライフセービングクラブ

### 【愛知県】2

- ・中京大学ライフセービングクラブ
- ・日本福祉大学ライフセービングクラブ

### 【静岡県】1

- ・東海大学海洋学部ライフセービングクラブ

### 【大阪府】1

- ・大阪体育大学ライフセービングクラブ

### 【京都府】1

- ・立命館大学ライフセービングクラブ

### 【広島県】2

- ・海上保安大学校ライフセービングクラブ
- ・広島国際大学ライフセービングクラブ

### 【鳥取県】1

- ・鳥取大学発ライフセービングクラブ

### 【沖縄県】1

- ・琉球大学ライフセービングクラブ

会員種別詳細はホームページをご覧ください。  
<http://www.jla.gr.jp/home.htm>

# 活動の海岸

## [山口県]

岩国市	潮風公園 みなとオアシスゆう
萩市	菊ヶ浜海水浴場
光市	虹ヶ浜海水浴場
下関市	コバルトブルービーチ

## [鳥取県]

米子市	皆生温泉海水浴場
岩美郡	浦富海水浴場
鳥取市	賀露みなと海水浴場

## [島根県]

出雲市	キララビーチ
浜田市	石見海浜公園
江津市	波子海水浴場

## [福岡県]

宗像市	江口浜海水浴場
糟屋郡	新宮海岸

## [大分県]

大分市	田ノ浦ビーチ
-----	--------

## [宮崎県]

宮崎市	青島海水浴場 サンビーチツ葉海水浴場
-----	-----------------------

## [鹿児島県]

奄美市	土盛海岸 用安海岸
-----	--------------

## [沖縄県]

国頭郡	万座ビーチ 今帰仁村民の浜ビーチ
中頭郡	北谷公園サンセットビーチ
島尻郡	古座間味ビーチ 阿真ビーチ 北浜ビーチ

## [京都府]

宮津市	天橋立海水浴場
-----	---------

## [大阪府]

泉南郡	淡輪海水浴場
-----	--------

## [兵庫県]

神戸市	須磨海水浴場 アジュール舞子海水浴場
-----	-----------------------

## [和歌山県]

和歌山市	片男波海水浴場
西牟婁郡	白良浜海水浴場

## [岡山県]

玉野市	渋川海水浴場
-----	--------

## [広島県]

呉市	県民の浜海水浴場 狩留賀海浜公園海水浴場
安芸郡	ベイサイドビーチ坂

## [愛知県]

知多郡	内海海水浴場
知多市	新舞子ブルーサンビーチ
田原市	太平洋ロングビーチ 仁崎海水浴場 白谷海水浴場 伊良湖海水浴場
常滑市	りんくうビーチ

## [三重県]

志摩市	阿児の松原海水浴場
-----	-----------

## [新潟県]

柏崎市	石地海水浴場 椎谷海水浴場 米山海水浴場 笠島海水浴場 薬師堂海水浴場 鯨波海水浴場 東の輪海水浴場 番神海水浴場 中央海水浴場
新潟市	青山海岸海水浴場

## [福井県]

小浜市	人魚浜海水浴場 鯉川海水浴場
大飯郡	若狭和田海水浴場

## [静岡県]

賀茂郡	熱川温泉YOU湯海水浴場 今井浜海水浴場 河津浜海水浴場 弓ヶ浜海水浴場 大浜海水浴場 乗浜海水浴場 深田海水浴場 黄金崎海水浴場
下田市	白浜中央海水浴場 白浜大浜海水浴場 外浦海水浴場 多々戸浜海水浴場 入田浜海水浴場 舞磯浜海水浴場 吉佐美大浜海水浴場
伊豆市	土肥海水浴場 小土肥海水浴場
沼津市	御浜海水浴場 島郷海水浴場 大瀬崎海水浴場 らららサンビーチ海水浴場
静岡市	用宗海岸海水浴場 三保真崎海水浴場
牧之原市	静波海水浴場 相良サンビーチ

## [北海道]

小樽市	おたるドリームビーチ サンセットビーチ銭函
石狩市	あそびーち石狩 浜益川下海水浴場

## [青森県]

つがる市	マグアビーチ
------	--------

## [秋田県]

秋田市	浜田浜海水浴場
-----	---------

## [岩手県]

大船渡市	吉浜海水浴場
釜石市	根濱海水浴場

## [神奈川県]

横浜市	横浜海の公園
三浦市	三浦海岸海水浴場
三浦郡	一色海水浴場 森戸海水浴場 大浜長者ヶ崎海水浴場
逗子市	逗子海水浴場
鎌倉市	由比ヶ浜海水浴場 材木座海水浴場 腰越海水浴場 七里が浜海岸
藤沢市	片瀬西浜海水浴場 片瀬東浜海水浴場 鵜沼海水浴場 江の島岩屋海水浴場 辻堂海水浴場
茅ヶ崎市	サザンビーチちがさき 茅ヶ崎東海岸ヘッドランド
平塚市	湘南ひらつかビーチパーク
大磯町	大磯海水浴場
湯河原町	吉浜海水浴場
小田原市	小田原御幸ヶ浜

## [千葉県]

富津市	富津海水浴場 大貫中央海水浴場 津浜海水浴場 上総湊海水浴場 新舞子海水浴場
館山市	船形海水浴場 北条海水浴場 新井海水浴場 沖ノ島海水浴場 坂田海水浴場 相浜海水浴場 波左間海水浴場 那古海水浴場

## [茨城県]

東茨城郡	大洗サンビーチ
鉾田市	大竹海岸鉾田海水浴場
鹿嶋市	下津海水浴場 平井海水浴場
神栖市	波崎海水浴場 日川浜海水浴場
高萩市	高萩海水浴場

## [東京都]

新島村	前浜第一海水浴場 前浜第二海水浴場 前浜第三海水浴場 前浜第四海水浴場 羽伏浦海水浴場 間々下海水浴場 渡浮根海水浴場 若郷前浜海水浴場
式根島	泊港海水浴場 大浦海水浴場 中の浦海水浴場 石白川海水浴場
神津島村	前浜海水浴場 長浜海水浴場 沢尻海水浴場 多幸湾海水浴場 赤崎海水浴場
三宅島村	大久保浜海水浴場 錆が浜海水浴場 長太郎池海水浴場

銚子市	海鹿島海水浴場 銚子マリーナ 長崎海水浴場
旭市	飯岡海水浴場 矢指ヶ浦海水浴場
山武郡	堀川浜海水浴場 木戸浜海水浴場 屋形海水浴場 殿下海水浴場 中下海水浴場 南浜海水浴場 小松海水浴場 白幡井之内海水浴場 本須賀海水浴場 粟生海水浴場 片貝海水浴場 不動堂海水浴場 真亀海水浴場 作田海水浴場
夷隅郡	岩和田海水浴場 御宿中央海水浴場 浜海水浴場
勝浦市	勝浦中央海水浴場 豊浜海水浴場 串浜海水浴場 鵜原海水浴場 守谷海水浴場 興津海水浴場
鴨川市	前原海水浴場 太海海水浴場 江見海水浴場 内浦第一海水浴場 内浦第二海水浴場 城崎海水浴場
南房総市	和田浦海水浴場 根本海水浴場 名倉海水浴場 塩浦海水浴場 豊岡海水浴場 原岡海水浴場 多田良北浜海水浴場 岩井海水浴場
安房郡	勝山海水浴場 大六海水浴場 鱈ヶ浦海水浴場 保田中央海水浴場 元名海水浴場



# 年間事業トピックス —2011年度JLA年間事業

## Topics

### 4月

- 10日(日) 豊崎トライアスロン大会ライフガード  
(沖縄県支部)
- 16日(土) 運営委員会
- 24日(日) 宮古島トライアスロン大会ライフガード  
(沖縄県支部)



運営委員会

### 5月

- 1日(金) 第1回理事会
- 7日(土) C級審判員養成講習会
- 7日(土) 国際溺水事故防止学会派遣～5/15(日)
- 14日(土) 第24回全日本プール競技選手権／  
合同浜説明会／第2回理事会
- 15日(日) 第24回全日本プール競技選手権／  
合同浜説明会
- 17日(土) 運営委員会



国際溺水事故防止学会

- 21日(土) 通常社員総会
- 28日(土) 合同浜説明会
- 29日(日) 第3回高校生競技会



通常社員総会

### 6月

- 2日(木) SLSAコーチングレベル2受講者派遣
- 4日(土) 第24回全日本種目別選手権／  
津波シンポジウム／第3回理事会
- 5日(日) 第24回全日本種目別選手権
- 11日(土) ジュニア教育指導者研修会
- 12日(日) 第1回中学生プログラム
- 12日(日) 第10回高校生プログラム
- 18日(土) ジュニア教育指導者研修会
- 18日(土) C級審判員養成講習会
- 18日(土) 審判員研修会
- 19日(日) 第12回オーシャンサーフチャレンジin白浜
- 26日(日) 審判員研修会



種目別選手権



ジュニア教育指導者研修会

## 7月

- 1日(金) 会報誌『RESCUE』(Vol.40)発行
- 7日(木) 板橋区プール教室～7/19(火)
- 19日(火) 読谷地区ジュニア・ライフセービング教室  
(沖縄県支部)
- 21日(木) 岩井臨海学園 北区～8/8(月)／千代田  
区～25日(月)
- 24日(日) 苫小牧ハスカップトライアスロン大会  
ライフガード(北海道支部)

## 8月

- 2日(火) 第4回理事会
- 7日(日) 東川トライアスロン大会ライフガード  
(北海道支部)
- 23日(火) 渡嘉敷島ジュニア・ライフセービング  
キャンプ(沖縄県支部)

## 9月

- 3日(土) WS指導員養成移行講習
- 4日(日) WS指導員養成移行講習
- 4日(日) C級審判員養成講習会
- 4日(日) 第4回九州競技会(九州支部)
- 10日(土) WS指導員養成移行講習
- 10日(土) C級審判員養成講習会

- 10日(土) 審判員研修会
- 11日(日) WS指導員養成移行講習
- 11日(日) 小樽築港ベイエリアアクアスロン大会  
ライフガード(北海道支部)
- 18日(日) 第8回ジュニア競技会  
(with 第3回 JLA classic)
- 23日(金) 第26回 全日本学生選手権／第5回理事会
- 24日(土) 第26回 全日本学生選手権



第8回ジュニア競技会



第26回全日本学生選手権

## 10月

- 2日(日) C級審判員養成講習会
- 2日(日) 審判員研修会
- 2日(日) 伊是名88トライアスロン大会ライフ  
ガード(沖縄県支部)
- 8日(土) 第37回 全日本選手権
- 9日(日) 第37回 全日本選手権
- 10日(月) 第37回 全日本選手権
- 14日(金) 第6回理事会
- 22日(土) WS指導員養成移行講習



- 23日(日) WS指導員養成移行講習
- 29日(土) 沖縄マリンカップ
- 29日(土) 第1回マリンカップin沖縄(沖縄県支部)



第37回 全日本選手権

## 11月

- 6日(日) 第9回神奈川県プール選手権  
(神奈川県支部)
- 10日(木) 第7回理事会



日本代表海外遠征(ドイツ)



納会

- 13日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 19日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 20日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 22日(火) 日本代表海外遠征(ドイツ)～28日(月)
- 27日(日) ジュニア・リーダー資格プレ講習会



ジュニア・リーダー資格プレ講習会

## 12月

- 10日(土) WS指導員養成移行講習
- 11日(日) WS指導員養成移行講習
- 17日(土) 第8回理事会/  
納会/強化指定選手・国内強化合宿
- 18日(日) 指導員養成講習会・事前説明会
- 24日(土) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 25日(日) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 25日(日) 指導員養成講習会・事前説明会
- 25日(日) 会報誌『RESCUE』(Vol.41)発行
- 26日(土) 第11回高校生プログラム
- 27日(日) 第11回高校生プログラム
- 29日(木) 指導員養成講習会・事前説明会
- 29日(木) G2010心肺蘇生法伝達研修会

## 1月

- 9日(月) 指導員養成講習会・事前説明会
- 14日(土) 指導員養成講習会・事前説明会
- 14日(土) 指導員養成講習会・事前研修会
- 15日(日) 指導員養成講習会・事前説明会
- 15日(日) 指導員養成講習会・事前研修会



## Topics

- 15日(日) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 15日(日) ジュニア・リーダー資格プレ講習会
- 21日(土) WS指導員養成移行講習
- 21日(土) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 21日(土) 指導員養成講習会・事前研修会
- 22日(日) WS指導員養成移行講習
- 22日(日) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 22日(日) 指導員養成講習会・事前研修会
- 22日(日) C級審判員養成講習会
- 25日(水) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 26日(木) 指導員養成講習会・事前説明会
- 28日(土) WS指導員養成移行講習
- 28日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 29日(日) WS指導員養成移行講習
- 29日(日) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 29日(日) 強化指定選手・国内強化合宿

## 2月

- 4日(土) 学生リーダーズキャンプ
- 5日(日) 学生リーダーズキャンプ
- 11日(土) 第3回全日本学生プール競技選手権／第9回理事会
- 12日(日) 第3回全日本学生プール競技選手権／第3回高校生記録会
- 18日(土) WS指導員養成移行講習
- 18日(土) 指導員養成講習会・事前研修会
- 18日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 19日(日) WS指導員養成移行講習



学生リーダーズキャンプ

- 19日(日) 指導員養成講習会・事前研修会
- 19日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 20日(土) 指導員養成講習会・事前研修会
- 21日(日) 指導員養成講習会・事前研修会
- 25日(土) ジュニア・インストラクター資格特別移行措置講習会
- 26日(日) ジュニア・インストラクター資格特別移行措置講習会

## 3月

- 4日(日) ライフセービングフォーラム
- 5日(月) 強化指定選手・海外強化合宿(オーストラリア)～12日(月)
- 6日(火) G2010心肺蘇生法伝達研修会
- 12日(月) 指導員養成講習会・本講習
- 13日(火) 第10回理事会／指導員養成講習会・本講習
- 14日(水) 指導員養成講習会・本講習
- 15日(木) 指導員養成講習会・本講習
- 17日(土) 指導員養成講習会・本講習
- 18日(日) 指導員養成講習会・本講習
- 19日(月) 指導員養成講習会・本講習
- 20日(火) 指導員養成講習会・本講習
- 25日(日) ジュニア・リーダー資格プレ講習会
- 25日(日) ジュニア・サポーター講習会
- 25日(月) 強化指定選手・海外強化合宿(オーストラリア)～4/2(月)



強化指定選手・海外強化合宿(オーストラリア)

# 助成事業・協力事業

## 日本財団助成事業

### 支部・各クラブ申請に基づく監視活動器材支援/講習会の充実・拡充に向けた器材支援

- ◇パトロールキャップ 1539枚
  - ◇レスキューボード 56本
  - ◇レスキューチューブ 64本
  - ◇簡素型訓練用人形(リトルアン) 40体
- ### ジュニア・ライフセービング教室の支援および保護者への意識調査

16ヶ所444名を対象に小中学生に対してライフセービング教室を実施した。あわせて、その保護者に対する意識調査も実施し10クラブ133名からの回答を得た。教室実施のクラブにはニッパーボード(1クラブにつき2本)、ジュニア用キャップ(参加者一人につき1枚)が支給された。

### ジュニアプログラムに関連する制作物

- ◇ジュニアテキスト(3000部)
- ◇ジュニアリーフレット(3000部)
- ◇指導指針増刷(200部)

### ジュニア教育指導者養成システムの研究

日本財団の支援により、ジュニア教育指導者養成カリキュラムづくり

### ▶ジュニア・ライフセービング教室の支援および保護者への意識調査

日程	実施クラブ	参加者数
7/23	札幌LSC	32
7/24	大磯LSC	24
8/7	鴨川LSC	26
8/7	勝浦LSC	30
8/7	相良SLSC	30
8/9	小樽LSC	30
8/9	大洗SLSC	35
8/9-11	東海大学海洋学部/日本協会中部支部	97
8/13	京都LSC	13
8/14	岡山LSC	19
8/14	沼津LSC/日本協会中部支部	34
8/19	西伊豆LSC	27
8/21	かごしま磯LSC	12
8/21	若狭和田LSC	7
8/22	若狭和田LSC	7
10/2	北谷公園LSC	21

を実施した。

- ◇ジュニア教育委員会(会議)の開催

- ◇ジュニア教室・現地視察の実施

### ジュニア教育指導者研修会の開催

- ◇ジュニア教育指導者研修会

6/11(土) 参加人数35名

成城学園中学校会議室

6/18(土) 参加人数:10名

和歌山県白浜町中央公民館

- ◇ジュニア・リーダー資格プレ講習会

11/27(日) 参加人数13名

千代田区立九段中等教育学校

1/15(日) 参加人数26名

神戸市民福祉スポーツセンター

3/25(日) 参加人数8名

盛岡市立総合プール

- ◇ジュニア・サポーター講習会

3/25(日) 参加人数2名

盛岡市立総合プール

- ◇ジュニア・インストラクター資格

特別移行措置講習会

2/25日 参加人数6名

神戸YMCA学院専門学校

2/26日 参加人数37名

千代田区立九段中等教育学校

## 青少年育成3団体協働事業「ウォータースポーツプロジェクト」への協力

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団(B&G財団)、日本トライアスロン連合(JYU)、日本ライフセービング協会の3団体協働によるプロジェクトに参画し「青少年の健全育成、自然体験を通じた安全教育」を推進する。全国に480ヶ所あるB&G財団海洋センターの会場候補から過去3年間に実施した箇所「大自然とスポーツで親子の絆、光る汗」と題した体験教室を開催し、開催地周辺の地域ライフセービングクラブが協力した。

## Water Safety NIPPON(水辺の事故ゼロ運動推進協議会)に参加協力

日本における「子どもたちの健やかな成長と水の事故ゼロ」を目標に、行政・団体・企業・マスコミ・ボランティア・個人など様々な団体等が協力し「水の事故ゼロ運動」を全国で推進する官民共同の組織設立に参画し、その運動に協力した。2012年1月22日にオーストラリア現地視察へ溺水事故防止委員長/石川仁憲が同行した

### ▶青少年育成3団体協働事業「ウォータースポーツプロジェクト」への協力

	B&G海洋センター所在地	協力クラブ	開催日	参加人数
1	北海道 室蘭市	小樽LSC	8月6日	48
2	秋田県 にかほ市象潟	秋田LSC	6月26日	15
3	栃木県 下野誌国分寺	*	8月6日	15
4	石川県 七尾市	*	6月25日	16
5	岐阜県 中津川市	愛知LSC	9月3日	台風中止
	兵庫県 猪名川町	*	9月19日	26
6	兵庫県 豊岡市竹野	岩見LSC	6月20日	22
7	鳥取県 伯耆町岸本	皆生LSC	7月24日	20
8	愛媛県 松山市中島	*	7月9日	11
	佐賀県 江北帳	大分LSC	7月10日	16
10	鹿児島県 天城町	*	8月6日	台風中止



# JLA The 20th Anniversary

## JLA Life Member

### 特別会員表彰

協会創立20周年を記念し、1991年2つのライフセービング団体の統合に貢献された功績と栄誉をたたえ、ライフメンバー（特別会員）として以下の4名の方を永久に記録することといたしました。



**故 金子 邦親氏** (かねこくにちか)  
片瀬西浜初代警備長。日本ライフガード協会会長。日本ライフセービング協会 (JLA) 初代理事長 (1991 ~ 2000年)。\*2011年10月31日、金子氏は逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



**遠藤 義晴氏** (えんどう・よしはる)  
オーストラリアでブロンズ資格取得1972年12月 ~ 1973年4月)。日本サーフライフセービング協会初代表 (1978 ~ 1985年)。



**築山 由雄氏** (つきやま・よしお)  
日本サーフライフセービング協会第2代代表 (1985 ~ 1991年)。日本ライフセービング協会専務理事 (1991 ~ 1992年)、同常務理事 (1993 ~ 2000年)。



**相澤 重男氏** (あいざわ・しげお)  
日本ライフガード協会事務局長。日本ライフセービング協会理事 (2001 ~ 2006年)。現在、日本ライフセービング協会神奈川県支部会長。

### JLA20周年記念式典

去る2011年10月8日、全日本選手権大会初日の競技終了後、県立湘南海岸公園サーフビレッジ・噴水前公園にて「日本ライフセービング協会20周年記念式典」を開催しました。ご来賓に海老根藤沢市長様をはじめ、ご協賛各企業様等、多くの皆様のご列席をいただきました。その記念式典では、協会創立に貢献された方をライフメンバー（特別会員）として表彰いたしました。また、選手・審判員等の全員が記念Tシャツを着用して式典を盛り上げました。

### ライフメンバー（特別会員）表彰

1961年から歩み始めた国内のライフセービング活動は、その後、オーストラリアから寄贈された1本のレスキューボードによって、その精神「ライフセービングスピリッツ」が加速し、1991年、2つのライフセービング団体の統合へとつながりました。日本ライフセービング協会の誕生です。1991年から20年。人であれば成人を迎え、「水辺の事故ゼロ」を目指し、より成熟した活動を未来へと継承していきます。この度、協会創立に貢献された功績と栄誉をたたえ、「ライフメンバー（特別会員）」として以下の4名の方の名を永久に記録し、後世に刻み続けていきます。

# 公式・公認競技会

## 公式競技会

### 第24回 全日本ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日: 2011年5月14日(土)・15日(日)

開催場所: 古橋廣之進記念浜松市総合水泳場 ToBiO (静岡県浜松市)

参加人数: 36チーム・451名

後援: 文部科学省 静岡県 静岡県教育委員会 浜松市 日本赤十字社 財団法人日本水泳連盟 財団法人浜松観光コンベンションビューロー

協賛: レールダルメディカルジャパン株式会社 株式会社三洋物産/株式会社三洋販売

協力: 浜松ホテル旅館協同組合 有限会社吉田三郎商店 日本ライフセービング協会中部支部

### 第24回 全日本ライフセービング種目別選手権大会

開催月日: 2011年6月4日(土)・5日(日)

開催場所: 下田白浜大浜海岸 (静岡県下田市)

参加人数: 52チーム・538名

後援: 国土交通省 海上保安庁 静岡県 下田市 下田海上保安部 下田教育委員会 下田市観光協会

協力: 伊豆白浜観光協会 原田区 有限会社吉田三郎商店 国際武道大学トレーナーチーム NPO法人下田ライフセービングクラブ 日本ライフセービング協会中部支部

### 第8回ジュニア・ライフセービング競技会～with 第3回 JLA classic～

開催月日: 2011年9月18日(日)

開催場所: 片瀬東浜海岸 (神奈川県藤沢市)

参加人数: 22チーム・191名

後援: 藤沢市 藤沢市教育委員会 ウォーターセーフティーニッポン 社団法人藤沢市観光協会 江の島海水浴場営業組合

助成: スポーツ振興くじ助成事業

協力: 森永製菓株式会社 日本製粉株式会社 日本ライフセービング協会神奈川県支部 NPO1法人西浜サーフライフセービングクラブ

### 第37回 全日本ライフセービング選手権大会

開催月日: 2011年10月8日(土)・9日(日)・10日(月祝)

開催場所: 片瀬西浜海岸 (神奈川県藤沢市)

参加人数: 58チーム・1159名

後援: 文部科学省 国土交通省 消防庁 海上保安庁 神奈川県 藤沢市 日本赤十字社 財団法人日本水泳連盟 オーストラリア大使館 豪日交流基金 朝日新聞社 日刊スポーツ新聞社

特別協賛: 第一三共株式会社

協賛: 株式会社オッシュマンズ・ジャパン レールダルメディカルジャパン株式会社 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン 株式会社櫻井興業GUARD事業部

協力: 湘南海上保安署 社団法人藤沢市観光協会 株式会社ポピ

ンズ 株式会社ゴールドウイン ミズノ株式会社 財団法人かながわ海岸美化財団 株式会社湘南なぎさパーク 有限会社吉田三郎商店 株式会社湘南ライセンス 鶴沼サーフショップ組合 鶴沼ビーチクリーンクラブ 日本サーフィン連盟湘南藤沢支部 国際武道大学トレーナーチーム 日本ライフセービング協会神奈川県支部 NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ

### 第26回 全日本学生ライフセービング選手権大会

開催月日: 2011年9月23日(金祝)・24日(土)

開催場所: 内海海岸千鳥ヶ浜海水浴場 (愛知県知多郡)

参加人数: 46チーム・632名

後援: 文部科学省 国土交通省 消防庁 海上保安庁 愛知県 南知多町 内海観光協会

協賛: 株式会社三洋物産/株式会社三洋販売 株式会社オッシュマンズ・ジャパン 株式会社櫻井興業GUARD事業部

協力: 有限会社吉田三郎商店 国際武道大学トレーナーチーム 日本ライフセービング協会中部支部 愛知ライフセービングクラブ



### 第3回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日: 2012年2月11日(土)・  
12日(日)

開催場所: 古橋廣之進記念浜松市総合水  
泳場 ToBiO (静岡県浜松市)

参加人数: 39チーム・560名

後援: 文部科学省 静岡県 静岡県  
教育委員会 浜松市 財団法人  
日本水泳連盟 財団法人浜  
松観光コンベンションビュー  
ロー

協賛: 株式会社三洋物産/株式会社  
三洋販売

協力: 浜松ホテル旅館協同組合 有  
限会社吉田三郎商店 日本ラ  
イフセービング協会中部支部

## 公認競技会

### 第12回オーシャンサーフチャレ ンジン白浜2011

開催月日: 2011年6月19日(日)

開催場所: 白良浜海水浴場  
(和歌山県白浜町)

参加人数: 14チーム・115名

主催: オーシャンサーフチャレンジ  
in白浜2011実行委員会

後援: 和歌山県 日本ライフセー  
ビング協会

協賛: 白浜町 白浜観光協会 白浜  
温泉旅館協同組合 白浜町商  
工会 株式会社三洋物産/株  
式会社三洋販売

協力: 白浜町議会 有限会社吉田三  
郎商店 NPO法人大阪ライ  
フセービングクラブ NPO  
法人神戸ライフセービングク  
ラブ NPO法人京都ライフ  
セービング せんなん里海公  
園・淡輪ライフセービングク

ラブ 大阪体育大学ライフ  
セービングクラブ

### 第9回 神奈川県ライフセーピン グ・プール競技選手権大会

開催月日: 2011年11月6日(日)

開催場所: 相模原市立総合水泳場  
(神奈川県相模原市)

参加人数: 44チーム・528名

主催: 特定非営利活動法人神奈川県  
ライフセービング連盟

後援: 神奈川県 神奈川県教育委員  
会 相模原市 相模原市教育  
委員会 神奈川県水泳連盟  
ハワイ州ライフガード協会  
日本ライフセービング協会

特別協賛: 株式会社三洋物産/  
株式会社三洋販売

協賛: 株式会社櫻井興業GUARD事  
業部 (GUARD SHOP)

協力: 相模原市水泳協会

# 資格講習会開催・発行数

## ■ ライフセーバー資格

### ベーシック サーフ ライフセーバー資格

講習日程	主催
8月2日～8月6日	日本ライフセービング協会 (和歌山県 白良浜海岸)
7月10, 11, 17, 18, 19日	日本ライフセービング協会北海道支部 (北海道 銭函ヨットハーバー)
5月18, 21, 24, 25, 28日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
6月12, 13, 19, 26, 27日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
6月13, 19, 25, 26, 27日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
10月2日 ～10月16日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
6月26日 7月3, 4, 10, 11日	日本ライフセービング協会中部支部 (静岡県 島郷海水浴場)
6月4日～13日	日本ライフセービング協会九州支部 (福岡県 津屋崎海岸)
9月6, 7, 8, 14, 15日	日本ライフセービング協会九州支部 (福岡県 津屋崎海岸)
	以上 JLA本部及び支部主催小計 9カ所
	他、登録クラブ主催小計 38カ所
	開催合計 47カ所

### アドバンス サーフ ライフセーバー資格

講習日程	主催
8月27日～8月30日	日本ライフセービング協会 (東京都 新島)
9月23日～9月26日	日本ライフセービング協会 北海道支部 (北海道 銭函海岸)
4月3, 4, 10, 11日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
11月20, 23, 27, 28日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
	以上 JLA本部及び支部主催小計 4カ所
	他、登録クラブ主催小計 10カ所
	開催合計 14カ所

### その他資格

種別	主催
IRBクルー資格	登録クラブ主催 2カ所
IRBドライバー資格	登録クラブ主催 2カ所
ウォーターライフセーバー資格	登録クラブ主催 1カ所

### CPR (心肺蘇生法)

講習日程	主催
4月29日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
5月09日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
5月22日	日本ライフセービング協会(アウトドアフィットネス協会) (神奈川県 横浜市スポーツ医科学センター)
5月23日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
6月13日	日本ライフセービング協会 B&G財団 (沖縄県 マリンピアザオキナワ)
6月20日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
9月04日	日本ライフセービング協会 九州支部 (大分県 田ノ浦ビーチ事務所)
10月30日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京スポーツ・レクリエーション専門学校)
11月26日	日本ライフセービング協会(ヒューマンアカデミー) (神奈川県 ヒューマンアカデミー横浜校)
11月27日	日本ライフセービング協会(アウトドアフィットネス協会) (神奈川県 横浜市スポーツ医科学センター)
11月28日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
12月05日	日本ライフセービング協会(日本水泳連盟) (東京都 国立スポーツ科学センター)
12月12日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
02月15日	日本ライフセービング協会(ものづくり大学) (埼玉県 ものづくり大学)
02月20日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
03月06日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 サーフビレッジ)
	以上 JLA本部及び支部主催小計 16カ所
	インストラクター主催小計 8カ所
	他、登録クラブ主催小計 22カ所
	開催合計 46カ所

### 更新講習

種別	主催
サーフおよびウォーター資格更新講習	JLA主催および登録クラブ主催 36カ所
CPR更新講習	JLA主催および登録クラブ主催 12カ所

## ライフセーバー資格発行数

ライフセーバー資格種別	資格発行数
ベーシック サーフ ライフセーバー資格	670
アドバンス サーフ ライフセーバー資格	127
IRBクルー資格	11
IRBドライバー資格	2
ウォーター ライフセーバー資格	3
CPR (心肺蘇生法)	1051
サーフおよびウォーター資格更新	302
CPR更新	127
合 計	2293



## ■ 審査員資格



## C級審判講習会 実績 (2010年度)

2010年度			
	日程	場所	人数
1	2010年 4月24日(土)	東京都/城西国際大学	51
2	2010年 8月29日(日)	北海道/おたるドリームビーチ	5
3	2010年 9月10日(金)	新潟県/柏崎市民プラザ	6
4	2010年 9月12日(日)	神奈川県/かながわ女性センター	30
5	2010年10月 2日(土)	東京都/城西国際大学	27
6	2010年11月14日(日)	神奈川県/湘南ひらつかビーチパーク	12
7	2010年11月28日(日)	大阪府/大阪ハイテクノロジー専門学校	15
8	2010年12月 4日(土)	東京都/日本体育大学	72
9	2010年12月 5日(日)	東京都/東京メディカル・スポーツ専門学校	32
10	2011年 1月16日(日)	大阪府/大阪体育大学	2
11	2011年 1月22日(土)	東京都/東京スポーツ・レクリエーション専門学校	24
12	2011年 2月 6日(日)	静岡県/アイミティー浜松	12
合 計			288





# JLAハイパフォーマースチーム

2011年11月より第6期強化指定選手「JLAハイパフォーマンスプログラム（以下JHPP）」が始動した。このプログラムは日本代表チームが国際大会でベストを尽くすための全面的なサポートを行うことと、日本代表チームが国内外の国際大会への参加を通じて、ライフセービングスポーツとライフセービング活動双方の普及・発展に貢献する選手を育成することを目的としている。今期の目標は来年度事業、Rescue2012世界大会の総合7位を目標に ①少数による密度の濃い強化 ②選手が自らチームにエントリーするノミネートシステム ③2012年より始まるユース世界大会への対応を方針として、2011年度JLAハイパフォーマンスチーム（以下JHPT）のスタッフとメンバーを選出した。

## JHPTスタッフ

### JHPTコーディネーター

遠藤大哉（競技力強化委員長）

### ヘッドコーチ

入谷拓哉（レスキュー2012監督）

### コーチ

青木克浩（プールコーチ・レスキュー2012コーチ）

佐藤文机子

（オーシャンコーチ・レスキュー2012コーチ）

飯沼誠司

（オーシャンコーチ・レスキュー2012ユース監督）

花岡香那（プールコーチ）

### サポートスタッフ

遊佐雅美・本多辰也（ビーチコーチ）

青野武士・田村憲章（プールコーチ）

### トレーナー

小粥智浩・砂川憲彦・笠原政志

（JLAコンディショニング委員会）

## 第6期強化指定選手

期間：2011年11月1日～2012年10月31日

※下記、表参照

## 2011年度活動報告

2011年11月13日：

第6期JHPT顔合わせ

2011年11月22～28日：

第21回インターナショナル  
ジャーマンカップ2011出場

2011年12月17日：

プール合宿

2012年1月28,29日：

プール&フィジカル合宿

2012年3月5～12日：

アデレード海外強化合宿

2012年3月25日～4月2日：

全豪選手権2012出場



### 第6期 強化指定選手（2011年11月1日～2012年10月31日）

強化指定A選手	1	1	植木 将人	西浜SLSC
	2	2	岡田 浩平	中京大学LSC / 愛知LSC
	3	3	落合 慶二	東京消防庁LSC / 横浜海の公園LSC
	4	4	菊地 光	九十九里LSC
	5	5	清水 雅也	拓殖大学LSC
	6	6	鈴木 陵平	館山SLSC
	7	7	長竹 康介	西浜SLSC
	8	8	西山 俊	湯河原LSC
	9	1	佐伯 芽維	日本体育大学LSC
	10	2	坂本佳凧子	西浜SLSC
	11	3	藤浪 優希	国際武道大学LSC / 勝浦LSC
	12	4	藤原 梢	館山SLSC
	13	5	水間 菜登	国際武道大学LSC / 勝浦LSC
	14	6	三井結里花	九十九里LSC
	15	7	宮田 沙依	日本体育大学LSC
	強化指定B選手	16	8	毛利 邦
17		1	上野 凌	西浜SLSC
18		2	小林 海	西浜SLSC
19		3	坂本 陸	西浜SLSC
20		4	櫻井 希	西浜SLSC
21		5	菅 卓也	新宮LSC
22		6	園田 俊	流通経済大学LSC / 新島LSC
23		7	高岡 洋介	下田LSC
24		8	富澤 泰介	館山SLSC
25		9	永石 哲朗	パディ冒険団
26		10	沼倉 稔弥	日本大学SLSC / 九十九里LSC
27		1	上野 真凜	西浜SLSC
28		2	大山 玲奈	成城学園LSC
29		3	清水 友紀	日本大学SLSC / 九十九里LSC
30		4	高橋 愛海	西浜SLSC
31		5	高橋 志穂	柏崎LSC
32		6	利根川 莉奈	成城学園LSC
33		7	内藤 由里恵	日本大学SLSC / 九十九里LSC
34		8	名須川 紗綾	文教大学LSC / 茅ヶ崎SLSC
35		9	速水 愛	柏崎LSC
36		10	前川 桂穂	柏崎LSC
37		11	皆川 綾菜	西浜SLSC

所属クラブは2011年度内のもの

# ライフセーバーアワード2011

2011年12月17日(土)、東海大学交友会館(東京都港区)において「平成23年度納会」を190名もの会員クラブ代表の方々のご出席をいただき開催しました。

また、あわせて「JLAライフセーバーアワード2011」の発表を行いました。JLAライフセーバーアワードは、内外にけるライフセービング活動の普及・発展に著しく貢献した個人または団体を表彰するもので、「救命」「スポーツ」「教育」「環境」「福祉」の活動別表彰と、「ライフセーバー・オブ・ザ・イヤー」として最優秀賞の表彰を行い、その功労を称えるものです。受賞者の皆様、おめでとうございます。

## ライフセーバー オブザイヤー

### 東北支部設立準備委員会

同委員会は、3月11日、東日本大震災の発生に際し、震災後、ただちにJLAの現地対策窓口を設け、日本協会と効果的な連携を図り、混乱する被災地と全国のライフセーバーとの連絡・調整を積極的に行い、組織的な人道・復興支援に貢献された。また、日頃からの地域との信頼関係から、今回の震災の数々の対応で、ライフセービング活動の認知向上に著しく貢献された。



受賞は委員長の佐々木聡様(釜石LSC代表)

発に著しく貢献された。また、教育・指導者として、25年にわたり学校・地域クラブの両輪の運営によって多くの優秀なライフセーバーを育てられ、今年は大日本学生選手権、大日本選手権で優勝へと導かれた。



プレゼンター(写真左)は中見隆男JLAスーパーバイザー

## スポーツ賞

### 平藤昌寛(西浜SLSC)

永年にわたり、日本協会の公式競技会の運営において、ホストクラブや支部関係者と横断的に連携し、裏方として競技器材の準備・後片付けを率先し、競技会の安全で円滑な運営に務められた。また、今年若手スタッフ人材の育成にも貢献された。



プレゼンター(写真左)は土志田仁理事。

## 環境賞

### 石川仁憲(溺水事故防止委員長)

海岸の安全な環境を構築するために、調査・研究を率先して実施され、5月にその成果を国際溺水事故防止学会にJLA代表として発表。さらに、震災を受けて6月にJLA津波シンポジウムを開催し、各地の津波対策情報の共有とライフセーバーの行動指針を全国のライフセーバーと共有、水辺の事故防止意識の向上、海岸の安全な環境整備に貢献された。



プレゼンター(写真左)は高野絵美理事。

## 教育賞

### 山本利春

#### (国際武道大学LSC / 勝浦LSC)

永年にわたり、日本協会の人材育成、活動の普及啓発、組織運営に貢献いただき、特に心肺蘇生法講習会を通じてご自身の職場をはじめ、スポーツトレーナーや指導者へ普及啓







# 救命部

## 救急蘇生委員会

### ■ ガイドライン2010の普及

指導委員会との連携により、講習会カリキュラムの改訂を行い、ホームページでの情報発信、また指導委員への伝達普及を行った。2012年3月4日のライフセービングフォーラムではガイドライン2010のポイントとライフセーバーとしてCPRに対する意識向上について講演した。今後はガイドライン2010に基づいたCPRカリキュラムの改訂にともない、さらに会員、一般への知識と技能の普及を強化したい。

### ■ レサシテーションレポート

重溺症例に対する救急処置の質的向上のため、溺水事故防止委員会と連携し、パトロールログのレポート書式の改訂を進めた。

2011年度の集計報告によるとレスキュー総数は1068件。そのうち

重溺者8件、軽溺者65件。重溺者救助のうち3名が蘇生。5名が死亡。

今後は重溺症例の活動に対する医学的検証とフィードバックのため、レスキュー会議(仮称)などを開催したい。

### ■ CPRに関する医学的研究

海水浴場調査、パトロールログ集計より学会での発表、学会誌への掲載を行った。

「ライフセーバーが参画した水辺

の救急医療システムを構築する意義」第14回日本臨床救急医学会で発表(2012年6月4日札幌)

「ライフセーバーの事故対応に関する実状と課題～海での溺水事故に対するプレホスピタルケアの意義」日本臨床救急医学雑誌 (Vol.14, No.6, 649-55)に掲載。

今後はライフセーバーが遭遇する溺者への処置として、水中での人工呼吸の妥当性について実験、データ収集を実施したい。

### ■ 新ガイドライン2010心肺蘇生法伝達研修会

開催日	会場	参加人数
12月24日(土)	大阪ハイテクノロジー専門学校(大阪府)	8
12月25日(日)	エルプラザ札幌(北海道)	3
12月29日(木)	男女・子育て環境改善研究所内会議室(福岡県)	4
1月15日(日)	東京メディカルスポーツ専門学校(東京都)	32
1月21日(土)	流通経済大学(茨城県)	6
1月22日(日)	流通経済大学(茨城県)	11
1月25日(水)	今帰仁総合体育館(沖縄県)	4
1月29日(日)	千代田区立九段中等教育学校(東京都)	23
3月6日(火)	東京都内	1
参加人数合計		92

## 溺水事故防止委員会

### ■ 溺類事故防止に向けた調査

溺水事故が多発している数海岸を対象に基礎調査等を実施した。

- ・静岡県相良サンビーチ
- ・静岡県下田大浜海水浴場

### ■ パトロールログ・レポート集計

会員クラブの関連する全国の水浴場のうち121カ所からパトロールログを回収、集計し、統計をまとめた。

またパトロールログ改訂に向けて検討を重ね、その重要性和改定案を会員へ公開、伝達した。

収集されたログデータに基づき、ABSAMPの評価指標の日本の海水浴場への適用性を検討したい。そのためのSLSAからの情報収集、各種資料の収集を進めた。

### ■ 津波シンポジウム

東日本大震災を受け、津波避難時・来襲時のライフセーバーの行動方針をあらためるため、シンポジウムを開催した。その後行動指針をとりまとめ、「防災ガイドライン～津波編～」としてホームページ上へ公開した。

### ■ 公開・アウトリーチ

2011年5月10日～ベトナム・ダナンで開催されたILS主催のWorld Conference on Drowning Prevention 2011に参加、発表した。国内ではJLAフォーラムや指導員養成講習会で、パトロールログ活用の重要性や溺水事故防止への取り組みについて講演し、ライフセーバーへ情報を収集し調査分析することが事故防止へ繋がる事を伝達した。

# 教育部

## 指導委員会

### JLAアカデミー

資格制度検討プロジェクトとの連動で資格体系を全体的に改革した。それにもなつてライフセービング資格に関する規定、指導員資格に関する規定の原案を作成した。またいままでの資格制度で失効してしまっている方々への更新講習キャンペーンを実施。その他、新資格体系に関する備品の準備、教本改訂を進めた。

### 指導員研修会の実施

JLAアカデミー始動にともない、新資格体系についての伝達を重点的に行い、そのための移行養成講習会として実施した。またCPRについてガイドライン2010にともなう変更事項を伝達した。\*指導員研修会実施一覧

### 指導員養成講習会

指導員養成プログラムを実施した。事前説明会8回、事前研修会4回を開催したのち本講習を実施。全行程を

終了し、合格した指導員としてCPRアシスタントインストラクター5名、Water Safety & CPRアシスタントインストラクター38名を認定した。

### 競技会での活動

全日本選手権大会、および全日本

学生選手権大会でCPRコンテストのジャッジ、および指導を行った。

またCPR体験ブースを設置し、ひろく一般向けにCPRとAEDの普及活動を行った。

### Water Safety指導員養成移行講習

開催日	会場	参加人数
9月3日(土)、4日(日)	流通経済大学(茨城県)	10
9月10日(土)、11日(日)	成城学園中学校高等学校(東京都)	26
10月22日(土)、23日	流通経済大学(茨城県)	17
12月10日(土)、11日(日)	流通経済大学(茨城県)	2
1月21日(土)、22日(日)	流通経済大学(茨城県)	5
1月28日(土)、29日(日)	千代田区立九段中等教育学校(東京都)	17
2月18日(土)、19日(日)	大阪体育大学(大阪府)	9
参加人数合計		86

### 指導員養成プログラム事前説明会

開催日	会場	参加人数
12月18日(日)	ウィルあいち(愛知)	71
12月25日(日)	大阪ハイテクノロジー専門学校(大阪府)	
12月25日(日)	エルプラザ札幌(北海道)	
12月29日(木)	男女・子育て環境改善研究所内会議室(福岡県)	
12月29日(木)	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	
1月9日(祝月)	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	
1月14日(土)	浜松市総合水泳場(静岡県)	
1月15日(日)	東京メディカルスポーツ専門学校(東京都)	
1月26日(木)	今帰仁総合体育館(沖縄県)	

## 学生委員会

### 学生リーダーの育成

2012年2月4日～5日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)にてリーダーズキャンプを実施。27大学126名が参加。「志」をテーマに交流をはかった。

### 学生大会組織運営

2011年9月23日(金)、24日(土)、愛知県知多郡/内海海岸千鳥ヶ浜海岸で行われた第26回全日本学生ラ

イフセービング選手権大会、2012年2月11日(土)・12日(日)静岡県浜松市/古橋廣之進記念浜松総合水泳場TOBIOで行われた第3回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会で実行委員として運営のサポートにあたった。

### 中学生・高校生のサポート

中学生プログラム(海)をはじめて実施した。これまでの高校生プロ

グラム(海)と合同開催し、中学生・高校生、そして大学生がプログラムを通して交流をはかった。

6月12日(日)

第1回中学生プログラム(海)  
第10回高校生プログラム(海)  
片瀬東浜 87名

2月12日(日)

第11回高校生プログラム(プール)  
流通経済大学 107名

## ジュニア委員会

### ジュニアライフセービング教室

日本財団による助成事業として全国の小中学生を対象に地域クラブを通じてジュニアライフセービング教室を開催。16クラブ444名の参加があった。開催クラブへの視察を実施し、情報提供、収集を徹底しながらジュニア教育指導指針の検証を徹底したい。\*ジュニア教室開催一覧

### 臨海学園指導協力

北区13年目、千代田区5年目に加え、板橋区のプールプログラムも新規開催となり、各区教育委員会主催行事として指導協力を行った。今年度は津波避難訓練を導入した。例年になく指導員確保も順調であった。

#### ●東京都北区中学校

7月21日～8月8日：参加者1063名  
指導ライフセーバー 255名

#### ●東京都千代田区中学校

7月21日～7月25日：参加者190名  
指導ライフセーバー 81名

#### ●東京都板橋区小学校

7月7日～7月19日：参加者1253名  
指導ライフセーバー 61名

### ジュニア指導者研修会

日本財団ジュニア教室実施予定クラブ担当者及び岩井臨海学園指導員を対象に、ジュニア教育に向けた研修会を関東・関西にて開催した。2011年6月11日(土)会場：成城学園中学校会議室では参加者35名、6月18日(土)会場：白浜町中央公民館では参加者10名であった。今後はウォーターセーフティの普及とジュニア指導者資格の普及を見込んだ研

修会の充実を図りたい。

### 第8回ジュニアライフセービング競技会with第3回JLAクラシック

神奈川県藤沢市/片瀬東浜海岸にて2011年9月18日(日)実施。

小中学生22チーム191名の参加。クラシックは34名が参加。競技会参加者の増加に伴い、来年度は中学生を高校生との競技会へ移行し、小学生は参加可能年齢を下げることを検討する。さらにニーズが多いプール競技会の実施を検討したい。

### ジュニア資格プレ講習会実施

2012年度スタートのJLAアカデミーであらたに設置されたジュニア

#### ■ジュニア教室開催一覧

日程	実施クラブ	参加者数
7/23	札幌LSC	32
7/24	大磯LSC	24
8/7	鴨川LSC	26
8/7	勝浦LSC	30
8/7	相良SLSC	30
8/9	小樽LSC	30
8/9	大洗SLSC	35
8/9-11	東海大学海洋学部/日本協会中部支部	97
8/13	京都LSC	13
8/14	岡山LSC	19
8/14	沼津LSC/日本協会中部支部	34
8/19	西伊豆LSC	27
8/21	かごしま磯LSC	12
8/21	若狭和田LSC	7
8/22	若狭和田LSC	7
10/2	北谷公園LSC	21

#### ■ジュニア・リーダー資格プレ講習会

開催日	会場	参加人数
11月27日(日)	千代田区立九段中等教育学校(東京都)	13
1月15日(日)	神戸市民福祉スポーツセンター(兵庫県)	26
3月25日(日)	盛岡市立総合プール(岩手県)	8
参加人数合計		47

#### ■ジュニア・サポーター講習会

開催日	会場	参加人数
3月25日(日)	盛岡市立総合プール(岩手県)	2
参加人数合計		2

ライフセービングサポーターやリーダーの育成に向けたプレ講習会を実施した。今後は映像なども交えた指導者向け教材の開発を推進したい。

\*講習会開催一覧(開催地/参加人数)

### 企業との連携

昨年度より引き続き、東京都/株式会社ポピンズコーポレーションが展開している「アクティブラーニングスクール」との提携を実施。キッズライフセービングプログラムの提供を行った。課外プログラムの一環として、スクール生と保護者の公式競技会のジュニアイベント参加が実現。さらにライフセービングへの認知を深めていただくことができた。

# スポーツ部

## 競技運営・審判委員会

### ■ 競技会運営その他

公式競技会6ヶ所、公認競技会1ヶ所の運営を行い、審判員を派遣した。大会開催中は他委員会とのコラボレーションにより、併催されるイベントも増えてきており、エリア設定や観客増員への対応に工夫を凝らす事が今後の課題となった。

また競技規則についてはILSに準

拠した改訂項目についての翻訳作業とJLA競技規則への整合作業、選手キャップの登録規定一部改訂に向けての検討、伝達を行った。

### ■ 審判員の養成講習など

2011年度C級審判員養成講習会を全7回、総勢199名に実施した。審判員研修会は4回実施。年々参加者

が減少傾向にあるので、開催時期、場所を検討したい。

来年度はオーストラリアで開催される世界大会Rescue2012に、2名の審判員派遣を予定しており、JLA推薦の審判員を選抜、エントリーした。

\* 競技会、審判、スタッフ人数  
\* 審判員研修会の開催

### ■ C級認定審判員養成講習会

開催日	場所	参加者数
5月7日(土)	東京メディカルスポーツ専門学校(東京都)	18
6月18日(土)	白浜町役場(和歌山県)	21
9月4日(日)	かながわ女性センター(神奈川県)	25
9月10日(土)	常滑市社会福祉会館(愛知県)	7
10月2日(日)	日本体育大学(東京都)	26
1月22日(日)	日本体育大学(東京都)	96
1月22日(日)	長居競技場(大阪府)	6
合計		199

### ■ 審判員研修会

開催日	場所	参加者数
6月18日(土)	白浜町役場(和歌山県)	4
6月26日(日)	日本体育大学(東京都)	4
9月10日(土)	常滑市社会福祉会館(愛知県)	2
10月2日(日)	日本体育大学(東京都)	2
合計		12

## 競技力強化委員会

### ■ ハイパフォーマンスチームの強化合宿

2011年度よりノミネート制度を取り入れ、第6期ハイパフォーマンスチームとして強化指定選手(任期:2011年11月1日~2012年10月31日)を募集し、選考された37名について強化合宿を行った。

2011年11月13日:顔合わせ合宿(東京都) 35名

2011年11月19-20日:サーフ合宿/国際武道大学(千葉県) 35名

2011年12月17日:プール合宿/慶應義塾大学(神奈川県) 29名

2012年1月28-29日:プール合宿/流通経済大学(茨城県) 37名

2012年2月18-19日:プール合宿/流通経済大学(茨城県) 37名

### ■ 日本代表選手の強化合宿と競技会派遣

プール大会の他、2012年度の世界大会会場であるアーストラリア・アデレードでの州大会に参加し、情報収集を行った。合宿ではチーム作り、コンディショニングを含めた全体的な意識を向上するためのプログラムをはかった。

#### 派遣大会

2011年11月22-28日

第21回インターナショナルジャーマンカップ(欧州プール競技選手権) 日本代表選手10名派遣

11カ国中8位

2012年3月5-12日

南オーストラリア州大会およびアデレード合宿

Rescue2012会場でのトレーニングを行った

A指定選手 13名参加

B指定選手 12名参加

2012年3月25-4月2日

全豪選手権

日本代表選手 8名派遣

### ■ 国内競技会の視察・その他

国内JLA公認競技会他を視察しながら、強化選手選考やコーチングワーク強化、全体的なハイパフォーマンスプログラムの充実を計った。



## コンディショニング科学委員会 アンチドーピング委員会

### 競技会／

#### 日本代表選手サポート

昨年度に引き続き、JIA公式競技会でトレーナーステーションを開設した。国際武道大学トレーナーチームの他、高島整形外科によるサポートを実施したが、これからは他大学との共同提携も計りたい。

第6期強化指定選手が一同に集まる顔合わせミーティングでは、コンディショニングについての講話を行い、特にセルフコンディショニング

とドーピングについてレクチャーした。さらに第21回インターナショナルジャーマンカップ2011にはトレーナーとして小粥委員が帯同し、競技会での実践で選手に直接コンディショニングとドーピングについてサポートした。

#### コンディショニングセミナー

##### その他

2012年3月4日のライフセービングフォーラムで特設ブースを開設。

実践を交えながらインフォメーションすることができた。参加者にも好評だったため、指導員向けや他事業との併催で今後も継続実施を検討したい。またホームページによる情報発信がなかなかできなかったため、今後有効な情報公開方法をさらに検討したい。

アンチドーピング方針については、今後JADAへの加入を含めた長期ビジョンを確立したい。

## 学術研究委員会

### 国際溺水事故防止会議に

#### 参加

2011年5月10日～13日にベトナム・ダナンで国際ライフセービング連盟主催の国際溺水事故防止会議が開催され参加した。先の東日本大震災をうけ、オープニングセレモニーでは小峯理事長によるスピーチが行われた。また石川仁憲委員が日本からは初めて学会発表にのぞんだ。

#### 発表テーマ

「Outbreak Factors of Drowning on the Shores of Japan」

T.KOMINE  
T.YAMAMOTO  
Y.NAKAGAWA  
T.ISHIKAWA  
T.KAZAMA  
T.HORIGUCHI

### ライフセービングフォーラム

2012年3月4日(日)、ライフセービングフォーラム2012を流通経済大学新松戸キャンパスで開催し、303名が来場した。

#### 進行

山本利春 (JIA副理事長)

#### プログラム

・東日本大震災をライフセービングで語る

小峯 力 (JIA理事)

・ガイドライン2010による新しい心肺蘇生法の概要

中川儀英 (JIA理事)

・ライフセーバーのコンディショニング

小粥智浩  
(JIAコンディショニング科学委員長)

・溺水事故防止対策の海外事情

石川仁憲 (JIA溺水事故防止委員長)

・溺水事故防止対策とパトロール・ログ改訂

風間隆宏 (JIA溺水事故防止委員)

・レスキューアスリート育成構想～RESCUE2012に向けて

遠藤大哉 (JIA競技力強化委員長)  
入谷拓哉 (JIA競技力強化委員)

・JIAアカデミーの概要

松本貴行 (JIA理事)

# 国際広報事業部

## 国際広報事業委員会

### 各種事業へのサポート

各種国際事業、海外競技会へ手続きその他の翻訳サポート、通訳帯同を行った。

#### 通訳帯同

- 2011年5月10日～13日  
World Conference on Drowning PreventionおよびILS理事会・委員会
- 2011年11月24日～26日  
第21回インターナショナルジャーマンカップ
- 2012年3月5日～12日  
第6期強化指定選手アデレード強化合宿

#### 翻訳・情報収集サポート

- WCDP2011エントリー
- SLSAコーチングセミナー
- Rescue2012

- ジャーマンカップエントリー
- オーストラリア・SA州大会エントリー
- 全豪選手権エントリー
- WATER SAFETY JAPAN研修渡豪派遣
- 全豪選手権
- 海外とのメール
- 海外メディア、WEB情報

### 各種情報の発進

事務局が主体となり、ホームページ、twitterの運用、管理を行った。2011年度より講習会、競技会の要項発送状況、公式競技会の競技結果速報をtwitterで発進した。

昨年度に引き続き、年2回、舵社発行のレスキューマガジン編集監修、

会員向けの会報誌「Rescue」の編集、アニュアルレポート2010の編集を行った。

#### 監修

LifeSaving2011 Vol.13  
2011年6月30日  
株式会社舵社発行  
LifeSaving2011 Vol.14  
2011年12月30日  
株式会社舵社発行

#### 編集

会報誌The Rescue 40  
会報誌The Rescue 41  
アニュアルレポート2010

#### 公式ホームページ

<http://www.jla.gr.jp/index.htm>

#### 公式twitter

<http://twitter.com/jlahq>

# 特別委員会

## 支部協議委員会

### 支部設立状況

#### 2011年度

<支部>

- 北海道支部
- 神奈川支部
- 中部支部
- 九州支部
- 沖縄支部

<設立準備>

- 東北地域

- 新潟地域
- 千葉地域
- 東京地域
- 京阪神地域

### 会員会費制度の見直しと支部の在り方

会員数拡大に繋がる制度の見直しを引き続き検討しが、事務局本部主体で各種シミュレーションを実施

するに留まった。JLAアカデミーのスタート、旧来のライフセービング資格更新キャンペーンの実施にともなうサポートを含め、ジュニアライフセービング教室の実施や競技会の運営サポートの実施とともに、本部と支部との在り方を検証すること、各種システムや連携ルールを確立することが急務である。

# 特別委員会

## 世界大会招致検討委員会

### ■ 世界大会動向

2014年のRescue2014世界大会は「フランス」に決定した。2010年10月のILS理事会で決定された世界大会実施要項では、2014年以降、国別対抗戦は2年毎、クラブ対抗戦、その他のオプションは4年毎の実施ということが採択された。しかし招致立候補国からはクラブ対抗戦、オプションを加えた様式を希望するケースが多いようで、今後変更の可能性も鑑みる必要があるようだ。

今後も様々な角度から国際大会誘致の検討を続けることを事務局へ引き継いだ。

## 特別プロジェクト

### 制度検討プロジェクト

#### ■ JLAアカデミーの始動

JLAアカデミーの概要を継続検討し、2011年度からの施行した。この新資格体系は水辺の事故ゼロを目指す団体として、社会貢献事業となりうる「自助資格」の部分と今まで通りの「救助資格」との2段体系が特徴である。

すべてのライフセーバー資格の根底にウォーターセーフティとCPR

による自助資格を義務づけ、その上にライフセーバー資格を位置づけた。

これまでより資格受講可能年齢を下げることで、ジュニア活動のサポーターやリーダーを育成する資格を設定することで、より一層ライフセービングへの間口を広げた体系となった。

今後はカリキュラムの作成、初年度のフォロー、さらにILS資格との準

拠のプロセスを整える。





# パトロールログ & レスキューレポート2010-2011トピックス

## Patrol & Rescue Report 2010-2011 Topics

JLA に登録のある全国の監視活動エリアより提出いただいた報告書より、集計可能なデータ（2010年：134カ所／2011年：124カ所を対象に集計した結果です。

### 2011

延べパトロール ライフセーバー **26,411人**

延べパトロール 活動日数 **4,913日**

総レスキュー **1,068件**

ライフセーバーが関ったレスキューの内、もしかしたら大きな事故につながったかもしれない未然の対処件数として、以下の安全移送件数が多い事は、最大の特徴である。

安全移送件数 **995件**

安全移送とは自力で浮く事は出来るが自ら安全な位置や浜に移動する事ができない者の移送等

軽溺者件数 **65件**

軽溺者とは意識はあるが自力で浮く事が困難な溺者の救助

重溺者件数 **8件**

重溺者とは意識不明の溺者の救助

ファーストエイド **9,717件**

迷子 **336件**

# レスキューレポート

## 1. 2010年度パトロールログ集計

JLAでは、1998年よりJLAが関与している海水浴場（一部プールも含む）において、各ライフセービングクラブの協力を得てパトロールログの集計を行っている。この集計は、JLAプロジェクトに掲げられた、レスキューの減少、パトロールシステムの構築、社会復帰率の向上に貢献しうる情報収集のために実施するものである。

海水浴場における水難事故の詳細な統計データは、公的機関では集計しておらず、日本の水難事故防止に向けた様々な対策を考える上で、非常に貴重なデータである。

今回のデータ集は、2012年2月29日までに提出されたデータのうち、集計可能なデータであった125箇所について集計を行ったものである。

### ▶ 集計結果

#### 1.1 結果概要

図1に、報告書（ワードファイル）で報告された125箇所の海水浴場及びプールにおけるパトロール中に発生したアクシデント（FA（ファーストエイド）、迷子、レスキュー）数を示す。FA数は、9,717件、迷子数は、336件、レスキュー数は1,068件であった。

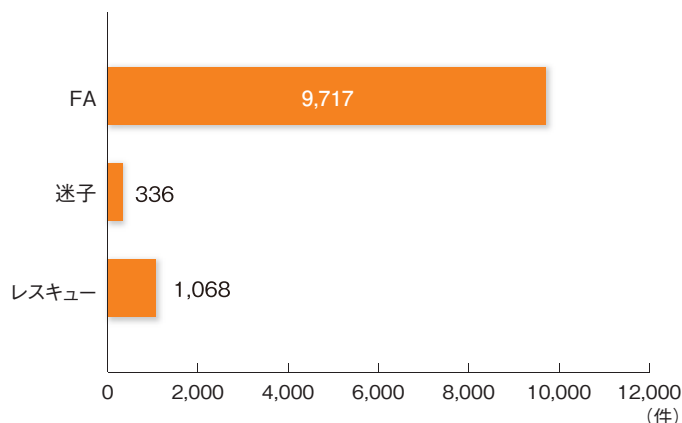


図1 パトロール中のアクシデント数

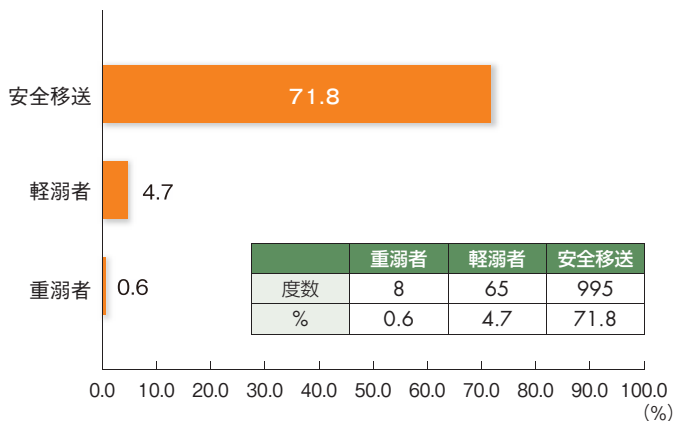


図2 レスキューの内訳

図2に、レスキューの内訳（重溺者・軽溺者・安全移送）を示す。重溺者が8件、軽溺者が65件、安全移送が995件であった。なお各項目の定義は以下の通り。

- ・重溺者（意識なし）：意識不明の溺者の救助
- ・軽溺者（意識あり）：意識はあるが自力で浮くことが困難な溺者の救助
- ・安全移送：自力で浮くことはできるが、自ら安全な位置や浜に移動することができない者の移送等

図3に、重溺者の内訳（蘇生・死亡・不明）を示す。8件の重溺者のうち、3名が蘇生、5名が死亡であった。

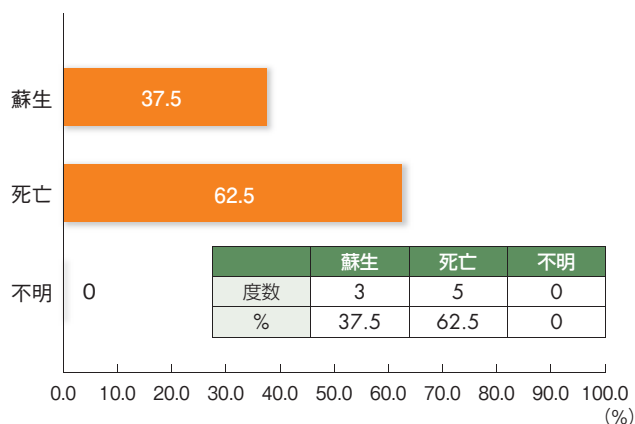
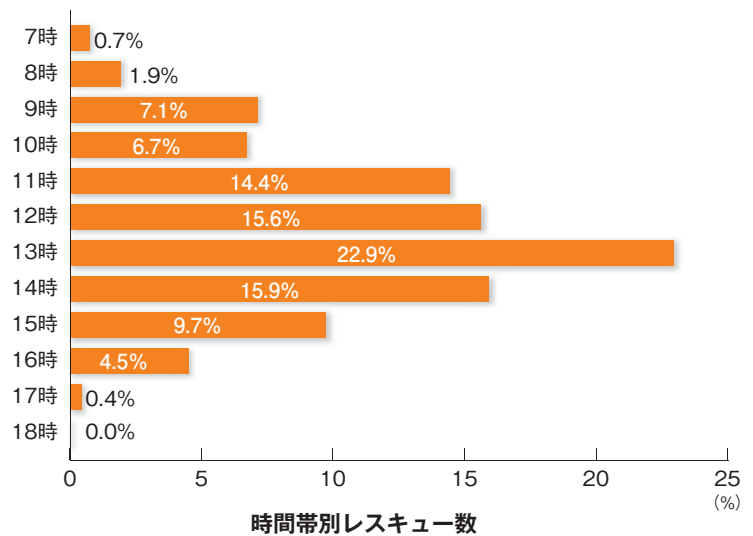


図3 重溺者の内訳

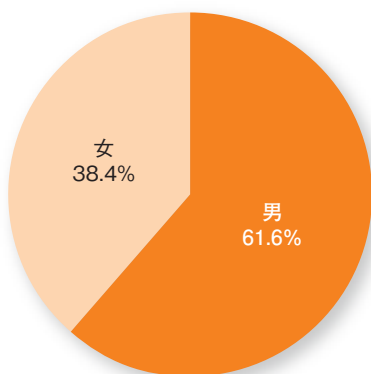
## 1.2 結果詳細

ここでは、集計のレスキューレポートで提出された安全移送・軽溺者・重溺者の867件のデータの集計結果のみを列記する。集計に関しては、頻度分布及び割合を示す。各集計値の合計は欠測値があるため、必ずしも867件にはならない。

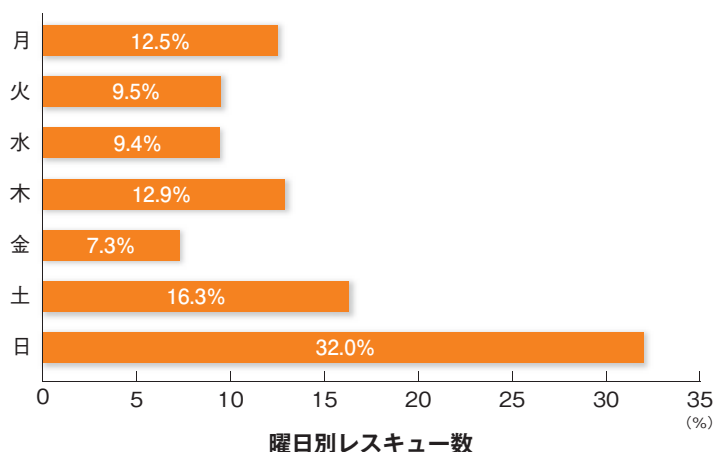
レスキューの  
特性に関する  
データ



時間帯別レスキュー													合計
7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時		
度数	5	13	48	45	97	105	154	107	65	30	3	0	672
頻度	0.7%	1.9%	7.1%	6.7%	14.4%	15.6%	22.9%	15.9%	9.7%	4.5%	0.4%	0.0%	



男女別レスキュー数



性別レスキュー数			合計
男	女		
度数	415	259	674
頻度	61.6%	38.4%	

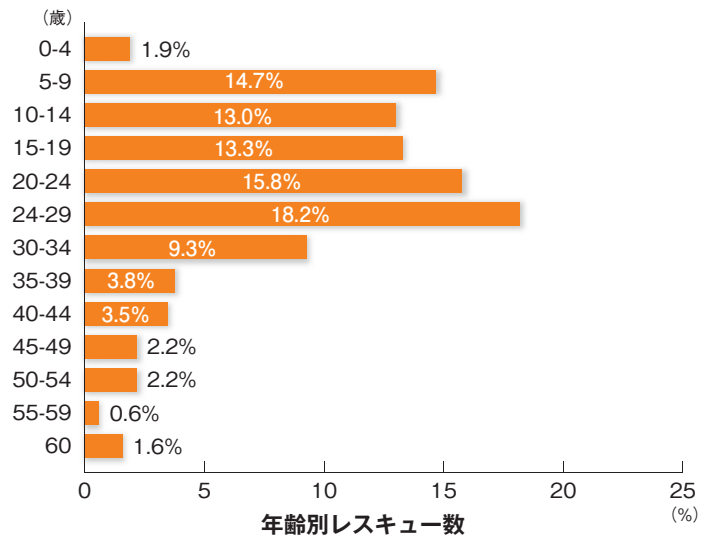
曜日別レスキュー数								合計
月	火	水	木	金	土	日		
度数	96	73	72	99	56	125	245	766
頻度	12.5%	9.5%	9.4%	12.9%	7.3%	16.3%	32.0%	



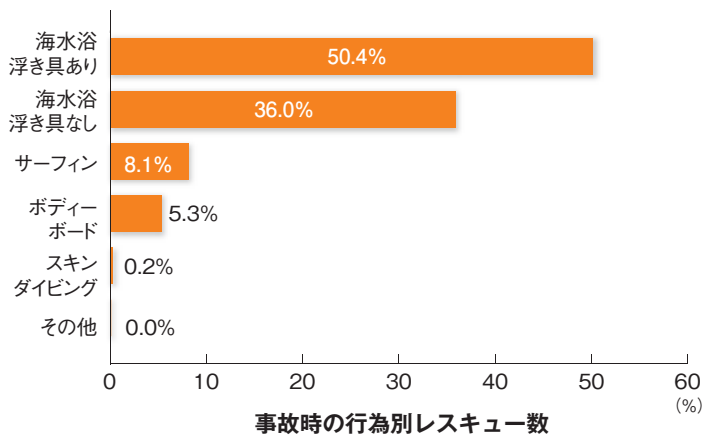
年齢別レスキュー数							
	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	24-29	30-34
度数	12	93	82	84	100	115	59
頻度	2%	15%	13%	13%	16%	18%	9%

	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60	合計
度数	24	22	14	14	4	10	633
頻度	4%	3%	2%	2%	1%	2%	

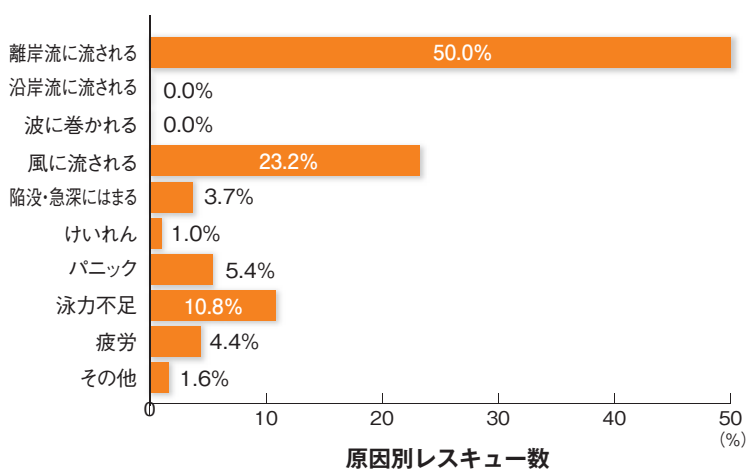


レスキューの  
要因に関する  
データ



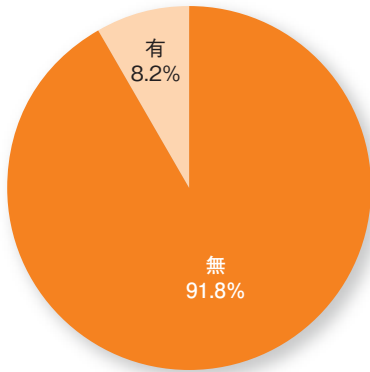
事故時行為別レスキュー数				
	海水浴 浮き具あり	海水浴 浮き具なし	サーフィン	ボディボード
度数	297	212	48	31
頻度	50.4%	36.0%	8.1%	5.3%

	スキンダイビング	その他	合計
度数	1	0	589
頻度	0.2%	0.0%	



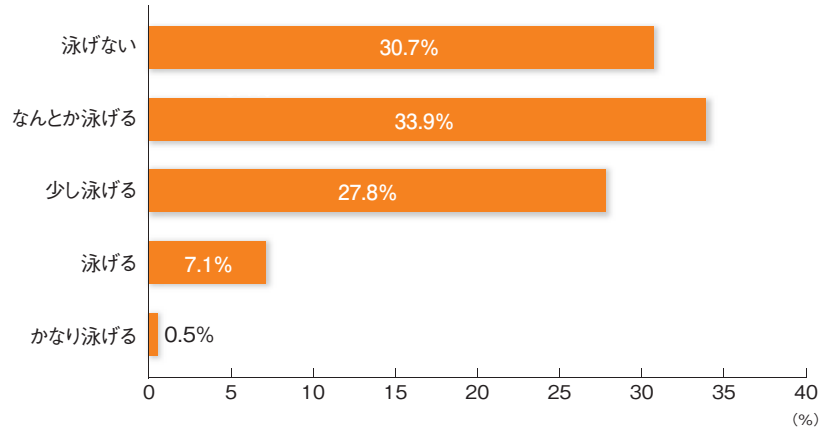
原因別レスキュー数											
	離岸流に流される	沿岸流に流される	波に巻かれる	風に流される	陥没・急深にはまる	けいれん	パニック	泳力不足	疲労	その他	合計
度数	287	0	0	133	21	6	31	62	25	9	574
頻度	50.0%	0.0%	0.0%	23.2%	3.7%	1.0%	5.4%	10.8%	4.4%	1.6%	

レスキューの  
要因に関する  
データ(個人要因)



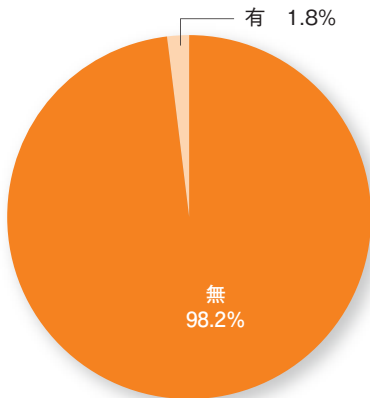
被救助者の飲酒の有無

飲酒の有無			
	有	無	合計
度数	58	646	704
頻度	8.2%	91.8%	



被救助者の水泳能力

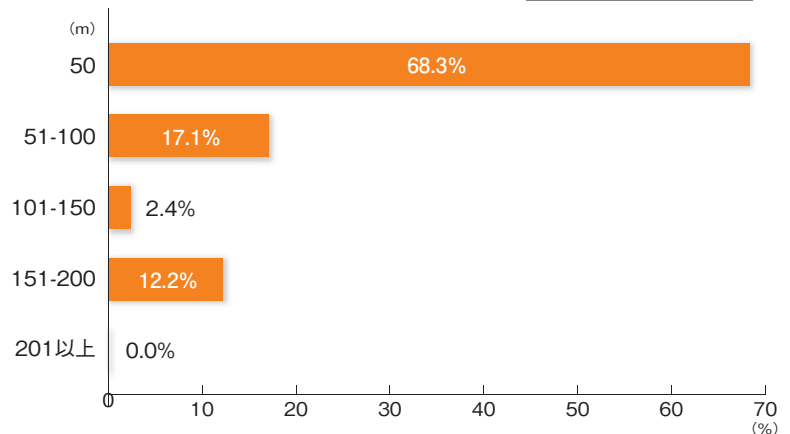
被救助者の水泳能力						
	泳げない	なんとか泳げる	少し泳げる	泳げる	かなり泳げる	合計
度数	200	221	181	46	3	651
頻度	30.7%	33.9%	27.8%	7.1%	0.5%	



被救助者の持病の有無

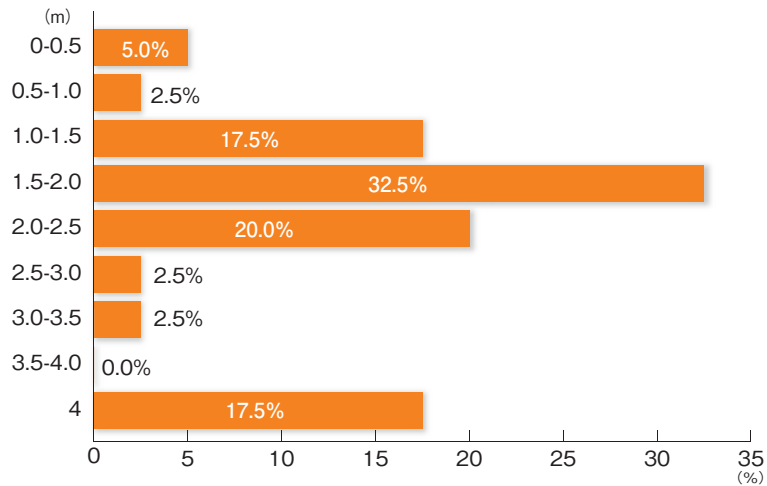
持病の有無			
	有	無	合計
度数	10	548	558
頻度	1.8%	98.2%	

レスキューの  
要因に関する  
データ(自然要因)



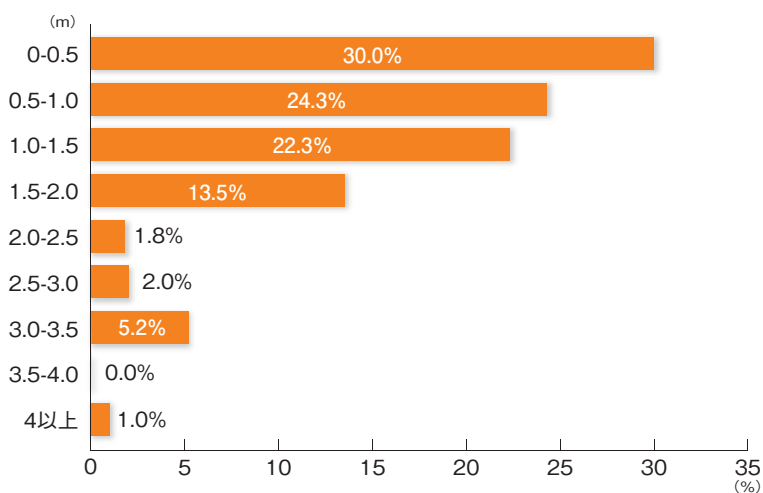
レスキュー地点の汀線からの距離

汀線からの距離 (m)						
	50m	51-100m	101-150m	151-200m	201m 以上	合計
度数	28	7	1	5	0	41
頻度	68.3%	17.1%	2.4%	12.2%	0.0%	



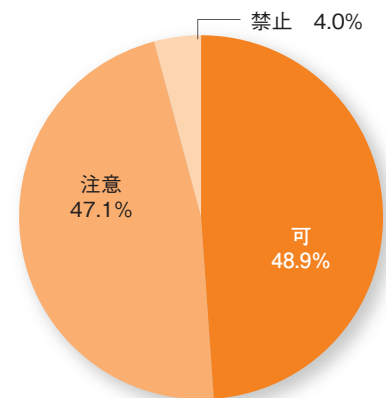
レスキュー時の水深

水深										
	0-0.5m	0.5-1.0m	1.0-1.5m	1.5-2.0m	2.0-2.5m	2.5-3.0m	3.0-3.5m	3.5-4.0m	4m以上	合計
度数	2	1	7	13	8	1	1	0	7	40
頻度	5.0%	2.5%	17.5%	32.5%	20.0%	2.5%	2.5%	0.0%	17.5%	



レスキュー地点の波高

波高 (m)										
	0-0.5	0.5-1.0	1.0-1.5	1.5-2.0	2.0-2.5	2.5-3.0	3.0-3.5	3.5-4.0	4	合計
度数	151	122	112	68	9	10	26	0	5	503
頻度	30.0%	24.3%	22.3%	13.5%	1.8%	2.0%	5.2%	0.0%	1.0%	

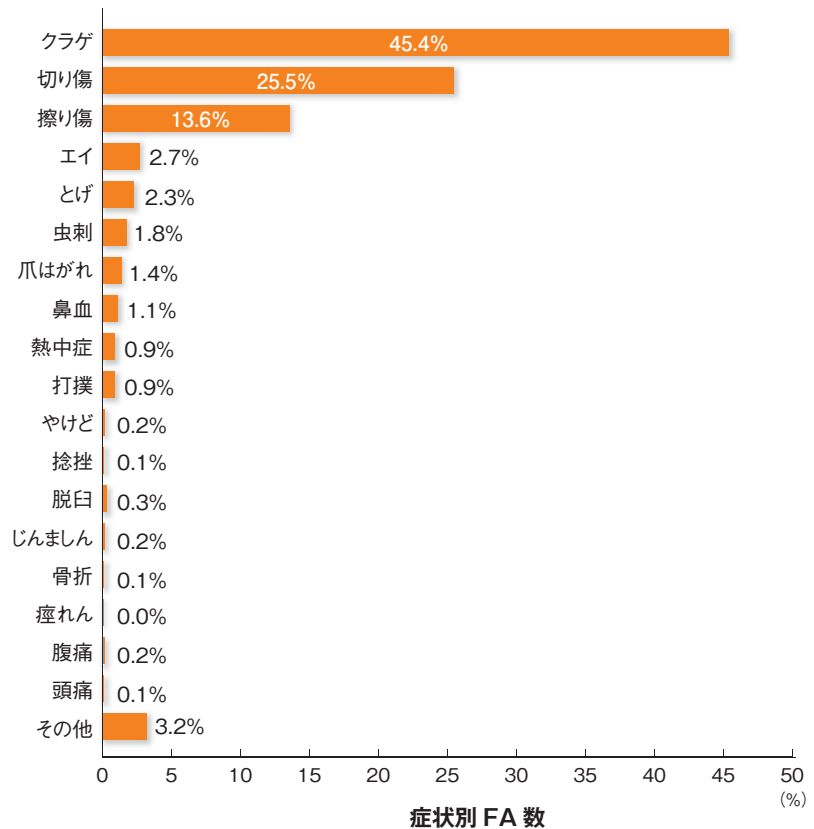


レスキュー時の遊泳条件

遊泳条件				
	可	注意	禁止	合計
度数	281	271	23	575
頻度	48.9%	47.1%	4.0%	

### 集計(ファーストエイドレポート)

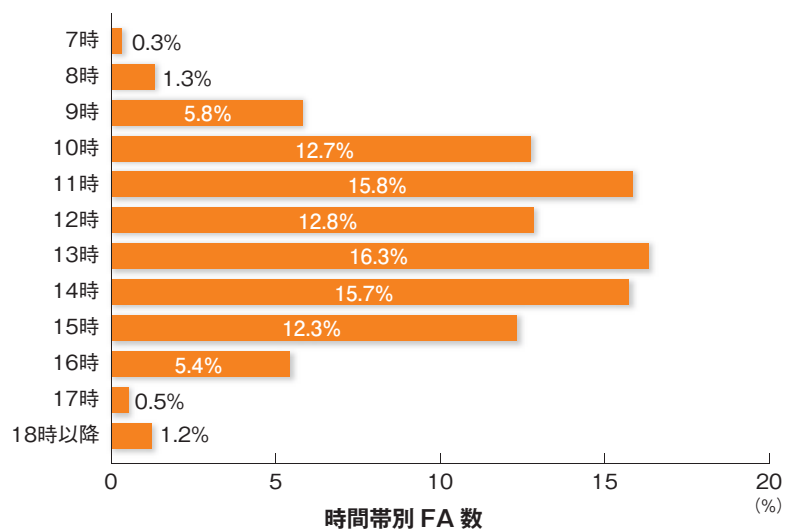
ここでは、集計のファーストエイドレポートで提出されたファーストエイドの5,674件のデータの集計結果のみを列記する。集計に関しては、頻度分布及び割合を示す。各集計値の合計は欠測値があるため、必ずしも5,674件にはならない。



症状別 FA 数										
	擦り傷	切り傷	擦り傷	エイ	とげ	虫刺	爪はがれ	鼻血	熱中症	打撲
度数	1786	1004	537	107	91	70	54	43	37	37
頻度	45.4%	25.5%	13.6%	2.7%	2.3%	1.8%	1.4%	1.1%	0.9%	0.9%

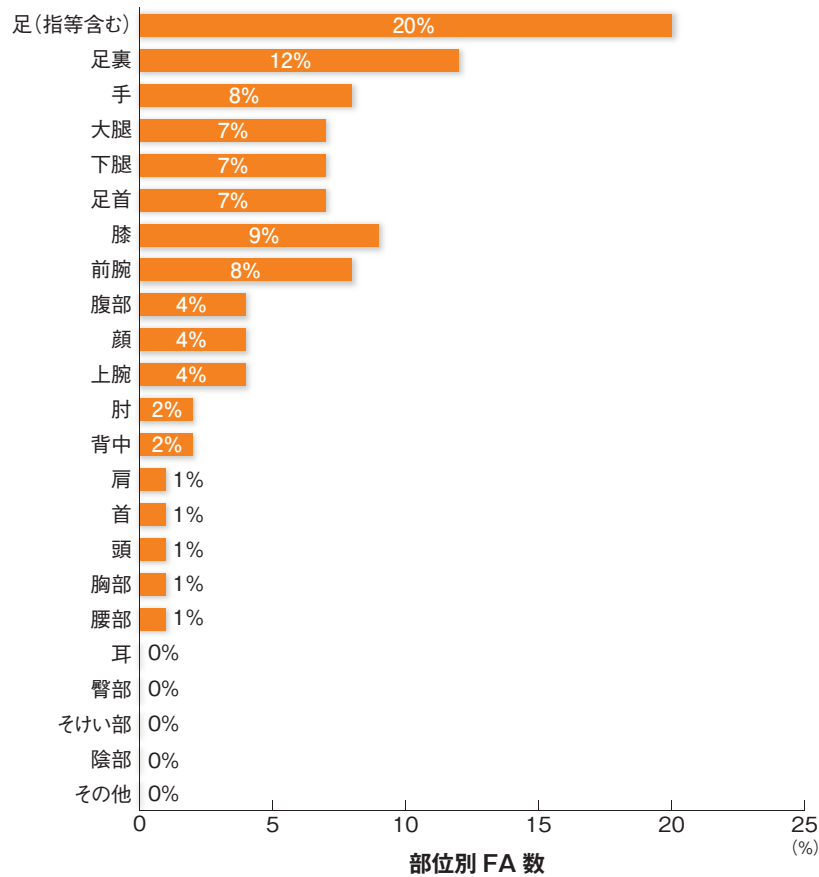
  

	やけど	捻挫	脱臼	じんましん	骨折	痺れん	腹痛	頭痛	その他	合計
度数	6	5	12	7	5	1	6	2	127	3937
頻度	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	3.2%	



時間帯別 FA 数													
	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時以降	合計
度数	8	36	163	356	441	358	455	440	345	150	13	33	2798
頻度	0.3%	1.3%	5.8%	12.7%	15.8%	12.8%	16.3%	15.7%	12.3%	5.4%	0.5%	1.2%	

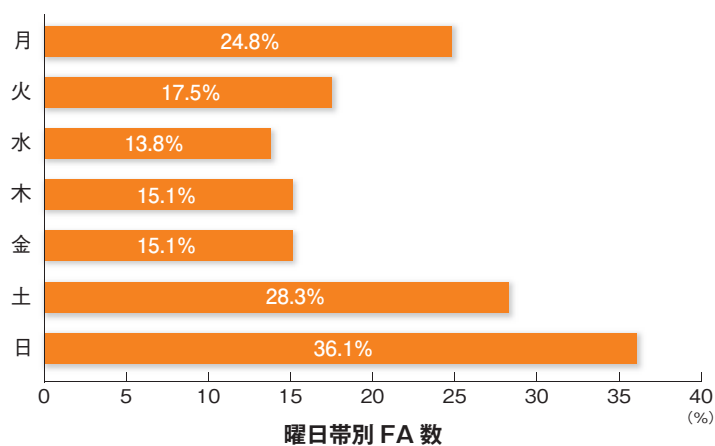




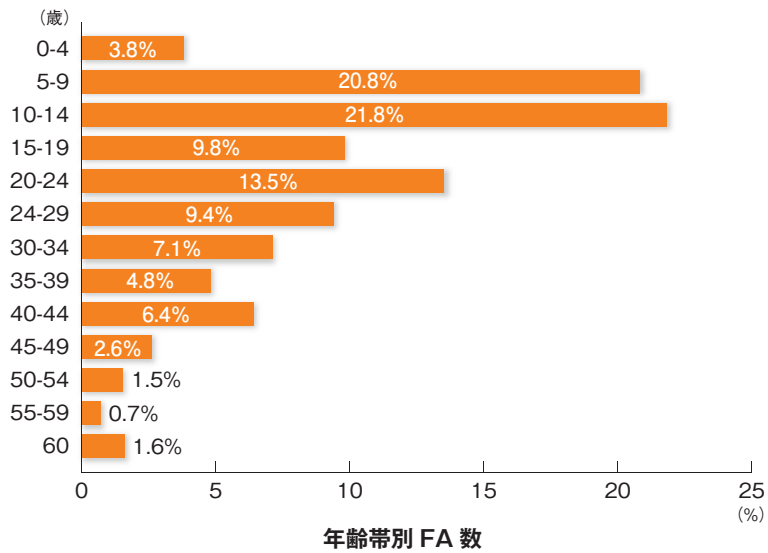
部位別FA数												
	足(指等含む)	足裏	手	大腿	下腿	足首	膝	前腕	腹部	顔	上腕	肘
度数	497	291	209	178	167	178	214	199	91	100	102	50
頻度	20%	12%	8%	7%	7%	7%	9%	8%	4%	4%	4%	2%

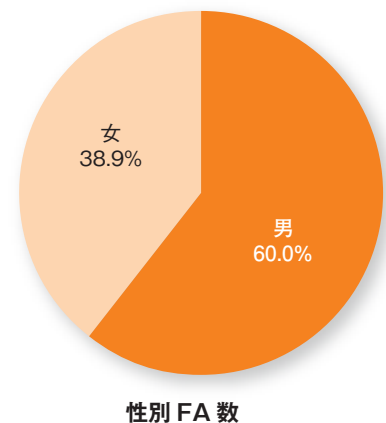
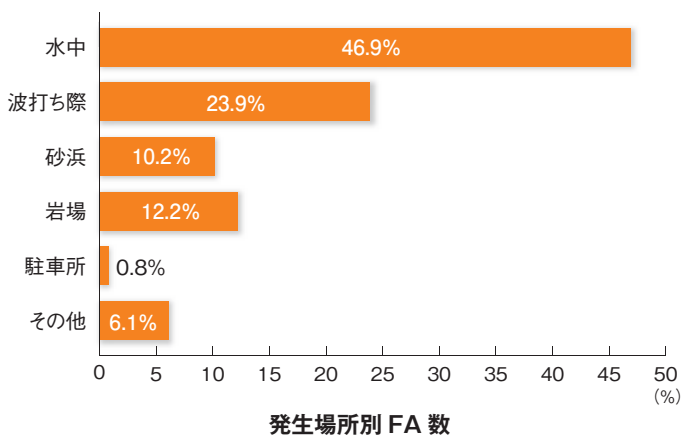
	背中	肩	首	頭	胸部	腰部	耳	臀部	そけい部	陰部	その他	合計
度数	53	27	20	25	33	19	1	5	5	4	3	2471
頻度	2%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	



曜日別FA数								
	月	火	水	木	金	土	日	合計
度数	693	489	386	422	423	793	1011	440
頻度	24.8%	17.5%	13.8%	15.1%	15.1%	28.3%	36.1%	



年齢別 FA 数														
	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	24-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60	合計
度数	103	564	591	264	366	255	191	129	173	71	40	18	44	2706
頻度	3.8%	20.8%	21.8%	9.8%	13.5%	9.4%	7.1%	4.8%	6.4%	2.6%	1.5%	0.7%	1.6%	



発生場所別 FA 数							
	水中	波打ち際	砂浜	岩場	駐車場	その他 ( )	合計
度数	1344	684	291	350	22	174	2865
頻度	46.9%	23.9%	10.2%	12.2%	0.8%	6.1%	

性別別 FA 数			
	男	女	合計
度数	1720	1115	2835
頻度	60.0%	38.9%	



# —公式競技会大会結果—

## ▶ 第24回 全日本ライフセービング・プール競技選手権大会

開催日:2011年5月14日(土)・15日(日) 場所:古橋廣之進記念浜松市総合水泳場 ToBiO(静岡県浜松市) 参加数:36チーム451名

### 個人種目競技結果

#### 男子

##### ■ 200m 障害物スイム

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	遠藤 雅	柏崎LSC	2:06.94
2	菊地 光	日本大学SLSC	2:07.91
3	下平 亮輔	成城学園LSC	2:09.75
4	坂本 陸	西浜SLSC	2:11.85
5	中本 直也	拓殖大学LSC	2:12.07
6	遠藤 望	柏崎LSC	2:12.51
7	大出 旭	流通経済大学LSC	2:12.70
8	佐口 太一	愛知LSC	2:12.84

##### ■ 50m マネキンキャリー

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	田村 憲章	銚子LSC	33.60
2	鈴木 一也	茅ヶ崎SLSC	34.44
3	澤田 翼	日本体育大学LSC	34.72
4	中本 直也	拓殖大学LSC	35.86
5	菅沼 寛也	下田LSC	35.94
6	鈴木 陵平	館山SLSC	36.45
7	佐藤光太郎	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ CREST	37.17

##### ■ 100m レスキューメドレー

順位	競技者氏名	チーム名	記録
<b>日本新</b> 1	清水 雅也	拓殖大学LSC	<b>1:07.46</b>
2	橋本 将吾	拓殖大学LSC	1:12.49
3	園田 俊	流通経済大学LSC	1:13.24
4	伊藤 俊輔	館山SLSC	1:13.80
5	中島 章	新島LSC	1:15.47
6	加藤 凌	早稲田LSC	1:15.90
7	坂本 類	早稲田LSC	1:16.74
8	田村 憲章	銚子LSC	1:19.06

##### ■ 100m マネキンキャリー・ウィズフィン

順位	競技者氏名	チーム名	記録
<b>大会新</b> 1	西山 俊	湯河原LSC	<b>54.96</b>
2	多田 創一	玉川大学	58.41
3	田中 裕介	拓殖大学LSC	58.66
4	大谷翔一郎	流通経済大学LSC	59.25
5	高橋 徹	和田浦LSC	59.62
6	水上 篤	西浜SLSC	1:02.18
7	林 克	鹿嶋LGT	1:02.73
8	井口 裕太	日本体育大学LSC	1:03.40

##### ■ 100m マネキントウ・ウィズフィン

順位	競技者氏名	チーム名	記録
<b>日本新</b> 1	西山 俊	湯河原LSC	<b>58.36</b>
2	鈴木 陵平	館山SLSC	1:00.00
3	中村 公彦	大竹SLSC	1:01.11
4	中野 達也	日本体育大学LSC	1:01.37
5	篠田 智哉	勝浦LSC	1:01.54
6	林 昌広	御宿LSC	1:02.02
7	岡田 悟	日本大学SLSC	1:02.21
8	菊地 光	日本大学SLSC	1:02.25

#### 女子

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	栗真 千里	日本体育大学LSC	2:22.08
2	下山 愛由	日本体育大学LSC	2:24.85
3	鈴木 聖美	日本大学SLSC	2:29.00
4	塩島沙穂子	国士館大学LSC	2:30.38
5	三吉 菜月	大阪体育大学LSC	2:30.56
6	古泉 祥乃	日本女子体育大学LSC	2:31.34
7	情野 望	日本女子体育大学LSC	2:33.13
8	高橋 志穂	柏崎LSC	2:40.67

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	三井結里花	日本大学SLSC	41.80
2	毛利 邦	館山SLSC	41.97
3	佐伯 芽維	日本体育大学LSC	43.52
4	勝俣 閑	西浜SLSC	44.77
5	水間 菜登	勝浦LSC	46.53
6	本城 理華	日本体育大学LSC	46.73
7	國東 瑞紀	日本女子体育大学LSC	46.88
8	金坂 佳瑛	日本女子体育大学LSC	47.56

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	佐伯 芽維	日本体育大学LSC	1:21.58
2	栗真 千里	日本体育大学LSC	1:27.89
3	大淵真理子	日本女子体育大学LSC	1:29.41
4	金坂 佳瑛	日本女子体育大学LSC	1:30.69
5	情野 望	日本女子体育大学LSC	1:32.48
6	稲川 早葵	日本女子体育大学LSC	1:40.85
7	高橋 祥子	三多摩LSC	1:55.34

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	毛利 邦	館山SLSC	<b>1:06.57</b> <b>大会新</b>
2	水間 菜愉	勝浦LSC	1:08.61
3	篠岡 桂子	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ CREST	1:09.76
4	大淵真理子	日本女子体育大学LSC	1:10.74
5	名須川紗綾	茅ヶ崎SLSC	1:11.88
6	神村 美咲	日本女子体育大学LSC	1:12.06
7	田中亜由美	日本体育大学LSC	1:14.48
8	鎌田 優	東京女子体育大学LSC	1:15.48

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	水間 菜登	勝浦LSC	<b>1:06.62</b> <b>日本新</b>
2	水間 菜愉	勝浦LSC	1:09.42
3	上村 真央	拓殖大学LSC	1:10.33
4	田中亜由美	日本体育大学LSC	1:11.74
5	槻田ちひろ	日本体育大学LSC	1:12.20
6	宮田 沙依	日本体育大学LSC	1:12.24
7	花岡 香那	館山SLSC	1:12.46
8	望月 桃子	日本体育大学LSC	1:12.56



男子

■ 200m スーパーライフセーバー

順位	選手名	チーム名	記録
1	清水 雅也	拓殖大学LSC	2:28.82
2	長竹 康介	西浜SLSC	2:29.09
3	林 昌広	御宿LSC	2:35.37
4	中野 達也	日本体育大学LSC	2:37.27
5	田山 俊介	大竹SLSC	2:37.31
6	大出 旭	流通経済大学LSC	2:43.86
7	名須川開渡	日本大学SLSC	2:44.13
8	佐藤嶺太郎	銚子LSC	2:55.39

■ 4×50m 障害物リレー

順位	チーム名	記録
1	柏崎LSC	1:50.67
2	日本大学SLSC	1:50.86
3	拓殖大学	1:52.12
4	早稲田LSC	1:53.67
5	日本体育大学LSC	1:54.66
6	大阪体育大学LSC	1:54.93
7	銚子LSC	1:55.50
8	西浜SLSC	1:57.03

■ 4×25m マネキンリレー

順位	チーム名	記録
<b>日本新</b>	1 拓殖大学LSC	<b>1:19.55</b>
<b>大会新</b>	2 西浜SLSC	<b>1:21.67</b>
<b>大会新</b>	3 日本体育大学LSC	<b>1:23.32</b>
<b>大会新</b>	4 銚子LSC	<b>1:24.75</b>
	5 日本大学SLSC	1:26.43
	6 流通経済大学LSC	1:34.20

■ 4×50m メドレーリレー

順位	チーム名	記録
1	日本大学SLSC	1:39.68
2	日本体育大学LSC	1:40.34
3	大阪体育大学LSC	1:40.42
4	流通経済大学LSC	1:41.30
5	西浜SLSC	1:41.37
6	国土館大学LSC	1:43.44
7	柏崎LSC	1:45.51

■ ラインスロー

順位	チーム名	記録
1	拓殖大学	13.22
2	日本体育大学LSC	13.23
3	西浜SLSC	14.11
4	順天堂大学	14.46
5	湯河原LSC	14.76
6	鹿嶋LGT	16.29
7	流通経済大学LSC	26.14
8	玉川大学LSC	27.58

女子

順位	選手名	チーム名	記録
1	三井結里花	日本大学SLSC	2:50.44
2	宮田 沙依	日本体育大学LSC	2:52.51
3	花岡 香那	館山SLSC	2:55.83
4	上村 真央	拓殖大学LSC	2:56.09
5	河崎 綾子	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ CREST	2:57.27
6	坂本佳凧子	西浜SLSC	3:00.81
7	松澤みづほ	日本女子体育大学LSC	3:05.98
8	兼田明日佳	愛知LSC	3:07.34

順位	チーム名	記録
1	日本体育大学LSC	2:04.77
2	日本女子体育大学LSC	2:09.30
3	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ CREST	2:12.95
4	日本大学SLSC	2:13.17
5	勝浦LSC	2:13.24
6	東京女子体育大学LSC	2:15.67
7	館山SLSC	2:18.01
8	柏崎LSC	2:18.64

順位	チーム名	記録
1	<b>日本体育大学LSC</b>	<b>1:38.53</b> <b>大会新</b>
2	日本女子体育大学LSC	1:55.63
3	東京女子体育大学LSC	1:55.70
4	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ CREST	2:03.03
5	大竹SLSC	2:18.85

順位	チーム名	記録
1	<b>日本体育大学LSC</b>	<b>1:51.99</b> <b>大会新</b>
2	勝浦LSC	1:53.91
3	日本女子体育大学LSC	1:58.60
4	日本大学SLSC	2:00.77
5	東京女子体育大学LSC	2:01.23
6	順天堂大学	2:01.71
7	大阪体育大学LSC	2:02.13

順位	チーム名	記録
1	<b>日本体育大学LSC</b>	<b>14.94</b> <b>大会新</b>
2	大竹SLSC	23.61
3	京女子体育大学LSC	24.30
4	順天堂大学	30.39
5	下田LSC	37.40
6	勝浦LSC	41.69
7	西浜SLSC	43.84

## ■ 男女SERC

順位	チーム名	記録
1	西浜SLSC	108
2	大竹SLSC	99
3	日本女体大学	96
4	銚子LSC	79
5	流通経済大学LSC	79
6	日本体育大学LSC	73
7	勝浦LSC	73
8	成城学園LSC	70

## チーム総合成績

順位	チーム名	記録
1	日本体育大学ライフセービングクラブ	137
2	拓殖大学ライフセービングクラブ	71
3	日本大学サーフライフセービングクラブ	63
4	日本女子体育大学ライフセービングクラブ	62
5	西浜サーフライフセービングクラブ	51
6	勝浦ライフセービングクラブ	47
7	館山サーフライフセービングクラブ	40
8	流通経済大学ライフセービングクラブ	31
9	大竹サーフライフセービングクラブ	28
10	柏崎ライフセービングクラブ	23
11	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ(CREST)	23
12	銚子ライフセービングクラブ	22
13	湯河原ライフセービングクラブ	20
14	東京女子体育大学ライフセービングクラブ	20
15	大阪体育大学ライフセービングクラブ	15
16	順天堂大学ライフセービングクラブ	13
17	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	11
18	早稲田大学ライフセービングクラブ	10
19	御宿ライフセービングクラブ	9

順位	チーム名	記録
20	玉川大学LSC	8
21	国土館大学ライフセービングクラブ	8
22	下田ライフセービングクラブ	8
23	成城学園ライフセービング部	7
24	鹿嶋ライフガードチーム	5
25	新島ライフセービングクラブ	4
25	和田浦ライフセービングクラブ	4
27	三多摩ライフセービングクラブ	2
28	愛知ライフセービングクラブ	2
29	法政大学サーフライフセービングクラブ	0
29	式根島ライフセービングクラブ	0
29	明治大学サーフライフセービング部	0
29	専修大学サーフライフセービングクラブ	0
29	日本大学ライフセービングクラブ	0
29	東海大学海洋学部ライフセービングクラブLOCO	0
29	昭和第一学園高等学校 ライフセービング部	0
29	東京消防庁ライフセービングクラブ	0

※同得点チームの順位は、各競技の上位入賞数の違いによる。

# ▶ 第24回 全日本ライフセービング種目別選手権大会

開催日:2011年6月4日(土)・5日(日) 場所:下田白浜大浜海岸(静岡県下田市) 参加数:52チーム538名

## 個人種目

### 男子

#### ■サーフレース

順位	選手名	チーム名
1	清水 雅也	拓殖大学ライフセービングクラブ
2	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
3	鈴木 陵平	館山サーフライフセービングクラブ
4	菊地 光	日本大学サーフライフセービングクラブ
5	石川 直人	神奈川大学ライフセービングクラブ
6	中本 直也	拓殖大学ライフセービングクラブ
7	遠藤 望	柏崎ライフセービングクラブ
8	伊藤 俊輔	館山サーフライフセービングクラブ

### 女子

順位	選手名	チーム名
1	毛利 邦	館山サーフライフセービングクラブ
2	坂本佳凧子	西浜サーフライフセービングクラブ
3	栗真 千里	日本体育大学ライフセービングクラブ
4	越中 万智	九十九里ライフセービングクラブ
5	古泉 祥乃	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
6	三井結里花	日本大学サーフライフセービングクラブ
7	水間 菜登	勝浦ライフセービングクラブ
8	張間 優	順天堂大学ライフセービングクラブ

#### ■サーフスキーレース

順位	選手名	チーム名
1	松沢 齊	下田ライフセービングクラブ
2	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
3	篠田 智哉	勝浦ライフセービングクラブ
4	後関 裕輔	東京消防庁ライフセービングクラブ
5	池脇 良	下田ライフセービングクラブ
6	鈴木 祐輔	湯河原ライフセービングクラブ
7	出木谷啓太	九十九里ライフセービングクラブ
8	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
2	小松崎あゆみ	下田ライフセービングクラブ
3	猪又 美佳	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
4	伊藤みつる	勝浦ライフセービングクラブ
5	堀内 敦子	下田ライフセービングクラブ
6	星野 有美	用宗ライフセービングクラブ
7	久保美沙代	和田浦ライフセービングクラブ
8	藤井 香織	横浜海の公園ライフセービングクラブ

#### ■ボードレース

順位	選手名	チーム名
1	荒井 洋佑	西浜サーフライフセービングクラブ
2	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
3	小出 大祐	東京消防庁ライフセービングクラブ
4	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ
5	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
6	坂本 陸	西浜サーフライフセービングクラブ
7	小林 海	西浜サーフライフセービングクラブ
8	田島 亮	法政大学サーフライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	水間 菜登	勝浦ライフセービングクラブ
2	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
3	河崎 綾子	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
4	坂本佳凧子	西浜サーフライフセービングクラブ
5	田中亜由美	日本体育大学ライフセービングクラブ
6	名須川紗綾	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
7	及川 舞	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
8	河本 桂奈	成城学園ライフセービング部

#### ■オーシャンマン

順位	選手名	チーム名
1	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
2	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ
3	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
4	三木 翔平	神奈川大学ライフセービングクラブ
5	菅沼 寛也	下田ライフセービングクラブ
6	下平 亮輔	成城学園ライフセービング部
7	相島 千尋	波崎サーフライフセービングクラブ
8	加藤 凌	早稲田ライフセービングクラブ

#### ■オーシャンウーマン

順位	選手名	チーム名
1	河崎 綾子	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
2	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
3	上村 真央	拓殖大学ライフセービングクラブ
4	藤井 香織	横浜海の公園ライフセービングクラブ
5	栗真 千里	日本体育大学ライフセービングクラブ
6	毛利 邦	館山サーフライフセービングクラブ
7	名須川紗綾	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
8	宮田 沙依	日本体育大学ライフセービングクラブ

#### ■ビーチフラッグス

順位	選手名	チーム名
1	植木 将人	西浜サーフライフセービングクラブ
2	北矢 宗志	西浜サーフライフセービングクラブ
3	田中 翔太	勝浦ライフセービングクラブ
4	小田切伸矢	西浜サーフライフセービングクラブ
5	安達 和也	流通経済大学ライフセービングクラブ
6	竹澤 康輝	勝浦ライフセービングクラブ
7	沖野 淳平	日本体育大学ライフセービングクラブ
8	高宮 啓司	東京消防庁ライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	藤原 梢	館山サーフライフセービングクラブ
2	秋川知恵子	大洗サーフライフセービングクラブ
3	藤浪 優希	勝浦ライフセービングクラブ
4	小室 亜希	スポーツブレックスライフセービングクラブ
5	桜井亜矢子	銚子ライフセービングクラブ
6	渡辺 夏海	土肥ライフセービングクラブ
7	田中 和	横浜海の公園ライフセービングクラブ
8	池田 愛美	東京女子体育大学ライフセービングクラブ

## 男子

## ■ 2kmビーチラン

順位	選手名	チーム名
1	浅見 泰希	東京消防庁ライフセービングクラブ
2	神戸 浩樹	日本体育大学ライフセービングクラブ
3	新 涼太	明治サーフライフセービングクラブ
4	橋本 憲治	式根島ライフセービングクラブ
5	笹本 和人	法政大学サーフライフセービングクラブ

## 女子

順位	選手名	チーム名
1	松山 梨紗	東京女子体育大学ライフセービングクラブ
2	河本 桂奈	成城学園ライフセービング部
3	鈴木さゆり	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
4	小林 亜美	順天堂大学ライフセービングクラブ
5	仲野亜紗子	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
6	荻野 有子	下田ライフセービングクラブ
7	小野英理子	銚子ライフセービングクラブ
8	馬場美咲季	勝浦ライフセービングクラブ

## チーム種目

## ■ オーシャンマンリレー

順位	チーム名	選手名
1	下田ライフセービングクラブ	新井 正徳/松沢 斉/小林 孝一郎/加賀田 哲也
2	西浜サーフライフセービングクラブ	荒井 洋佑/長竹 康介/坂本 陸/北矢 宗志
3	勝浦ライフセービングクラブ	加藤 拓馬/篠田 智哉/楠本 慶明/中村 誠
4	東京消防庁ライフセービングクラブ	小出 大祐/後関 裕輔/落合 慶二/高宮 啓司
5	日本体育大学ライフセービングクラブ	澤田 翼/小山 浩一郎/中野 達矢/井口 裕太
6	国土館大学ライフセービングクラブ	小山 大志/野林 宏輝/杉山 朋大/高岡 洋介
7	館山サーフライフセービングクラブ	伊藤 俊輔/佐藤 和伯/鈴木 陵平/伊藤 孝彦
8	銚子ライフセービングクラブ	浅見 雄一郎/田村 憲章/田中 翔/三嶋 唯之

## ■ オーシャンウーマンリレー

順位	チーム名	選手名
1	勝浦ライフセービングクラブ	水間 菜愉/伊藤 みつる/水間 菜登/藤浪 優希
2	西浜サーフライフセービングクラブ	坂本 佳凧子/今井 恵子/皆川 綾菜/神戸 友美
3	日本体育大学ライフセービングクラブ	田中 亜由美/宮田 沙依/山口 夏未/栗真 千里
4	下田ライフセービングクラブ	小松崎 あゆみ/堀内 敦子/荻野 有子/宮原 千明
5	館山サーフライフセービングクラブ	間藤 里絵/堤 容子/毛利 邦/藤原 梢
6	日本女子体育大学ライフセービングクラブ	及川 舞/松浦 由依/古泉 祥乃/金坂 佳瑛
7	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ	大塚 彩加/河崎 綾子/篠岡 桂子/青海 佳奈
8	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	名須川 紗綾/猪又 美佳/下里 彩佳/三浦 梨奈



# ▶ 第8回 ジュニア・ライフセービング競技会

開催日:2011年9月18日(日) 場所:片瀬東浜海岸(神奈川県藤沢市) 参加数:22チーム191名

## 個人種目

### ■ ビーチフラッグス(小学生3、4年生 男女)

順位	選手名	チーム名
1	井上 祐里	西浜 SLSC
2	浜田 冬馬	柏崎 LSC
3	竹内 優希	西浜 SLSC

### ■ ビーチフラッグス(小学生5・6年生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	並松竜太郎	西浜 SLSC
2	森島駿カイ	ヒラッパース
3	森野 郁也	パディ冒険団

### ■ ビーチフラッグス(中学生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	吉田 重明	成城学園 LSC
2	高梨友美生	成城学園 LSC
3	久保 敦嗣	鎌倉 LG

### ■ ボードレース(小学生3・4年生 男女)

順位	選手名	チーム名
1	井上 祐里	西浜 SLSC
2	浜田 冬馬	柏崎 LSC
3	與那嶺維杏	サンセットビーチ LSC

### ■ ボードレース(小学生5・6年生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	小又 忠士	二宮 LSC
2	森野 郁也	パディ冒険団
3	船岡 唯斗	柏崎 LSC

### ■ ボードレース(中学生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	永石 哲朗	パディ冒険団
2	皆川 貴海	西浜 SLSC
3	加藤 豪	柏崎 LSC

### ■ ランスイムラン(小学生3・4年生 男女)

順位	選手名	チーム名
1	井上 祐里	西浜 SLSC
2	廣川 祐起	サンセットビーチ LSC
3	速水 彩	柏崎 LSC

### ■ ランスイムラン(小学生5・6年生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	相馬 翔太	西浜 SLSC
2	廣川 大起	サンセットビーチ LSC
3	船岡 唯斗	柏崎 LSC

### ■ ランスイムラン(中学生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	皆川 貴海	西浜 SLSC
2	永石 哲朗	パディ冒険団
3	片山 雄起	柏崎 LSC

### ■ ビーチフラッグス(小学生5・6年生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	山下 晏路	葉山ニッパース
2	内堀 夏怜	西浜 SLSC
3	松本 桃子	西浜 SLSC

### ■ ビーチフラッグス(中学生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	深作 萌	ヒラッパース
2	吉本 綾乃	湯河原 LSC
3	市川 歩実	西浜 SLSC

### ■ ボードレース(小学生5・6年生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	松本 桃子	西浜 SLSC
2	内堀 夏怜	西浜 SLSC
3	河田 楓菜	西浜 SLSC

### ■ ボードレース(中学生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	上野 真凜	西浜 SLSC
2	吉本 綾乃	湯河原 LSC
3	森川 汐音	西浜 SLSC

### ■ ランスイムラン(小学生5・6年生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	松本 桃子	西浜 SLSC
2	河田 楓菜	西浜 SLSC
3	内堀 夏怜	西浜 SLSC

### ■ ランスイムラン(中学生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	上野 真凜	西浜 SLSC
2	前川 紗楓	柏崎 LSC
3	長谷川世里香	成城学園 LSC

## チーム種目

### ■ スイムリレー(小学生の部)

順位	チーム名
1	西浜 SLSC
2	サンセットビーチ LSC
3	盛岡 LSC

### ■ スイムリレー(中学生の部)

順位	チーム名
1	西浜 SLSC
2	柏崎 LSC
3	成城学園 LSC

# ▶ 第26回 全日本学生ライフセービング選手権大会

開催日: 2011年9月23日(金祝)・24日(土) 場所: 内海海岸(愛知県南知多町) 参加数: 46チーム632名

## 個人種目

### 男子

#### ■ オーシャンマン/オーシャンウーマン

順位	選手名	チーム名
1	森田 一輝	青山学院大学
2	相島 千尋	早稲田大学
3	菊池 光	日本大学
4	加藤 凌	早稲田大学
5	楠本 慶明	国際武道大学
6	三木 翔平	神奈川大学
7	下平 亮輔	成城学園
8	石川 直人	神奈川大学

### 女子

順位	選手名	チーム名
1	森山 瞳	青山学院大学
2	河崎 綾子	東海大学湘南校舎
3	佐伯 芽維	日本体育大学
4	宮田 沙依	日本体育大学
5	水間 菜愉	国際武道大学
6	藤井 香織	神奈川大学
7	上村 真央	拓殖大学
8	名須川紗綾	文教大学

#### ■ サーフスキーレース

順位	選手名	チーム名
1	下平 亮輔	成城学園
2	三木 翔平	神奈川大学
3	相島 千尋	早稲田大学
4	楠本 慶明	国際武道大学
5	小山浩一郎	日本体育大学
6	高瀬 快	拓殖大学
7	北川 琢朗	成蹊大学
8	松井 茂樹	国土舘大学

順位	選手名	チーム名
1	森山 瞳	青山学院大学
2	伊藤みつる	国際武道大学
3	名須川紗綾	文教大学
4	河崎 綾子	東海大学湘南校舎
5	藤井 香織	神奈川大学
6	佐伯 芽維	日本体育大学
7	及川 舞	日本女子体育大学
8	上村 真央	拓殖大学

#### ■ サーフレース

順位	選手名	チーム名
1	菊地 光	日本大学
2	中本 直也	拓殖大学
3	清水 雅也	拓殖大学
4	丸橋 侑生	法政大学
5	楠本 慶明	国際武道大学
6	三上 耕平	日本大学
7	石川 直人	神奈川大学
8	堤 勇樹	順天堂大学

順位	選手名	チーム名
1	河崎 綾子	東海大学湘南校舎
2	三井結里花	日本大学
3	越中 万智	和洋女子大学
4	栗真 千里	日本体育大学
5	清水 友紀	日本大学
6	下山 愛由	日本体育大学
7	竹内 芽衣	早稲田大学
8	松枝 愛子	早稲田大学

#### ■ ビーチフラッグス

順位	選手名	チーム名
1	岡田 浩平	中京大学
2	竹澤 康輝	国際武道大学
3	星田 弘祐	日本体育大学
4	石井 大樹	日本大学
5	加藤 隆太	法政大学
6	安達 和也	流通経済大学
7	大嶋 康敬	東海大学湘南校舎
8	大森 修登	日本大学

順位	選手名	チーム名
1	藤浪 優希	国際武道大学
2	金坂 佳瑛	日本女子体育大学
3	秋川知恵子	茨城大学
4	高見 綾香	東京女子体育大学
5	枝本 千春	日本大学
6	古河 美穂	順天堂大学
7	喜多 薫	順天堂大学
8	槻田ちひろ	日本体育大学

#### ■ ビーチスプリント

順位	選手名	チーム名
1	岡田 浩平	中京大学
2	宮森 敬介	日本体育大学
3	岩井 大地	東海大学湘南校舎
4	小泉 寛高	日本体育大学
5	安達 和也	流通経済大学
6	中村 誠	国際武道大学
7	飯田 純一	流通経済大学
8	望月龍之介	順天堂大学

順位	選手名	チーム名
1	高橋 沙恵	順天堂大学
2	藤浪 優希	国際武道大学
3	岡原ゆきの	日本体育大学
4	山田 未来	日本体育大学
5	秋川知恵子	茨城大学
6	瀬尾 晴香	大阪体育大学
7	犬島 未歩	東京女子体育大学
8	大内 悠	東京女子体育大学

チーム種目

男子

■ ボードリレー

順位	チーム名
1	成城学園
2	国土館大学
3	早稲田大学
4	順天堂大学
5	国際武道大学
6	日本体育大学
7	日本大学
8	法政大学

■ オーシャンマンリレー / オーシャンウーマンリレー

順位	チーム名
1	早稲田大学
2	国際武道大学
3	日本体育大学
4	日本大学
5	国土館大学
6	東海大学湘南校舎
7	神奈川大学
8	流通経済大学

■ ボードレスキュー

順位	チーム名
1	神奈川大学
2	順天堂大学
3	国土館大学
4	成城学園
5	国際武道大学
6	日本体育大学
7	東海大学湘南校舎
8	専修大学

■ レスキューチューブレスキュー

順位	チーム名
1	流通経済大学
2	日本大学
3	拓殖大学
4	順天堂大学
5	日本体育大学
6	大阪体育大学
7	明治大学
8	

■ ビーチリレー

順位	チーム名
1	国際武道大学
2	日本体育大学
3	国土館大学
4	流通経済大学
5	法政大学
6	拓殖大学
7	
8	

■ 1km x 3ビーチランリレー

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	国土館大学
3	国際武道大学
4	順天堂大学
5	拓殖大学
6	法政大学
7	専修大学
8	明治大学

女子

順位	チーム名
1	国際武道大学
2	日本体育大学
3	日本大学
4	東京女子体育大学
5	順天堂大学
6	成城学園
7	東海大学湘南校舎
8	日本女子体育大学

順位	チーム名
1	国際武道大学
2	日本体育大学
3	日本女子体育大学
4	東海大学湘南校舎
5	東京女子体育大学
6	日本大学
7	早稲田大学
8	成城学園

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本大学
3	国際武道大学
4	東京女子体育大学
5	東海大学湘南校舎
6	日本女子体育大学
7	流通経済大学
8	神奈川大学

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本女子体育大学
3	東京女子体育大学
4	早稲田大学
5	東海大学湘南校舎
6	日本大学
7	国際武道大学
8	成城学園

順位	チーム名
1	順天堂大学
2	日本体育大学
3	東京女子体育大学
4	大阪体育大学
5	杏林大学
6	実践女子大学
7	拓殖大学
8	

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	順天堂大学
3	東京女子体育大学
4	日本女子体育大学
5	国際武道大学
6	成城学園
7	日本大学
8	専修大学

男子

■ CPRコンテスト(A評価/順不同)

チーム名
国際武道大学
順天堂大学
成城学園
筑波大学
東洋大学
新潟工科大学
日本大学
流通経済大学
早稲田大学

女子

チーム名
大阪体育大学
国際武道大学
順天堂大学
文教大学
流通経済大学

団体総合成績

男子

順位	チーム名	得点
1	国際武道大学	60
2	日本体育大学	58
3	日本大学	45
4	早稲田大学	40
5	国土館大学	36
6	拓殖大学	34
7	順天堂大学	32
8	成城学園	31
9	流通経済大学	31
10	神奈川大学	28
11	法政大学	22
12	中京大学	21
13	東海大学湘南校舎	18
14	青山学院大学	13
15	大阪体育大学	8
16	専修大学	8
16	明治大学	8
18	筑波大学	8
18	東洋大学	8
18	新潟工科大学	8
21	成蹊大学	7
22	愛知大学	5
22	茨城大学	5
22	杏林大学	5
22	神戸大学	5
22	國學院大學	5
22	玉川大学	5
22	中央大学	5
22	東海大学清水校舎	5
22	新潟医療福祉大学	5
22	福井県立大学	5
22	文教大学	5
22	立命館大学	5
34	大阪産業大学	2
34	神戸学院大学	2
34	千葉大学	2
34	帝京大学	2
34	東京健康科学専門学校	2
34	新潟産業大学	2
34	日本福祉大学	2
	札幌学院大学	0

女子

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	84
2	国際武道大学	62
3	東京女子体育大学	45
4	日本大学	41
5	順天堂大学	40
6	東海大学湘南校舎	40
7	日本女子体育大学	33
8	青山学院大学	18
9	大阪体育大学	16
10	茨城大学	15
11	文教大学	15
12	早稲田大学	15
13	神奈川大学	13
14	成城学園	13
15	流通経済大学	10
16	和洋女子大学	8
17	実践女子大学	8
18	拓殖大学	7
19	杏林大学	6
20	成蹊大学	5
20	園田学園女子大学	5
20	玉川大学	5
20	千葉大学	5
20	中京大学	5
20	筑波大学	5
20	東海大学清水校舎	5
20	東洋大学	5
20	福井県立大学	5
20	法政大学	5
20	明治大学	5
31	専修大学	3
32	国土館大学	2
32	帝京大学	2
32	日本福祉大学	2
34	東京海洋大学	2

# ▶ 第37回 全日本ライフセービング選手権大会

開催日:2011年10月8日(土)・9日(日)・10日(月祝) 場所:片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市) 参加数:58チーム1159名

## 個人種目

### 男子

#### ■ サーフレース

順位	選手名	チーム名
1	平井 康翔	湯河原ライフセービングクラブ
2	清水 雅也	拓殖大学ライフセービングクラブ
3	菊地 光	九十九里ライフセービングクラブ
4	石川 直人	九十九里ライフセービングクラブ
5	加藤 凌	波崎サーフライフセービングクラブ
6	中本 直也	拓殖大学ライフセービングクラブ
7	鈴木 陵平	館山サーフライフセービングクラブ
8	伊藤 俊輔	館山サーフライフセービングクラブ

### 女子

順位	選手名	チーム名
1	河崎 綾子	湯河原ライフセービングクラブ
2	越中 万智	九十九里ライフセービングクラブ
3	鈴木 聖美	九十九里ライフセービングクラブ
4	坂本佳凧子	西浜サーフライフセービングクラブ
5	毛利 邦	館山サーフライフセービングクラブ
6	三井結里花	九十九里ライフセービングクラブ
7	清水 友紀	九十九里ライフセービングクラブ
8	下山 愛由	岩井ライフセービングクラブ

#### ■ サーフスキーレース

順位	選手名	チーム名
1	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ
2	松沢 斉	下田ライフセービングクラブ
3	篠田 智哉	勝浦ライフセービングクラブ
4	池脇 良	下田ライフセービングクラブ
5	後関 裕輔	東京消防庁ライフセービングクラブ
6	山口 智史	下田ライフセービングクラブ
7	内田 直人	勝浦ライフセービングクラブ
8	出木谷啓太	九十九里ライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	岡野 彩	下田ライフセービングクラブ
2	伊藤みつる	勝浦ライフセービングクラブ
3	久保美沙代	和田浦ライフセービングクラブ
4	猪又 美佳	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
5	星野 有美	用宗ライフセービングクラブ
6	鈴木 郁蘭	新島ライフセービングクラブ
7	堀内 敦子	下田ライフセービングクラブ
8	小松崎あゆみ	下田ライフセービングクラブ

#### ■ ボードレース

順位	選手名	チーム名
1	小林 海	西浜サーフライフセービングクラブ
2	小出 大祐	東京消防庁ライフセービングクラブ
3	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
4	森田 一輝	波崎サーフライフセービングクラブ
5	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
6	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ
7	金子 悟	下田ライフセービングクラブ
8	我妻 敬亮	勝浦ライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	岡島 美汐	下田ライフセービングクラブ
2	水間 菜兪	勝浦ライフセービングクラブ
3	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
4	鈴木 郁蘭	新島ライフセービングクラブ
5	水間 菜登	勝浦ライフセービングクラブ
6	佐伯 芽維	白浜ライフセービングクラブ
7	宮田 沙依	飯岡ライフセービングクラブ
8	田中亜由美	和田浦ライフセービングクラブ

#### ■ オーシャンマン

順位	選手名	チーム名
1	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
2	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
3	森田 一輝	波崎サーフライフセービングクラブ
4	菊地 光	九十九里ライフセービングクラブ
5	三木 翔平	湯河原ライフセービングクラブ
6	相島 千尋	波崎サーフライフセービングクラブ
7	石川 直人	九十九里ライフセービングクラブ
8	坂本 陸	西浜サーフライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	三井結里花	九十九里ライフセービングクラブ
2	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
3	河崎 綾子	湯河原ライフセービングクラブ
4	名須川紗綾	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
5	毛利 邦	館山サーフライフセービングクラブ
6	佐伯 芽維	白浜ライフセービングクラブ
7	藤井 香織	横浜海の公園ライフセービングクラブ
8	上村 真央	拓殖大学ライフセービングクラブ

#### ■ ビーチフラッグス

順位	選手名	チーム名
(1)	Foster Morgan	Kurrawa Surf Life Saving Club
1	植木 将人	西浜サーフライフセービングクラブ
2	本多 辰也	東京消防庁ライフセービングクラブ
3	田中 翔太	勝浦ライフセービングクラブ
4	中村 誠	勝浦ライフセービングクラブ
5	佐々木啓允	相良サーフライフセービングクラブ
6	和田 賢一	式根島ライフセービングクラブ
7	竹澤 康輝	勝浦ライフセービングクラブ
8	大山 直樹	九十九里ライフセービングクラブ

オープン参加

順位	選手名	チーム名
1	遊佐 雅美	西浜サーフライフセービングクラブ
2	藤浪 優希	勝浦ライフセービングクラブ
3	藤原 梢	館山サーフライフセービングクラブ
4	小室 亜希	スポーツレックスライフセービングクラブ
5	渡嘉敷 萌	下田ライフセービングクラブ
6	金坂 佳瑛	新島ライフセービングクラブ
7	神戸 友美	西浜サーフライフセービングクラブ
8	高見 綾香	熱川ライフセービングクラブ



男子

■ ビーチスプリント

順位	選手名	チーム名
(1)	Foster Morgan	Kurawa Surf Life Saving Club
1	岡田 浩平	愛知ライフセービングクラブ
2	宮森 敬介	飯岡ライフセービングクラブ
3	森谷 絢太	鴨川ライフセービングクラブ
4	本多 辰也	東京消防庁ライフセービングクラブ
5	石井 雄大	白浜ライフセービングクラブ
6	三橋 公義	土肥ライフセービングクラブ
7	岩井 大地	湘南ひらつかライフセービングクラブ
8	小泉 寛高	飯岡ライフセービングクラブ

オープン参加

女子

順位	選手名	チーム名
1	高橋 沙恵	九十九里ライフセービングクラブ
2	藤浪 優希	勝浦ライフセービングクラブ
3	藤原 梢	館山サーフライフセービングクラブ
4	神戸 友美	西浜サーフライフセービングクラブ
5	遊佐 雅美	西浜サーフライフセービングクラブ
6	池田江里菜	下田ライフセービングクラブ
7	渡辺 夏海	土肥ライフセービングクラブ
8	小室 亜希	スポーツプレックスライフセービングクラブ

■ 2kmビーチラン

順位	選手名	チーム名
1	橋本 憲治	式根島ライフセービングクラブ
2	新 涼太	鹿嶋ライフガードチーム
3	笹本 和人	下田ライフセービングクラブ
4	神戸 浩樹	神津島ライフセービングクラブ
5	浅岡 紘季	大竹サーフライフセービングクラブ
6	鈴木友三郎	和田浦ライフセービングクラブ
7	三井田 駿	下田ライフセービングクラブ
8	宮崎 翔平	鴨川ライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	佐々木聡美	神津島ライフセービングクラブ
2	河本 桂奈	下田ライフセービングクラブ
3	松山 梨紗	西伊豆ライフセービングクラブ
4	岡本 伊代	館山サーフライフセービングクラブ
5	鈴木さゆり	下田ライフセービングクラブ
6	國武あかね	白浜ライフセービングクラブ
7	小林 亜美	九十九里ライフセービングクラブ
8	佐川恵美里	成城学園ライフセービングクラブ

チーム種目

■ レスキューチューブレスキュー

順位	チーム名
1	勝浦ライフセービングクラブ
2	拓殖大学ライフセービングクラブ
3	湯河原ライフセービングクラブ
4	柏崎ライフセービングクラブ
5	館山サーフライフセービングクラブ
6	西浜サーフライフセービングクラブ
7	波崎サーフライフセービングクラブ
8	岩井ライフセービングクラブ

■ ボードレスキュー

順位	チーム名
1	西浜サーフライフセービングクラブ
2	下田ライフセービングクラブ
3	新島ライフセービングクラブ
4	東京消防庁ライフセービングクラブ
5	九十九里ライフセービングクラブ
6	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
7	湯河原ライフセービングクラブ
8	館山サーフライフセービングクラブ

■ ビーチリレー

順位	チーム名
1	飯岡ライフセービングクラブ
2	白浜ライフセービングクラブ
3	鴨川ライフセービングクラブ
4	勝浦ライフセービングクラブ
5	湘南ひらつかライフセービングクラブ
6	下田ライフセービングクラブ
7	拓殖大学ライフセービングクラブ
8	東京消防庁ライフセービングクラブ

## チーム総合成績

### ■ 200m 障害物スイム

順位	チーム名	得点
1	勝浦ライフセービングクラブ	75
2	下田ライフセービングクラブ	74
3	西浜サーフライフセービングクラブ	73
4	九十九里ライフセービングクラブ	62
5	湯河原ライフセービングクラブ	51
6	東京消防庁ライフセービングクラブ	45
7	波崎サーフライフセービングクラブ	41
8	館山サーフライフセービングクラブ	35
9	飯岡ライフセービングクラブ	23
10	拓殖大学ライフセービングクラブ	22
11	白浜ライフセービングクラブ	22
12	新島ライフセービングクラブ	22
13	式根島ライフセービングクラブ	19
14	神津島ライフセービングクラブ	18
15	鴨川ライフセービングクラブ	18
16	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	18
17	鹿嶋ライフガードチーム	15
18	和田浦ライフセービングクラブ	15
19	愛知ライフセービングクラブ	13
20	土肥ライフセービングクラブ	13
21	西伊豆ライフセービングクラブ	11
22	湘南ひらつかライフセービングクラブ	11
23	柏崎ライフセービングクラブ	10
24	用宗ライフセービングクラブ	9
24	相良サーフライフセービングクラブ	9
24	大竹サーフライフセービングクラブ	9
27	スポーツブレックスライフセービングクラブ	8

順位	チーム名	得点
28	鎌倉ライフガード	8
29	横浜海の公園ライフセービングクラブ	7
30	熱川ライフセービングクラブ	6
30	成城学園ライフセービングクラブ	6
32	沼津ライフセービングクラブ	5
32	大洗サーフライフセービングクラブ	5
32	日本大学ライフセービングクラブ	5
32	銚子ライフセービングクラブ	5
32	大磯ライフセービングクラブ	5
32	御浜ライフセービングクラブ	5
32	小樽ライフセービングクラブ	5
32	大阪ライフセービングクラブ	5
32	三多摩ライフセービングクラブ	5
32	二宮ライフセービングクラブ	5
32	榛原ライフセービングクラブ	5
43	岩井ライフセービングクラブ	4
44	今井浜サーフライフセービングクラブ	2
44	辻堂ライフセービングクラブ	2
44	大阪体育大学ライフセービングクラブ	2
44	昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ	2
44	若狭和田ライフセービングクラブ	2
44	御宿ライフセービングクラブ	2
44	葉山ライフセービングクラブ	2
44	せんなん里海公園・淡輪ライフセービングクラブ	2
44	新宮ライフセービングクラブ	2
44	神戸ライフセービングクラブ	2

※同得点チームの順位は、各競技の上位入賞数の違いによる。

## CPRコンテスト結果

チーム番号	チーム名	評価	得点
13	鹿嶋ライフガードチーム	A	8
15	勝浦ライフセービングクラブ	A	8
16	鎌倉ライフガード	A	8
23	式根島ライフセービングクラブ	A	8
38	土肥ライフセービングクラブ	A	8
42	西浜サーフライフセービングクラブ	A	8
47	波崎サーフライフセービングクラブ	A	8

(A評価のみ掲載/チーム番号順)

# ▶ 第3回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会

開催日:2012年2月11日(土)・12日(日) 場所:古橋廣之進記念浜松市総合水泳場(静岡県浜松市) 参加数:39チーム560名

## 個人種目

### 男子

#### ■ 200m障害物スイム

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	菊地 光	日本大学	2:04.73
2	石川 直人	神奈川大学	2:06.39
3	佐口 太一	岐阜聖徳学園大学	2:11.06
4	中本 直也	拓殖大学	2:11.25
5	金丸 大将	早稲田大学	2:12.32
6	大出 旭	流通経済大学	2:13.09
7	矢内 健斗	日本大学	2:13.46
8	瀧川 隆史	東海大学湘南校舎	2:13.54

#### ■ 50mマネキンキャリー

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	中本 直也	拓殖大学	34.86
2	橋本 将吾	拓殖大学	35.29
3	佐藤光太郎	東海大学湘南校舎	36.35
4	楠本 慶明	国際武道大学	36.66
5	高岡 洋介	国士舘大学	37.48
6	秋葉 佳祐	専修大学	37.68
7	田家 友也	日本大学	37.87
8	松竹 賢太	日本体育大学	38.37

#### ■ 100mレスキューモデル

順位	選手名	チーム名	タイム
1	橋本 将吾	拓殖大学	1:11.98
2	園田 俊	流通経済大学	1:13.21
3	田家 友也	日本大学	1:15.27
4	松竹 賢太	日本体育大学	1:16.14
5	矢部翔太郎	東海大学湘南校舎	1:18.64
6	秋葉 佳祐	専修大学	1:19.88
7	瀬之口恭平	日本大学	1:20.12
8	坂上 友弥	玉川大学	1:21.61

#### ■ 100mマネキントウ・ウィズフィン

順位	選手名	チーム名	タイム
1	中野 達矢	日本体育大学	1:00.94
2	深野 裕輔	日本大学	1:02.28
3	飯田 純一	流通経済大学	1:02.44
4	吉野 一平	流通経済大学	1:02.90
5	深井 俊光	東海大学湘南校舎	1:02.95
6	堤 勇樹	順天堂大学	1:03.08
7	深田 祐希	大阪体育大学	1:03.23
8	西脇 圭彦	大阪体育大学	1:04.30

#### ■ 100mマネキンキャリー・ウィズフィン

順位	選手名	チーム名	タイム
1	菊地 光	日本大学	55.51
2	楠本 慶明	国際武道大学	56.07
3	田中 裕介	拓殖大学	57.97
4	多田 創一	玉川大学	59.15
5	大谷翔一郎	流通経済大学	59.77
6	深野 裕輔	日本大学	1:00.32
7	牧口 航平	新潟工科大学	1:00.56
8	井口 裕太	日本体育大学	1:02.12

### 女子

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	栗真 千里	日本体育大学	2:21.55
2	竹内 芽衣	早稲田大学	2:24.97
3	内藤由里恵	日本大学	2:26.13
4	下山 愛由	日本体育大学	2:26.71
5	平野 夏海	東海大学湘南校舎	2:27.44
6	清水 友紀	日本大学	2:28.03
7	三吉 菜月	大阪体育大学	2:29.58
8	越中 万智	和洋女子大学	2:30.22

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	佐伯 芽維	日本体育大学	40.61
大会新 2	名須川紗綾	文教大学	42.02
大会新 3	河崎 綾子	東海大学湘南校舎	42.78
4	本城 里華	日本体育大学	44.74
5	國東 瑞紀	日本女子体育大学	45.21
6	三川 彩綾	日本体育大学	47.22
7	仲 麻利	玉川大学	47.31
8	金坂 佳瑛	日本女子体育大学	47.35

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	三井結里花	日本大学	1:20.06
大会新 2	栗真 千里	日本体育大学	1:20.33
3	國東 瑞紀	日本女子体育大学	1:28.39
4	金坂 佳瑛	日本女子体育大学	1:29.77
5	平野 夏海	東海大学湘南校舎	1:29.86
6	情野 望	日本女子体育大学	1:30.23
7	三川 彩綾	日本体育大学	1:31.30
8	仲 麻利	玉川大学	1:32.42

順位	選手名	チーム名	タイム
1	水間 菜愉	国際武道大学	1:08.91
2	篠岡 桂子	東海大学湘南校舎	1:10.13
3	槻田ちひろ	日本体育大学	1:11.90
4	安藤 綾野	順天堂大学	1:12.10
5	兼田明日佳	中京大学	1:12.74
6	渡邊 来美	日本体育大学	1:13.14
7	馬瀬 佳奈	東京女子体育大学	1:13.36
8	上村 真央	拓殖大学	1:13.72

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	水間 菜登	国際武道大学	1:08.84
2	神村 美咲	日本女子体育大学	1:09.57
3	小林 夏実	日本体育大学	1:09.61
4	水間 菜愉	国際武道大学	1:10.26
5	我妻 瑞穂	東京女子体育大学	1:10.32
6	篠岡 桂子	東海大学湘南校舎	1:13.25
7	大塚 彩加	東海大学湘南校舎	1:13.79
8	鎌田 優	東京女子体育大学	1:13.99

男子

■ 200mスパークライセーバー

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新	1 清水 雅也	拓殖大学	2:28.35
大会新	2 岡田 悟	日本大学	2:29.06
大会新	3 加藤 凌	早稲田大学	2:29.42
	4 矢部翔太郎	東海大学湘南校舎	2:37.36
	5 名須川開渡	日本大学	2:39.20
	6 大出 旭	流通経済大学	2:42.03
	7 吉野 一平	流通経済大学	2:42.09
	8 矢内 健斗	日本大学	2:43.63

女子

順位	選手名	チーム名	タイム
	1 三井結里花	日本大学	2:38.36
	2 大淵真理子	日本女子体育大学	2:54.99
	3 宮田 沙依	日本体育大学	2:58.11
	4 上村 真央	拓殖大学	2:58.66
	5 藤井 香織	神奈川大学	3:02.66
	6 小出 絵未	東京女子体育大学	3:04.18
	7 兼田明日佳	中京大学	3:08.12
	8 松澤みづほ	日本女子体育大学	3:08.52

チーム

男子

■ 4×50m障害物リレー

順位	チーム名	タイム
	1 日本大学	1:47.62
	2 拓殖大学	1:48.60
	3 大阪体育大学	1:50.71
	4 早稲田大学	1:52.05
	5 東海大学湘南校舎	1:52.74
	6 日本体育大学	1:52.75
	7 流通経済大学	1:56.38
	8 国際武道大学	1:57.52

女子

順位	チーム名	タイム
大会新	1 日本体育大学	2:02.25
大会新	2 日本大学	2:04.05
	3 東海大学湘南校舎	2:05.76
	4 日本女子体育大学	2:06.22
	5 東京女子体育大学	2:11.58
	6 早稲田大学	2:14.48
	7 国際武道大学	2:18.98
	8 流通経済大学	2:24.68

■ 4×25mマネキンリレー

順位	チーム名	タイム
日本新	1 拓殖大学	1:19.06
	2 日本体育大学	1:24.53
	3 国際武道大学	1:28.43
	4 神奈川大学	1:35.14
	5 専修大学	1:42.60
	6 玉川大学	1:46.72
	日本大学	失格1泳者
	早稲田大学	失格1泳者

順位	チーム名	タイム
	1 東京女子体育大学	1:50.71
	2 日本女子体育大学	1:51.46
	3 東海大学湘南校舎	1:57.05
	4 流通経済大学	1:58.86
	5 早稲田大学	2:07.89
	6 大阪体育大学	2:12.38
	7 琉球大学	2:36.05
	拓殖大学	失格1泳者

■ 4×50mメドレーリレー

順位	チーム名	タイム
	1 大阪体育大学	1:41.15
	2 日本大学	1:41.41
	3 東海大学湘南校舎	1:41.42
	4 国土舘大学	1:42.97
	5 国際武道大学	1:43.97
	6 流通経済大学	1:46.29
	7 日本体育大学	1:47.08
	8 神奈川大学	1:50.36

順位	チーム名	タイム
	1 日本体育大学	1:56.20
	2 東海大学湘南校舎	1:56.26
	3 日本大学	1:57.21
	4 国際武道大学	2:00.88
	5 日本女子体育大学	2:01.63
	6 拓殖大学	2:05.68
	7 大阪体育大学	2:08.25
	8 順天堂大学	2:09.40

■ ラインスロー

順位	チーム名	タイム
	1 流通経済大学	12.14
	2 日本大学	13.40
	3 早稲田大学	19.02
	4 専修大学	21.52
	5 杏林大学	23.14
	6 拓殖大学	24.41
	7 中京大学	24.85
	8 順天堂大学	27.90

順位	チーム名	タイム
	1 日本体育大学	14.27
	2 東京女子体育大学	16.57
	3 大阪体育大学	23.52
	4 流通経済大学	31.14
	5 東海大学湘南校舎	31.42
	6 拓殖大学	33.27
	7 日本女子体育大学	35.85
	8 筑波大学	39.55

特別種目

■メドレーリレー

順位	チーム名	タイム
1	拓殖大学	1:38.40
2	日本大学	1:39.47
3	日本体育大学	1:42.02
4	大阪体育大学	1:42.05
5	国際武道大学	1:43.46
6	東海大学湘南校舎	1:43.67
7	国土館大学	1:44.26
8	順天堂大学	1:48.51

順位	チーム名	タイム
1	日本大学	1:53.27
2	東海大学湘南校舎	1:54.56
3	日本女子体育大学	1:56.24
4	東京女子体育大学	1:58.57
5	順天堂大学	2:01.01
6	国際武道大学	2:02.31
7	拓殖大学	2:06.90
	早稲田大学	失格1泳者

チーム総合成績

男子

順位	チーム名	得点
1	拓殖大学	61
2	日本大学	60
3	流通経済大学	33
4	日本体育大学	31
5	東海大学湘南校舎	27
6	国際武道大学	23
7	早稲田大学	21
8	専修大学	15
9	大阪体育大学	13
10	神奈川大学	12
11	玉川大学	9
12	岐阜聖徳学園大学	6
13	国土館大学	6
14	順天堂大学	5
15	杏林大学	4
16	中京大学	2
16	新潟工科大学	2
18	琉球大学	0
18	筑波大学	0
18	愛知大学	0
18	青山学院大学	0
18	茨城大学	0
18	工学院大学	0
18	成蹊大学	0
18	成城大学	0
18	帝京大学	0
18	東海大学清水校舎	0
18	東京健康科学専門学校	0
18	新潟産業大学	0
18	日大国際関係学部	0
18	日本福祉大学	0
18	法政大学	0
18	明治大学	0

女子

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	57
2	東海大学湘南校舎	47
3	日本女子体育大学	44
4	日本大学	37
5	東京女子体育大学	33
6	国際武道大学	21
7	早稲田大学	14
8	大阪体育大学	11
9	流通経済大学	11
10	拓殖大学	11
11	順天堂大学	9
12	文教大学	7
13	中京大学	6
14	神奈川大学	4
15	玉川大学	3
16	琉球大学	2
17	筑波大学	1
17	和洋女子大学	1
19	専修大学	0
19	国土館大学	0
19	杏林大学	0
19	茨城大学	0
19	実践女子大学	0
19	成蹊大学	0
19	成城大学	0
19	創価大学	0
19	帝京大学	0
19	東海大学清水校舎	0
19	日本福祉大学	0
19	法政大学	0



# ▶ 第21回 インターナショナルジャーマンカップ2011

開催日: 2011年11月25日(金)・26日(土)

(ヨーロッパプール競技選手権)

場 所: School of Sports of the German Forces (ドイツ・ウエストファーレン州ワーレンドルフ)

参加国: ドイツ、オーストラリア、イタリア、ニュージーランド、オランダ、ベルギー、ポーランド、スイス、イギリス、チェコ、日本

Place	VN	Team	pIndW	pRelW	pIndM	pRelM	pTOTAL
1.	4	Germany	14234.9	3619.1	14201.7	3646.1	35701.8
2.	1	Australia	14822.4	3324.8	13676.3	2896.1	34719.6
3.	5	Italy	14360.4	2748.2	14478.3	1914.2	33501.1
4.	7	Netherlands	13956.3	3568.1	11296.0	2594.1	31414.5
5.	8	New Zealand	13757.3	1837.8	13106.5	2004.9	30706.5
6.	2	Belgium	13422.4	1727.1	12072.9	3140.9	30363.3
7.	9	Poland	11575.7	2296.2	12854.0	2976.1	29702.0
8.	6	Japan	12891.1	1707.5	12340.2	2568.0	29506.8
9.	10	Switzerland	8943.2	2154.8	10724.7	2244.8	24067.5
10.	3	Czech Republic	8526.5	2074.4	10214.1	2144.7	22959.7
11.	11	United Kingdom	5318.8	95.0	12974.9	3555.9	21944.6

Place	VN	Team	pIndW	pRelW	pIndM	pRelM	pTOTAL
1.	24	DLRG LV Sachsen-Anhalt	13946.1	2746.0	13339.5	3003.2	33034.8
2.	26	DLRG LV Westfalen	13431.5	2516.1	13658.2	3081.5	32687.3
3.	25	DLRG LV Schleswig-Holstein	13052.9	3000.7	12568.9	2554.8	31177.3
4.	17	DLRG LV Hessen	12203.4	2314.9	11456.5	2685.7	28660.5
5.	27	DLRG LV Württemberg	11535.4	2518.2	11524.6	2693.7	28271.9
6.	19	DLRG LV Niedersachsen	11637.2	2175.0	10905.8	2698.7	27416.7
7.	12	DLRG LV Baden	11231.5	1520.4	12075.7	2348.5	27176.1
8.	21	DLRG LV Rheinland-Pfalz	10887.3	2275.0	11092.2	2388.8	26643.3
9.	15	DLRG LV Brandenburg	9168.4	2458.9	12375.8	2478.6	26481.7
10.	20	DLRG LV Nordrhein	11090.6	2153.0	10896.3	2205.9	26345.8
11.	18	DLRG LV Mecklenburg-Vorpommern	8168.6	189.6	13556.8	2892.8	24807.8
12.	16	DLRG LV Hamburg	10166.4	1945.5	10422.4	1347.3	23881.6
13.	14	DLRG LV Berlin	7961.6	2246.1	9601.6	2434.0	22243.3
14.	13	DLRG LV Bayern	9204.3	1792.7	9124.9	1923.0	22044.9
15.	23	DLRG LV Sachsen	3515.9	0.0	10972.7	2247.8	16736.4
16.	40	DLRG Juniorenteam LV Westfalen	6248.2	0.0	6381.3	0.0	12629.5
17.	28	DLRG Juniorenteam LV Baden	4781.2	0.0	5097.8	0.0	9879.0
18.	36	DLRG Juniorenteam LV Rheinland-Pfalz	5163.9	0.0	4445.8	0.0	9609.7
19.	34	DLRG Juniorenteam LV Niedersachsen	4236.3	0.0	4524.6	0.0	8760.9
20.	38	DLRG Juniorenteam LV Sachsen-Anhalt	2976.0	0.0	5711.5	0.0	8687.5
21.	41	DLRG Juniorenteam LV Württemberg	4968.1	0.0	3085.4	0.0	8053.5
22.	31	DLRG Juniorenteam LV Hamburg	5226.2	0.0	2137.4	0.0	7363.6
23.	30	DLRG Juniorenteam LV Brandenburg	2309.8	0.0	3719.0	0.0	6028.8
24.	22	DLRG LV Saar	2959.3	0.0	2880.2	0.0	5839.5
25.	35	DLRG Juniorenteam LV Nordrhein	3382.1	0.0	2202.2	0.0	5584.3
26.	39	DLRG Juniorenteam LV Schleswig-Holstein	2843.3	0.0	2484.5	0.0	5327.8
27.	33	DLRG Juniorenteam LV Mecklenburg-Vorpommern	4727.1	0.0	0.0	0.0	4727.1
28.	37	DLRG Juniorenteam LV Saar	0.0	0.0	2625.7	0.0	2625.7
29.	32	DLRG Juniorenteam LV Hessen	2583.6	0.0	0.0	0.0	2583.6
30.	29	DLRG Juniorenteam LV Bayern	0.0	0.0	1404.5	0.0	1404.5

各種目リザルト

男子

種目	氏名	タイム	順位
200m障害物スイム	菊池 光	2.04.53	10
	鈴木 陵平	2.05.63	11
	坂本 陸	2.11.04	26
50mマネキンキャンリー	清水 雅也	32.34	14
	鈴木 陵平	34.70	38
	菊池 光	35.40	47
	坂本 陸	35.71	DQ
	長竹 康介	37.40	68
	鈴木 陵平	1.00.09	31
100mマネキントウ・ウィズフィン	清水 雅也	1.03.16	61
	長竹 康介	1.03.39	64
	菊池 光	1.03.54	66
	坂本 陸	1.07.63	96
	清水 雅也	56.40	DQ
100mマネキンキャリー・ウィズフィン	鈴木 陵平	58.80	54
	長竹 康介	59.57	59
	菊池 光	1.00.04	60
	坂本 陸	1.04.90	93
100mレスキューメドレー	清水 雅也	1.07.42	9
200mスーパーライフセーバー	清水 雅也	2.31.64	36
	菊池 光	2.33.44	44
	長竹 康介	2.34.56	46
	鈴木 陵平	2.36.56	DQ
	坂本 陸	2.38.85	58
4×50m障害物リレー	鈴木 陵平	1.45.19 5	5
	菊池 光		
	坂本 陸		
	清水 雅也		
4×25mマネキンリレー	鈴木 陵平	1.20.53	7
	菊池 光		
	長竹 康介		
	清水 雅也		
4×50mメドレーリレー	鈴木 陵平	1.37.22	7
	長竹 康介		
	菊池 光		
	清水 雅也		
ラインスロー	長竹 康介	DNF	
	菊池 光		

女子

総合成績 8位 / 11カ国

種目	氏名	タイム	順位
200m障害物スイム	坂本佳凧子	2.18.27	6
	三井結里花	2.25.84	15
50mマネキンキャンリー	毛利 邦	37.96	10
	三井結里花	38.94	18
	佐伯 芽維	40.50	29
	水間 菜登	41.62	37
	坂本佳凧子	42.38	43
	毛利 邦	1.08.65	DQ
100mマネキントウ・ウィズフィン	水間 菜登	1.09.82	40
	三井結里花	1.12.43	67
	佐伯 芽維	1.15.94	92
	坂本佳凧子	1.16.34	93
100mマネキンキャリー・ウィズフィン	毛利 邦	1.08.60	43
	佐伯 芽維	1.09.89	DQ
	水間 菜登	1.12.07	66
	坂本佳凧子	1.15.80	75
100mレスキューメドレー	三井結里花	1.17.74	8
	毛利 邦	1.21.71	17
	佐伯 芽維	1.23.78	22
200mスーパーライフセーバー	三井結里花	2.42.50	20
	毛利 邦	2.47.83	33
	佐伯 芽維	2.48.02	34
	坂本佳凧子	2.50.59	41
	水間 菜登	2.55.85	51
4×50m障害物リレー	坂本佳凧子	2.02.86	6
	毛利 邦		
	三井結里花		
	水間 菜登		
4×25mマネキンリレー	毛利 邦	1.32.54	DQ
	水間 菜登		
	佐伯 芽維		
	三井結里花		
4×50mメドレーリレー	坂本佳凧子	1.52.29	8
	毛利 邦		
	三井結里花		
	水間 菜登		
ラインスロー	三井結里花	DNF	
	佐伯 芽維		

# 津波 Symposium

## 開催日時

2011年6月4日(土)

19:30-21:00

ホテル伊豆急

「ガーデンレストラン燦」にて

## 概要

### 開会挨拶

松本 貴行 (JLA教育部理事)

### 進行・まとめ

石川 仁憲 (JLA溺水事故防止委員長)

## パネリスト

小峯 力 (JLA理事長)

秋川知恵子 (大洗SLSC)

風間 隆宏 (西浜SLSC理事)

江田 邦明 (下田LSC理事長)

山本 利春 (JLA副理事長／勝浦LSC代表)

中見 隆男 (JLAスーパーバイザー)

### 閉会挨拶

泉田昌美 (JLAスポーツ担当理事)

## 参加人数

130名

## 開催目的

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波によって未曾有の被害が発生した。夏の海水浴場シーズンを目前に控え、ライフセーバーとしての各海水浴場における津波対策、津波警報発令時の行動は、緊急かつ重大な検討課題であった。そこで、「津波警報時のライフセーバーの基本原則と行動」、ならびに「各海水浴場における具体的な津波対策」について議論を行うことを目的として『JLA津波シンポジウム』を開催した。



パネリスト



開会挨拶する松本理事



## 各パネリスト発表要旨

### (1) 話題提供

#### 石川 仁憲 (JLA溺水事故防止委員長)

話題提供として、東北地方太平洋沖地震による津波被害の概要、現在想定されている津波及び対策状況などについて発表。

- 東北地方太平洋沖地震による津波被害の概要。現在想定されている津波高さ及び到達時間。特に東海地震はいつ発生してもおかしくない状況。
- 津波に対する海岸の備えの現状について。重要沿岸域(東海地震、東南海・南海地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波被害が想定される沿岸域)では74%の海岸で想定津波より高い構造物

などが整備されている。しかし今回の被災状況をみると、部分的に低いところからの浸水、構造物自体が破壊されている状況もある。

- 津波に対する海岸の備えの現状について。重要沿岸域ではハザードマップに関しては、87%で作成されている。多くに海水浴場でハザードマップの確認が可能であるので確認してほしい。
- JLAでは、2005年(スマトラ沖地震津波後)海水浴場の津波対策の実態調査を実施。その結果、減災にむけて避難訓練など、ソフト対策を充実させる必要がある。(調査結果はJLA溺水事故防止委員会HPでダウンロード可能)
- JLAでは、さらに2011年に海水浴場の津波対策の実態調査を実施。自治体、消防、警察との連携や避難訓練の積極的な実施が必要なのが改めて課題であることが

分かった。(調査結果は、近日中のJLAHPで公表)

- 今回のシンポジウムでは主に以下の2点について議論したい。「津波警報時のライフセーバーの基本原則と行動」「各海水浴場における具体的な津波対策」

### (2) 津波災害の現場に立っての想い

#### 小峯 力(JLA理事長)

現地の写真を紹介しながら、被災地を訪れて感じた想いについての発表。

- 3月11日が、8月11日であったならば…との仮説を立て、震災直後の救急救命活動から復興支援への現地に立って感じたことを、被災地の写真と各エピソードとともに紹介。



進行・まとめ／石川委員長



小峯理事長

- 1人の人間をいかに救うかを30年考えてきたが、今回はそれが一度に2万回起きたということである。
- スターリンの言葉「One death is a tragedy, a million deaths are statistics. ひとつの死は悲劇だが、百万の死は統計に過ぎない」を引用し、以下のメッセージを参加者へ伝えた。救命の現地に立って感じたこと…たとえば、私の家族の誰かが死んだとき、その死は悲劇となる。しかし、今回の震災のように何万もの人が死んでしまった場合、遠くからそれを報道されているのを見ているのでは、ただ単に数字が変わっていく、いわゆる統計としか捉えることができない。しかし、その統計を構成しているのは、一つ一つの悲劇だということを私たちは知らなければならない。遺体安置所に置かれていた遺体一つひとつが悲劇なのだ。

その一人ひとりが亡くなったことで、死者数の3倍も4倍もの人がその死を嘆き、苦しんでいるのである。日本の復興のためにも、今後来るかもしれない大震災に備えるためにも、犠牲になった人の死を「統計」で終わらせてはいけな。今、できること。これからできること。忘れぬことである。

### (3) 各海水浴場等の話題

#### 秋川知恵子 (大洗SLSC)

大洗における津波被害状況、復興状況、クラブの津波対策について発表。

- 津波はいつくるか？→忘れたところにやってくる。
- 大洗では津波による被害者はゼロ（海岸線を中心に町全体の10%が

浸水)。地震発生当時、大洗海岸にはサーファーなど130人前後がいたが無事避難。その要因として、地形的特長、行政的的確な緊急避難命令、住民の高い安全意識が挙げられる。

- 行政の努力、住民の一体化によって非常に早い復興状況にある。
- 行政では海水浴場開設を決定。行政に対してクラブから6項目の海水浴開設条件を提示。
- 現在(2011/5/30)では大気・海水に関しては基準内。砂に関してはクラブ独自で採取し現在研究機関で調査中。
- クラブ員のよって避難経路の実地計測調査を実施。
- クラブでは、警報によって数万人を誘導しビーチクローズ(無人)にした経験から注意報・警報・大津波警報別に避難誘導方法を設定している。



パネリスト



秋川知恵子 (大洗SLSC)



- 自らの命を優先せよというのは言うまでもないが、ライフセーバーの役割は「遊泳客の安全」が最大の任務と考える。(たとえ避難が最後になろうとも…)
- このような状況だからこそLSの原点である「安全な水辺を楽しむ」ことが社会から求められている。浜辺に遊泳客がいる限り、我々はそこに立つ。

#### 風間 隆宏(西浜SLSC理事)

藤沢市で想定されている津波被害、クラブの津波対策について発表。

- 相模湾内での津波被害が想定される地震は、南関東地震と神奈川県西部地震。そのうち南関東地震の方が、津波が大きいと予想されている。ハザードマップは、南関東地震による津波被害をベースに作成されている。ハザードマップに

は津波避難ビルも明記されているが一部既になく含まれている(現在藤沢市で再指定中)。

- その想定によると引地川・境川沿いに津波が遡上し、浸水する恐れがあるが、海水浴場全面は階段護岸の上までは越えないとされている。
- そのような前提条件の中、クラブでは以下の2つの視点で津波対策を整理している。
  - ①クラブ員及びクラブ事業(ジュニアプログラムや講習会参加者など)への対応、
  - ②海水浴客への対応。
- ①に関しては、ジュニアプログラム再開時に避難訓練を実施。また連絡手段としてクラブのFACEBOOKアカウントを取得。津波注意報・警報・大津波警報別に避難経路の整理。詳細は西浜SLSCクラブHPを参照されたい。

- ②に関しては、現在行政機関(主に消防)と協議中。ピーク時10万人が訪れる西浜・東浜ではライフセーバーのみでの対応は不可能。公的救助機関といかに具体的な事前協議をしておくかが重要。現在はまだ協議中であるが、一つの案として、海から海水浴客を揚げるところまでは、ライフセーバー側がメインで行い、それ以降の避難誘導は消防・消防団な公的救助機関に引き継ぐことを検討している。
- ライフセーバーも基本的には、避難することを前提に考えている。

#### 江田 邦明(下田LSC理事長)

下田市で想定されている津波被害、クラブの津波対策について発表。

- 下田LSCでは、2004年のスマトラ沖地震津波発生を受けて対策委員会を設置し、①津波被害を記憶に



風間 隆宏(西浜SLSC理事)



江田 邦明(下田LSC理事長)



留める。②津波発生情報を目視で伝える表現方法を作成。

③ライフセーバー自身の行動の整理及び気持ちの整理を実施。

- 下田市と下田LSCが協力して津波発生を知らせる旗(赤白旗・U旗)を決定。各海岸に津波サインに関する看板を設置。
- 海水浴期間中の10時、12時、14時に助けてサインの案内と共に津波サインの案内を実施。
- 津波サインを掲出する条件、避難誘導する条件、ライフセーバーが避難する条件を整理済み。それらをまとめたマニュアルも既に作成済みであり、必要であれば提供可能。
- ライフセーバーの避難に関しては、高台に行くまで7分程度かかることから、3分間活動した後に避難するとしている。ライフセーバーは基本的に情報提供までが仕事と

捕らえている。

#### (4) 海水浴場および指導・教育の観点からの話題

山本 利春

(JLA副理事長／勝浦LSC代表)

大学ライフセービングクラブにおける震災後のライフセービング活動の観点からの発表。

- 震災後の海練習の再開判断。安全性に関する十分な情報収集(放射能汚染・余震による津波対策)を行うことがまず重要。
- その後、学生ライフセーバー本人(個別に)及び保護者の承諾を得てから再開した。また再開に際しては、海岸練習時の災害時緊急対応マニュアルを策定し、部員への伝達を徹底した。
- 海練習中の地震発生時の具体的な避難シミュレーション訓練を実施

した。例えば、陸からのホイッスルの音は聞こえるか? 拡声器の呼びかけは聞こえるか? シグナルフラッグは見えるか? 避難所に移動するための集合場所までの帰着時間(ボードの場合、スイムの場合、ランの場合)の確認なども実施し、安全な海練習エリアの妥当性の検討を行った。

- 実際に災害時の避難を想定して行うことにより、多くの発見があった。それを部員みんなで共有し、具体的データに基づいて納得して練習時のルールを決めていくことができたことに大きな意義がある。
- 今後も勝浦市との連絡を密にしながら、定期的な海水の水質検査をお願いするとともに、夏の海水浴開設期間時の災害時緊急対応マニュアルを検討していく。



山本 利春 (JLA副理事長／勝浦LSC代表)



パネリスト

## 中見 隆男 (JLAスーパーバイザー)

長年、大学(東海大学海洋学部)においてライフセービングの指導に当たってきた観点からの発表。

神戸の震災後、大学内に災害救援ボランティアチーム(KONA)を結成し、様々な活動を行った。例えば、地区の防災訓練の参加や一般市民と学生を対象にした救急法の講習会を年間複数回実施するなど有事に備えた相互の交流を図った。

また自分達が行った研究成果を還元する為に、静岡市内の各小・中学校の児童・生徒を対象に理科実験の授業を通じて正しく地震・津波を理解させ、安全確保の確認を行わせた。現在は、活動の母体は海洋学部折戸学生会に移管され、大学の防災委員会や地震予知研究センターと連絡を密にした地震減災の為に対策活動となっている。現在年1回の授業中の避難訓練を海洋学部ライフセー

ビングクラブ(LOCO)は大学の指導の下で行っているが、災害対策は学内ばかりでなく地域に入り込んでいくことが重要である。静岡市清水区に生活の拠点を置く学生は、市民としての認識に立ち、アパートやマンションが地域から孤立しないよう避難訓練の会合や実施に際して積極的に参加する必要がある。更に地域のゴミの分別や下水清掃活動に参加するなどして顔が解る関係を構築していくことが重要である。一般的に学生ライフセーバーは、夏季の期間中に重点を置いて各市町村の海水浴場でライフセービング活動を行っているが、県の防災課や各市町村の商工観光課との海開き期間中の災害対応だけに終わって欲しくない。例えば東海大学生が所属している相良SLSCでは、海上保安部との合同訓練や小・中学校での安全教育活動を行っている。榛原LSCでは地元消防署との人命救助に関する意見交換を

行うことや、各種講習会々場としてクラブハウスの解放も行っている。沼津市戸田の御浜LSCは戸田の球技大会の手伝いに、沼津LSCは酒塚祭りへの協力を惜しまない。そして静岡市の用宗LSCは町内の餅つき大会や町内プールの開放等に学生が年間通して積極的に関わっている。これ等の地域に密着した活動こそが有事の際に大きな力と成り得る重要な鍵であると考えている。

## 会場からの意見

津波避難に関する看板、サインの統一的な規準作り(ISO)に向けて是非活動して行ってほしい。また一部マリンスポーツ団体では、沖合にいる人に津波の危険を知らせるオレンジフラッグを広めようという動きもある。JLAも津波対策に是非主体的に動いていただきたい。



中見 隆男 (JLAスーパーバイザー)





## シンポジウムで出された意見のまとめ

- 「海水浴場における津波対策」については、各パネリストから具体的な対策を発表によって、改めて行政・公的救助機関との連携、避難訓練の実施が必要であることが認識された。
- 「津波警報時におけるライフセーバーの基本的原則と行動」については、秋川氏から「海岸利用者（海水浴客）の安全を確保するため、ライフセーバーは最後まで避難誘導に努める。」というとても力強い発言があった。この考えは多くのライフセーバーが共感する発言である。一方、江田氏、風間氏からは、「ライフセーバー自身の安全を確保することも重要。」との発言があった。特に江田氏からは、「下田では3分間は誘導、その後、ライフセーバー自身も避難。」という具体的な行動を紹介があっ

た。また風間氏からは「ライフセーバーの役割と公的機関の役割を明確にした上での避難誘導が大切。例えば浜あげまではライフセーバー、陸上の避難誘導は行政など公的機関が主担当。」といった提案があった。

- このライフセーバーは「最後まで浜に残るべき」か、それとも「ある段階で避難するべき」という難しい選択について、中見スーパーバイザー、山本副理事長から「避難の効率化、迅速化が重要。」との発言があった。すなわち避難が効率かつ迅速であればライフセーバー自身の安全も確保できるという意味である。中見氏から「我々もこれから避難します！」というアナウンスを実施することも重要との提案もあった。さらに山本副理事長からは、「日本のライフセービングの現状は学生ライフセーバーが主体である。保護者から学

生を預かる立場としては、学生の安全確保が第一であり、「最後まで浜に残るべき」とは言えない」という現実的な問題提起があった。

- 最後に、小峯理事長から、「先人・歴史に学ぶべき。津波てんでんこ」という言葉がある。それは津波のときは、肉親構わずまず高台へ逃げろ。それによって自分自身は助かり他人を助けられなかったとしてもそれを非難しないという不文律である。それを踏まえると、まずは生きることが大事。ライフセーバーは、事前に十分な避難経路の確認など生き残るための予防対策（減災対策）を講じて、避難の模範となるべき」との発言があった。



詳細はJLA公式ホームページをご覧ください。  
<http://www.jla.gr.jp/2011/news20.htm>

# ライフセービング活動 ガイドライン

2011年6月  
日本ライフセービング協会

## 防災編 ～津波対策～

津波シンポジウム後、津波災害時の行動指針として発信しました。

想定される津波災害に対して、予防対策を事前に講じることは、災害時に適切な行動を行う上で非常に重要です。一方、想定を超える大津波の襲来が予想された際は、対策マニュアルやハザードマップに過度な依存はせず、状況<sup>\*</sup>に応じて臨機応変に判断することも必要です。その際は、海浜利用客を誘導しつつ、自らが率先避難者<sup>\*\*</sup> となって、直ちに安全な高台へ避難して下さい。

<sup>\*</sup>東日本大震災では、津波避難場所を大津波に襲われたケースや、防災無線が機能しなかった地域などがありました。

<sup>\*\*</sup>率先避難者とは…避難を呼びかけながら自ら率先してしかるべき避難経路へ避難誘導することで、正常化の偏見（ここは大丈夫だろう、自分は大丈夫だろう）により避難しない人の避難を促す役割を担う人のことをいう。

### 津波に対するライフセーバーの 基本原則

#### 日常的に予防対策を講じ、率先避難者となる

ライフセーバーは、津波に対して日常的に十分な予防対策（減災対策）を講じるとともに、津波警報時は避難の模範者となる。

### 津波に対するライフセーバーの 行動

#### 1. 自らの命を守る

ライフセーバーが、自ら予防対策を実施する。

#### 2. 海岸利用者と自らの命を守る

行政機関等とライフセーバーが協働して予防対策を実施する。

詳しくはJLA公式ホームページをご覧ください  
<http://www.jla.gr.jp/2011/news22/guideline.pdf>



# ライフセーリング活動 ガイドライン

## 1. 自らの命を守る

### ライフセーバーが自ら予防対策を実施する

ライフセーバーが自ら予防対策を事前に確認することで、まずは自らの命を守り、生き抜く能力(方法)を身につける。

#### (ア) 各市町村において活動している海水浴場が含まれる津波ハザードマップを確認

- ①確認項目としては、対象となっている地震(規模・発生確率など)、津波の浸水エリア、浸水高さ、津波到着予想時間、避難場所、避難経路など

#### (イ) 津波ハザードマップを基に、避難経路を確認

- ①ライフセーバー自ら避難場所まで避難する訓練を実施する。  
②海にいた場合、陸にいた場合など、状況の違いによる必要な避難時間等を確認しておく。  
【事例】勝浦LSC及び大洗LSCではライフセーバーによる詳細な避難訓練が実施されている。

#### (ウ) クラブ員等の安否確認手段の確認

- ①練習中や講習中などに津波が発生した場合、どこに避難したかなど安否確認が必要になる。その際の安否確認方法を共有しておく。  
【事例】西浜SLSCではFACEBOOKを用いた情報伝達を行っている。

## 2. 海岸利用者と自らの命を守る

### 行政機関等とライフセーバーが協働して予防対策を実施する

行政機関や地域の方々と協力し、速やかに情報を入手すると共に、臨機応変な判断から瞬時に海岸利用者へ周知しながら避難するなど、海岸利用者とライフセーバー自身の迅速かつ適切な避難を行うための能力(方法)を身につける。

#### (エ) 情報取得手段の確認

- ①現地では揺れを感じなくても津波が来襲する危険性もある。監視活動期間中に津波注意報・警報・大津波警報などの情報を監視期間中、海でどのような手段で取得するかを確認しておく。(例えば防災無線、防災メール、ラジオ・テレビなど。)

#### (オ) 判断基準の確立

- ①気象庁から発表される津波情報には、津波注意報・警報・大津波警報の3段階がある。その段階によって情報伝達方法、避難誘導方法を取り決めておく。  
【事例】大洗LSCでは、各段階別に津波注意報ではスイムエリアクローズ、警報・大津波警報ではビーチエリアクローズし高台へ非難など、ライフセーバーの行動指針が確立されている。

# ライフセービング活動 ガイドライン

## (カ) 情報伝達手段の確認

- ①津波警報などをいち早く海水浴客に伝える手段を確認しておく。通常防災無線や海水浴場の放送設備を用いるが、オンショア（海から陸に向かう風）の時は沖合まで放送が届かない場合がある。その場合、拡声器や笛などを用いてどこまで対応可能かを確認しておく。
- ②海岸利用者に避難時のアナウンスが周知されるように、日常的に避難誘導アナウンスを紹介する。
- ③ライフセーバーが放送をする場合、事前に放送原稿を準備しておく。放送に関しては、遊泳客を煽ることなく、落ち着いて行う必要がある。

【事例】下田LSCでは津波サイン（旗）について行政側と取り決めをして、津波警報等発令時に掲出するルールを確立している。また海水浴客への周知も毎日3回（10,12,14時）に放送で行い、看板も立てている。

## (キ) 避難誘導方法の確認

- ①ライフセーバーが、どこまで（空間的・時間的）避難誘導を行うか行政機関と確認しておく。基本的には自らの命を守ることが大前提であり、ライフセーバーが避難する場合は、放送などでその旨を伝え、避難するなどのルール作りをしておくことが望ましい。

【事例】下田LSCでは、避難場所（高台）への避難時間も考慮して、地震発生から3分を目処にライフセーバーも避難するとしている。

西浜SLSCでは、ライフセーバーは自身の安全確保をしながら、海に入っている海水浴客への情報伝達（基本的には浜から）を中心に行い、それ以降の避難誘導は消防・消防団など行政機関中心に実施すると、行政機関と確認している。

## (ク) 避難場所及び避難経路の確認

- ①ライフセーバーが、陸側の避難誘導を実施する場合、どのような経路を誘導するか確認しておく。
- ②海水浴客は素足の場合が多く、避難速度が遅いことも考えられる。その場合も十分考慮して避難誘導を行う。また地震によって避難経路が遮断される場合もある。そのため複数の避難経路を確保しておくことが望ましい。

## (ケ) ライフセーバーと公的救助機関の役割分担の確認

- ①情報伝達、避難誘導など公的救助機関とライフセーバーとの役割分担を明確にしておく。
- ②現在日本のライフセーバーは、公的身分保障が無い場合が多い。そのような状況の中、どこまでライフセーバーが実施するかは地域の実情に合わせて具体的に整理しておく。

## (コ) 上記の確認が出来た後、クラブ内で行動マニュアルの作成

- ①上記の確認をした後、津波避難に関する行動マニュアルを作成し、クラブ員へ周知徹底すると共に行政機関とも情報共有しておく。

【事例】下田LSCでは、クラブ内で地震津波対応計画を作成し、クラブ員で共有している。

## (サ) 行政機関と合同での避難訓練を実施

- ①海水浴期間中に可能であれば海水浴客も交えて、行政機関と合同で避難訓練を実施することが望ましい。実施後は問題点・課題などを話し合い、行動マニュアルなどに反映させる。

## (シ) 市町の行事などへの積極的な参加

地域の方々からの信頼を高めるため、パトロール以外に市町の活動に積極的に参加、協力し日常的にコミュニケーションを図る。

# メディア一覧

## ▶ 新聞

メディア	内容	掲載日
スポーツニッポン新聞社静岡版	全日本プール選手権・東海大 LOCO	4月15日
日本経済新聞社神奈川版	人物紹介・植木将人選手	5月11日
静岡新聞	マリンスポーツテクノロジー学会・小峯力理事長	5月30日
毎日新聞静岡版	マリンスポーツテクノロジー学会・小峯力理事長	5月30日
読売新聞静岡版	津波シンポジウム	6月6日
紀伊民報	オーシャンサーフチャレンジ 2011	6月21日
岩手日報	CPR体験・盛岡LSCジュニア	6月27日
毎日新聞広島版	人物紹介・広島LSC国木孝治代表	7月12日
岩手日報	がれき撤去活動・釜石LSC	8月17日
毎日新聞関西版	記者体験レポート・若狭和田LSC	8月19日
読売新聞千葉版	館山市感謝状・館山SLSC	8月20日
朝日新聞千葉版	館山市感謝状・館山SLSC	8月20日
房日新聞	館山市感謝状・館山SLSC	8月20日
千葉日報	館山市感謝状・館山SLSC	8月20日
中日新聞県内版	全日本学生選手権	9月24日
日体大スポーツ	全日本種目別選手権・日本体育大学LSC	9月25日
朝日新聞	全日本選手権	10月22日
岩手日報	LSキャラバン・東北支部設立準備委員会	11月28日
岩手日報	釜石LSC佐々木聡代表	11月25日
中日新聞知多版	知多半島観光振興情報	12月13日
市川よみうり	全日本選手権・越中万智選手	1月28日

## ▶ 雑誌／書籍

メディア	内容	掲載日
Sports よこはま	ライフセービング紹介・協力／横浜海の公園LSC	6月号
安全教育ニュース	ライフセーバーに学ぶ	7月18日号
じどうかん	安全コラム・佐藤文机子指導員	No.61
エクストリームプレス	クローズアップ・佐藤文机子指導員	Vol.2
ターザン	部位別トレーニング特集・西山俊選手	No591
MORE	ライフセービング紹介	11月号
Flair	帝京大学広報誌・帝京大学LSC	9月号
スイミングライフ	全日本プール選手権	8月号
もりおか広報	盛岡LSCジュニア	11月15日号
スイミングライフ	神奈川県プール選手権・千葉県選手権	2月号
スイミングライフ	全日本選手権	3月号
スイミングライフ	全日本学生選手権	1月号



日本経済新聞 2011年5月11日版



朝日新聞 2011年10月22日版



▶ TV

メディア	内容	掲載日
NHKおはよう日本	ニュース・三浦海岸LSC	7月4日
NHK大阪	ニュース・神戸LSC	8月2日
テレビ山口	特集・山口LSC	7月26日
日本テレビ	ニュース・三浦海岸LSC	8月2日
テレビ朝日	「陽はまた昇る」技術監修協力	8月11日
フジテレビ	「その顔がみてみたい」清水雅也選手	8月12日
千葉テレビ	全日本学生選手権・国際武道大学LSC	10月22日
出雲ケーブルテレビ	キララLSC	9月13日
岩手めんこいテレビ	盛岡LSCジュニア	12月8日
知多半島ケーブルネットワーク	全日本学生選手権	9月25日
テレビ東京	「アド街ック天国」国際武道大学LSC	2月25日

▶ ラジオ

メディア	内容	掲載日
J-WAVE 「HELLO WORLD」	ライフセービング特集・飯沼誠司選手、遊佐雅美選手	8月10日

注) 上記一覧は、JLA本部対応および各クラブからの報告に基づいたものです。



読売新聞 2011年6月6日版



経伊民報 2011年6月21日版



少年写真新聞 2011年7月18日版



毎日新聞 2011年8月18日版

# JLA ライフセービングアカデミー

日本ライフセービング協会 (JLA) は、水辺の事故防止のための実践活動として、ライフセービングの国内普及を目的に、1985年 Surf Life Saving Australia の協力のもと「ライフセービング講習会」BASIC SURF LIFESAVING コースとしてライフセーバーの資格認定事業をスタートした、前身の団体の意思と理念と資格制度を引き継いでいる。

これまで25年の歴史の中で任意団体の統合、JLA の設立から法人化の道を辿り、現在は国際ライフセービング連盟 (ILS) の日本代表機関となり、各種専門委員会 (救急蘇生委員会、溺水防止委員会、学術研究委

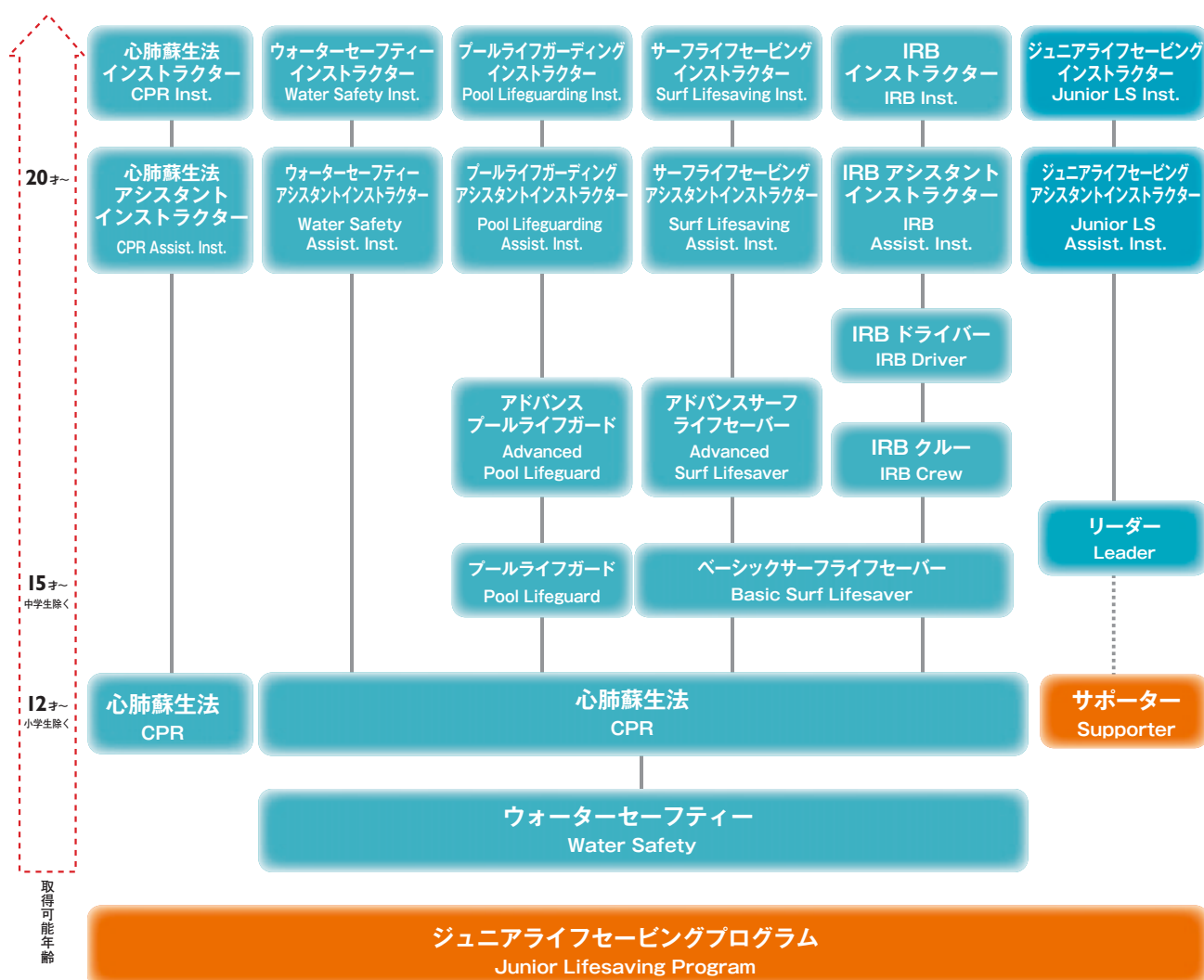
員会、コンディショニング科学委員会、指導委員会、ジュニア教育委員会ほか) が設置されたことも合わせて、JLA は名実共に、学術的な裏付けと国際的ネットワークをもつ国内唯一のライフセービング教育機関となった。

毎年多くのライフセーバーを育成し、300名の認定指導員により実施されている「JLA ライフセービング講習会」は JLA 事業の根幹となっているもので、JLA の生命線でもある。

水辺の事故防止だけに留まらない CPR 講習なども含め、さらなるライフセービングの普及・発展に寄与する事業として推進することを明確に

し、対外的にも JLA 会員と指導員にとっても、より威厳をもってイメージできるようにするため、指導的団体を意味し、学問・学芸の中心となる団体や機関の総称として使われている「アカデミー」という言葉を用いて、「JLA ライフセービング講習会」を2011年度より『JLA ACADEMY』という名称とするものである。

またこれまでの救助する側の資格だけでなく、自助 (セルフレスキュー) できる者を育てることで、JLA の大きな社会貢献事業として展開することは大きな進化である。





# パートナーシップ一覧

## ■ 日本財団

- ◇ライフセービング活動器材配備助成
- ◇ジュニア・ライフセービング活動支援助成

## ■ 独立行政法人日本スポーツ振興センター

- ◇ジュニア・ライフセービング競技会  
(スポーツ振興くじ助成事業)

## ■ 第一三共株式会社

- ◇全日本選手権大会 (特別協賛)

## ■ 森永製菓株式会社

- ◇監視救助等活動支援 (協賛)
- ◇ウイダー inゼリー全国提供 (協力)

## ■ 株式会社三洋物産／株式会社三洋販売

- ◇インターナショナルライフセービングカップ  
(特別協賛)
- ◇日本代表国際大会派遣支援 (協賛)
- ◇日本代表強化支援 (協賛)
- ◇日本代表強化指定大会支援 (協賛)

## ■ レールダル メディカル ジャパン株式会社

- ◇全日本選手権大会 (協賛)
- ◇全日本プール選手権大会 (協賛)
- ◇心肺蘇生法資格認定事業支援 (協力)

## ■ 株式会社オッシュマンズ・ジャパン

- ◇全日本選手権大会 (協賛)
- ◇全日本学生選手権大会 (協賛)

## ■ 株式会社ゴールドウイン

- ◇監視救助等活動支援 (協力)
- ◇日本代表国際大会派遣支援 (協力)

## ■ ミズノ株式会社

- ◇日本代表国際大会派遣支援 (協力)

## ■ 日本製粉株式会社

- ◇ジュニア・ライフセービング競技会 (協力)

## ■ クロックスジャパン合同会社

- ◇日本代表国際大会派遣支援 (協力)

## ■ 株式会社櫻井興業GUARD事業部

- ◇日本代表国際大会派遣支援 (協力)
- ◇全日本選手権大会 (協力)
- ◇全日本学生選手権大会 (協賛)

## ■ エジプト航空

- ◇日本代表国際大会派遣支援 (協力)

## ■ 株式会社日本航空

- ◇インターナショナルライフセービングカップ (協力)

## ■ サントリー食品株式会社

- ◇インターナショナルライフセービングカップ (協力)

## ■ 明石被服興業株式会社

- ◇安全関連商品認定支援 (協力)
- ◇ウォータースポーツプロジェクト支援 (協力)

## ■ 株式会社ポピンズ

- ◇キッズライフセービングプログラム共同開発 (協力)

## ■ 株式会社ビタミンiファクトリー

- ◇全日本種目別選手権大会 (協賛)

## ■ 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン

- ◇全日本選手権大会 (協賛)



明石被服興業株式会社



株式会社オッシュマンズ・ジャパン



株式会社コラボレーション



株式会社ゴールドウイン



株式会社櫻井興業 GUARD 事業部



サントリー食品インターナショナル株式会社



株式会社三洋物産  
株式会社三洋販売

力をあわせて、未来を守る  
ジャパンワクチン株式会社

ジャパンワクチン株式会社



Daiichi-Sankyo  
第一三共株式会社



株式会社デサント



日本財団



独立行政法人  
日本スポーツ振興センター



日本製粉  
日本製粉株式会社



株式会社  
フィリップスエレクトロニクスジャパン



株式会社ポピンズ



ミズノ株式会社



森永製菓株式会社



レールダル メディカル ジャパン株式会社

※五十音順

■ 参考文献

日本ライフセービング協会(編)  
「サーフライフセービング教本」大修館書店2009

日本ライフセービング協会(編)  
「心肺蘇生法教本」大修館書店2009

■ 発行

2012年5月26日発行  
特定非営利活動法人日本ライフセービング協会  
〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-18 トップビル  
TEL:03-3459-1445 FAX:03-3459-1446  
<http://www.jla.gr.jp>